

七尾市地域公共交通計画 (案)

令和5年 月

七尾市

— 目 次 —

1章 地域公共交通計画の概要	1
2章 上位関連計画.....	2
3章 地域特性.....	4
3-1 人口.....	4
3-2 施設分布.....	8
3-3 観光客の動向.....	9
3-4 高齢者の運転免許保有動向.....	9
3-5 日常移動状況.....	11
4章 公共交通の実態把握	25
4-1 市内の地域公共交通概況	25
4-2 鉄道の利用状況	29
4-3 路線バスの利用状況	33
4-4 コミュニティバスの利用状況.....	55
4-5 デマンド交通の現状	76
4-6 タクシーの利用状況	77
4-7 スクールバスの現況.....	78
4-8 運行事業者が抱える課題	80
4-9 地域公共交通にかかる市負担費用	81
5章 地域公共交通を取り巻く課題の整理.....	82
6章 基本方針・目標指標.....	83
6-1 基本方針	83
6-2 目標指標.....	86
7章 目標達成のための施策と事業.....	87
7-1 施策体系	87
7-2 取組み施策の内容	88
8章 計画の推進体制と進捗管理.....	97

1 章 地域公共交通計画の概要

(1)計画策定の目的

七尾市では、平成 29 年度に七尾市地域公共交通網形成計画を策定し、地域公共交通の利用促進や効率化に取り組んできました。しかし、人口減少と足並みを合わせるように公共交通利用者も減少しており、運行に係る経費も増大しています。まちづくりと一体となった持続可能な地域公共交通を再構築し、地域公共交通の再編と活性化を図るため、地域公共交通計画の策定を行います。

(2)計画の区域

七尾市全域

(3)計画の期間

令和 5 年度から令和 9 年度の 5 力年

2 章 上位関連計画

「七尾市地域公共交通計画」は、本市のまちづくりの総合指針である「第2次七尾市総合計画」(2019年度～2028年度)を上位計画とし、「七尾市都市マスタープラン」(2011年度策定、おおむね40年間の目標年次)と「第2期七尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2020年度～2024年度)と連携し、まちづくり施策と一体的かつ効果的に交通施策を推進します。

第2次七尾市総合計画	
計画期間	2019年度～2028年度
公共交通の位置づけ	VI. 安全で快適に暮らせる生活環境が整ったまち VI-5. 交通体系の充実 (3) 持続可能な公共交通ネットワークの形成 ① JR七尾線やのと鉄道の維持確保 ・交通事業者や関係機関と連携し、ダイヤや乗り継ぎなどの利便性の向上による利用促進を図り、鉄道の維持確保に努めます。 ② バス等地域公共交通網の構築 ・地域公共交通網の要である生活バス路線の存続・維持に努め、コミュニティバスやタクシー、デマンド交通や地域有償運送などの新しい交通手段との連携により、それぞれの地域の実情に応じた効率の良い公共交通網の構築を図ります。 ③ 誰も利用しやすい公共交通サービスの提供 ・高齢者や障害者などの地域の交通弱者に加え、観光客などの来訪者も利用しやすい公共交通サービスを提供し、利用者の確保を図ります。

七尾市都市マスタープラン	
計画期間	2011年度策定、おおむね40年間の目標年次
公共交通の位置づけ	③ 公共交通の政策展開方針 1) 鉄道の利便性向上、利用促進に向けた取組みの推進 ・駅へのアクセス性の向上、駅周辺における駐車場や駐輪場の確保、利用者のニーズに応じた運行ダイヤへ見直します。 ・七尾駅については、アクセス道路の整備、鉄道とバスの乗り継ぎの改善、中能登地域の玄関口にふさわしい景観づくりを図ります。 2) バスの利便性向上、利用促進に向けた取組みの推進 ・民間による路線バスと公共によるコミュニティバスの役割分担の明確化、市民のニーズに応じた運行ルートやダイヤの見直しを図ります。 3) 公共交通の利用促進に向けた取組みの推進 ・利用促進に向けたキャンペーン・PRの実施、乗り換えや賢い利用法に関する情報提供、地域の観光資源や行事などと連携したイベント列車を運行します。 4) 鉄道とバスの連携の強化 ・コミュニティバスと鉄道の接続改善、路線バスとコミュニティバス及びコミュニティバス相互の連携向上を図ります。 ・笠師保駅、田鶴浜駅での、コミュニティバスのバス停の新設 5) 公共交通空白地域の解消 ・公共交通空白地域におけるデマンドタクシーの実証運行を実施します。

第2期七尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略	
計画期間	2020年度～2024年度
公共交通の位置づけ	IV 安心な暮らしを守り、誰もが活躍できる地域社会をつくる (1)生活環境の充実 ② 道路網・公共交通網の充実 ・地域住民の移動手段を確保するとともに、市内における観光施設などの拠点を結ぶ公共交通網の構築を目指します。 ・効率性を重視した代替輸送や地域共助による輸送手段の構築を進めます。 【具体的な取組み】 ・地方バス路線の維持対策の推進

図表1 「七尾市都市マスタープラン」公共交通ネットワークの配置・整備方針の図



3章 地域特性

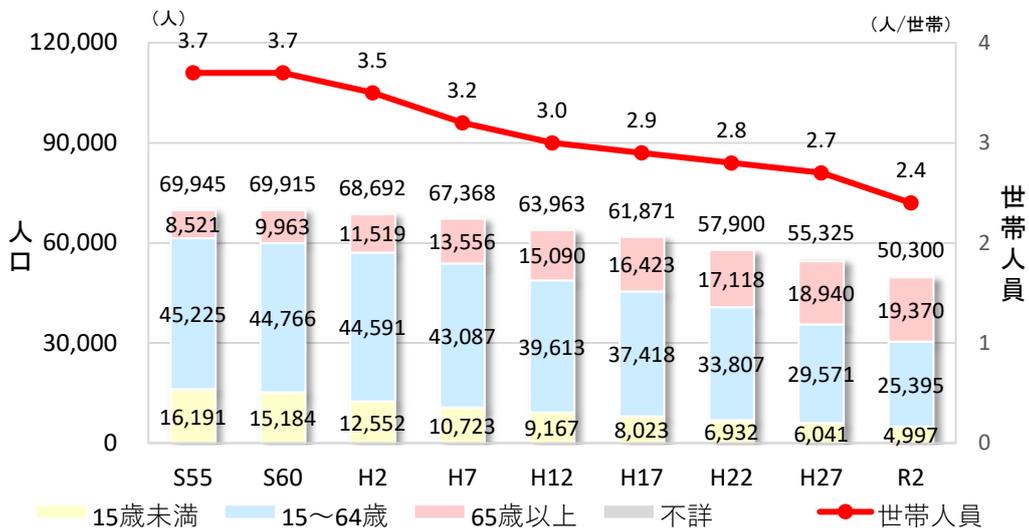
3-1 人口

(1)人口減少・少子高齢化の現況

人口減少・少子高齢化が進んでいます。

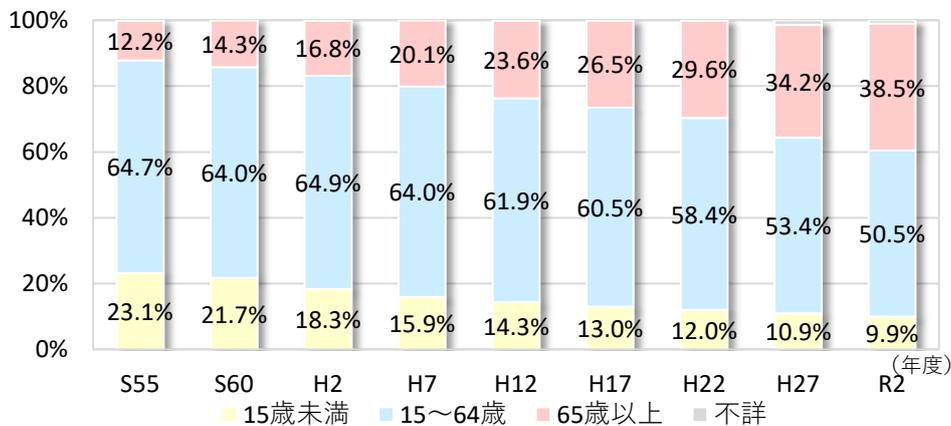
本市の総人口は減少傾向が続き、昭和55年から令和2年の40年間で約20,000人(約28%)が減少しました。特に年少人口と生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する傾向が長期的に続いており、少子高齢化が進んでいます。令和2年には、年少人口割合が9.9%、生産年齢人口が50.5%、老年人口割合が38.5%となっています。

図表2 七尾市の総人口・年齢3区分人口推移・世帯あたり人員



出典: 各年国勢調査結果

図表3 七尾市の年齢3区分人口比推移

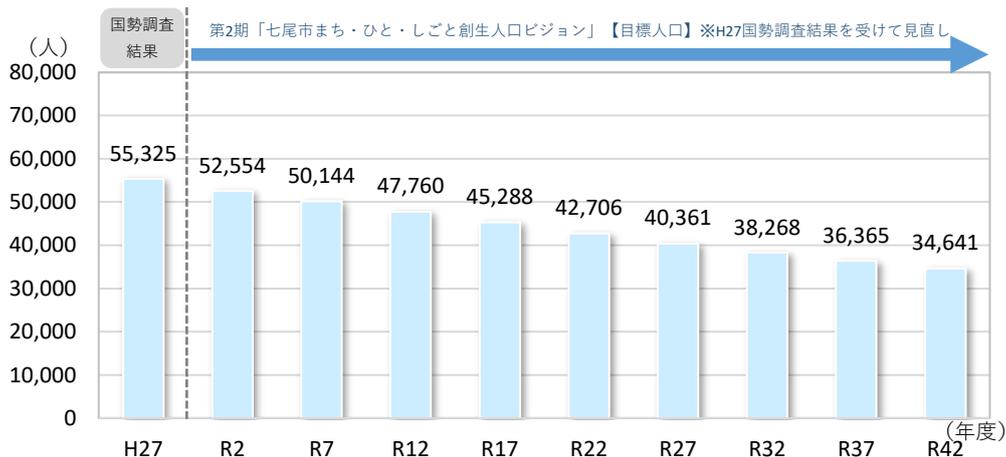


出典: 各年国勢調査結果

七尾市人口ビジョンにおける七尾市将来目標人口は、令和 42 年(2060 年)に 34,641 人となっています。令和 2 年から令和 12 年にかけて、約 4,800 人減少することが推測され、地域公共交通の利用者も減少することが予測されます。

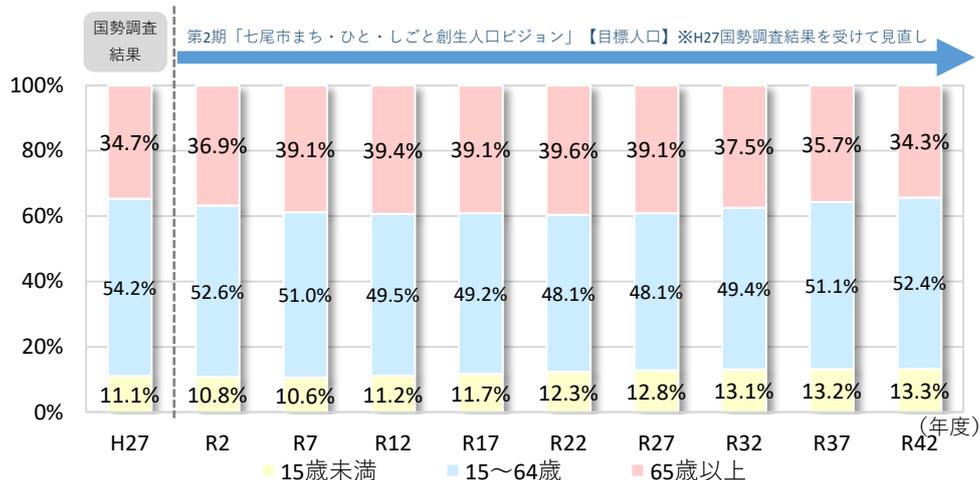
3 区分人口をみると、令和 42 年に年少人口(15 歳未満)の割合は 13.3%となり令和2年度の 10.8%から 2.5 ポイント増加、一方で、生産年齢人口(15~64 歳)の割合は 52.6%から 52.4%と 0.2 ポイント減少、高齢者(65 歳以上)の割合も 36.9%から 34.3%と 2.6 ポイント減少すると予測されます。

図表 4 七尾市将来目標人口推計



出典:七尾市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(H27 国勢調査結果をベースに見直し)

図表 5 七尾市将来目標人口の年齢 3 区分人口比推計



出典:七尾市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(H27 国勢調査結果をベースに見直し)

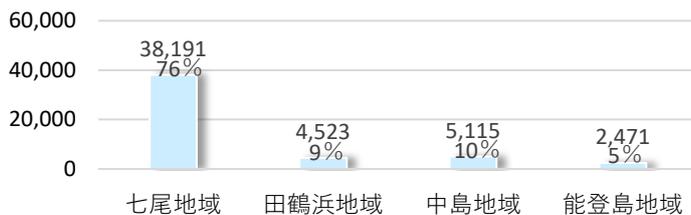
(2)地域・地区別人口

七尾地域に約 80%の人口が集中しています。

七尾地域に約 38,000 人が居住しており、七尾市の全体の人口の 76%を占めています。

全ての地区で人口が減少しており、市中心部、鉄道駅周辺以外では減少率が高い状況となっています。

図表 6 地域別人口(R2)



出典: R2 国勢調査結果

図表 7 地区別人口(H27・R2)

地区名	H27 (人)	R2 (人)	減少数 (人)	減少率 (%)
七尾市総数	55,325	50,300	-5,025	-9.08
七尾地域	41,756	38,191	-3,565	-8.54
袖ヶ江	2,472	2,284	-188	-7.61
御祓	2,765	2,431	-334	-12.08
徳田	5,465	5,060	-405	-7.41
矢田郷	12,725	11,628	-1,097	-8.62
東湊	3,505	3,352	-153	-4.37
西湊	4,318	4,040	-278	-6.44
石崎	3,349	2,978	-371	-11.08
和倉	3,072	2,904	-168	-5.47
南大呑	849	723	-126	-14.84
北大呑	1,031	847	-184	-17.85
崎山	1,110	964	-146	-13.15
高階	1,095	980	-115	-10.50
田鶴浜地域	5,024	4,523	-501	-9.97
端	711	555	-156	-21.94
田鶴浜	1,879	1,772	-107	-5.69
赤蔵	901	817	-84	-9.32
相馬	742	685	-57	-7.68
金ヶ崎	791	694	-97	-12.26
地区名	H27 (人)	R2 (人)	減少数 (人)	減少率 (%)
中島地域	5,820	5,115	-705	-12.11
西岸	1,035	928	-107	-10.34
鉦打	875	710	-165	-18.86
熊木	1,239	1,128	-111	-8.96
中島	945	846	-99	-10.48
豊川	970	820	-150	-15.46
笠師保	756	683	-73	-9.66
能登島地域	2,725	2,471	-254	-9.32
野崎	444	384	-60	-13.51
緩目	528	462	-66	-12.50
向田	821	722	-99	-12.06
西部	932	903	-29	-3.11

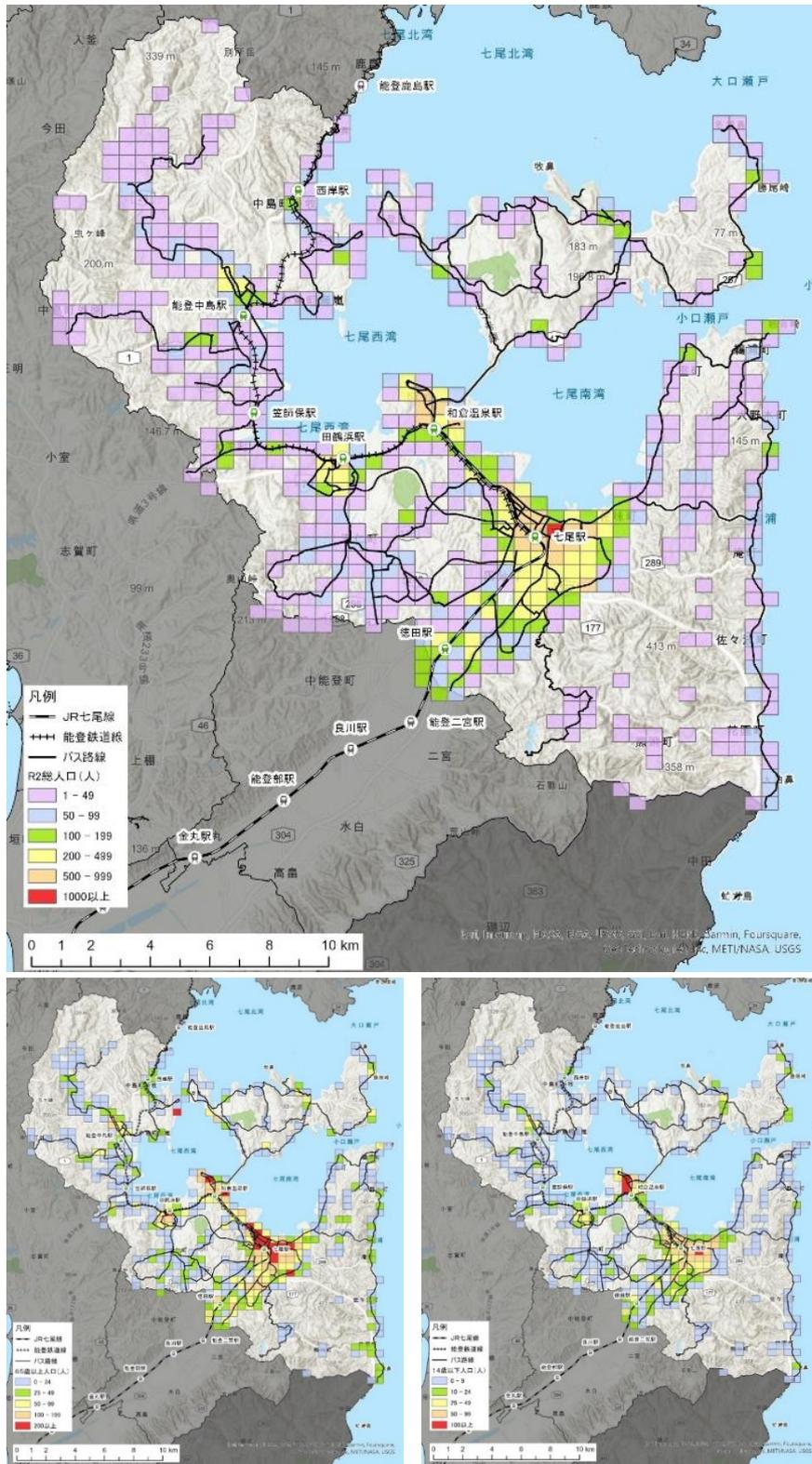
※ : 七尾市全域の減少率より高い地区

出典: 各年国勢調査結果

(3)地域メッシュ人口(500m メッシュ)

七尾駅、和倉温泉駅、田鶴浜駅周辺に人口が集中しています。同様に 65 歳以上人口、14 歳以下人口も、七尾駅、和倉温泉駅、田鶴浜駅周辺に人口が集中しています。

図表 8 メッシュ人口(上:総人口、左下:高齢者人口、右下:年少人口)

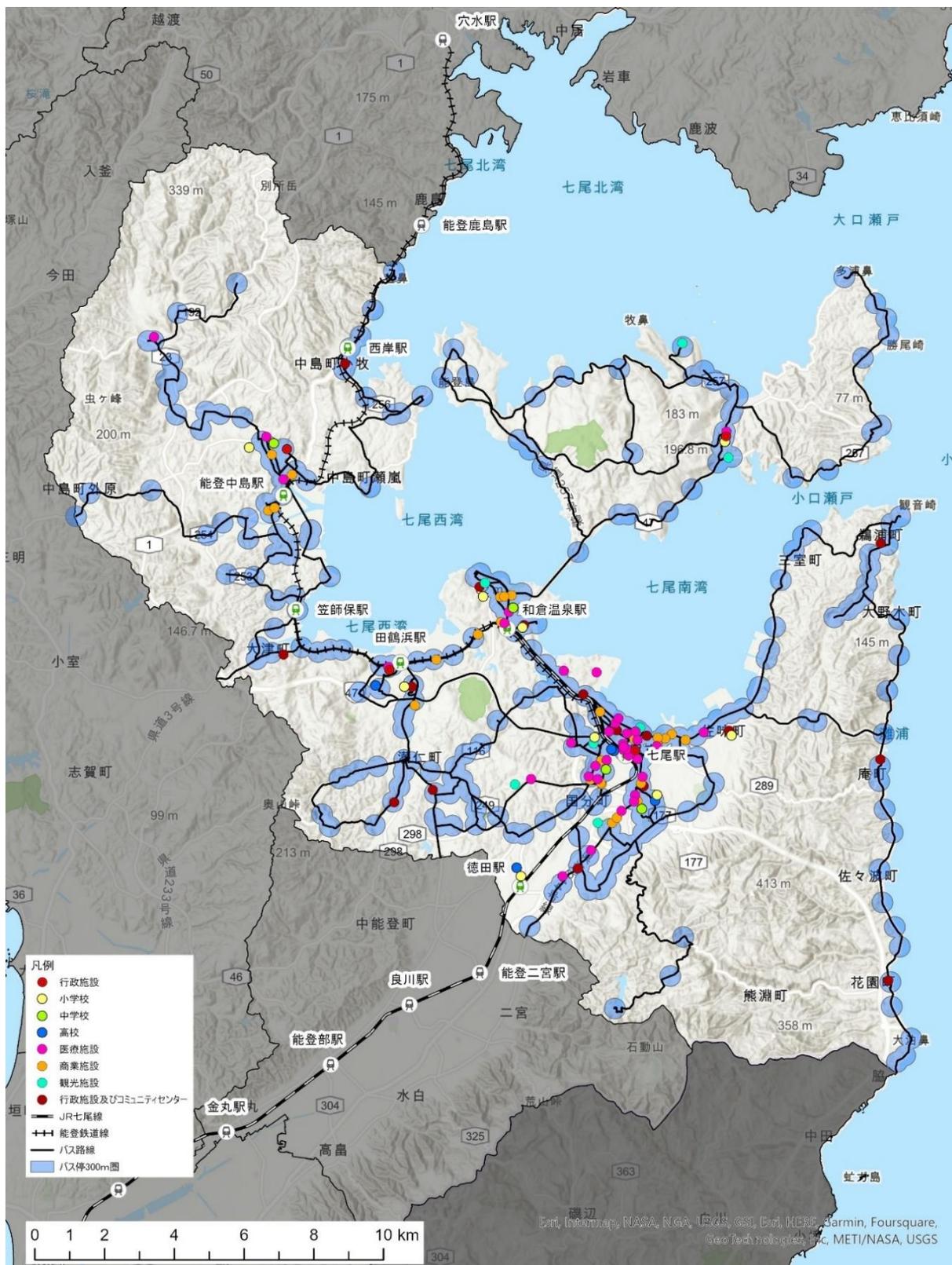


出典:R2 国勢調査結果

3-2 施設分布

バスは主要な道路沿いを運行し、市内の医療機関や福祉施設、集客施設などにおおむね接続しています。

図表 9 施設の分布



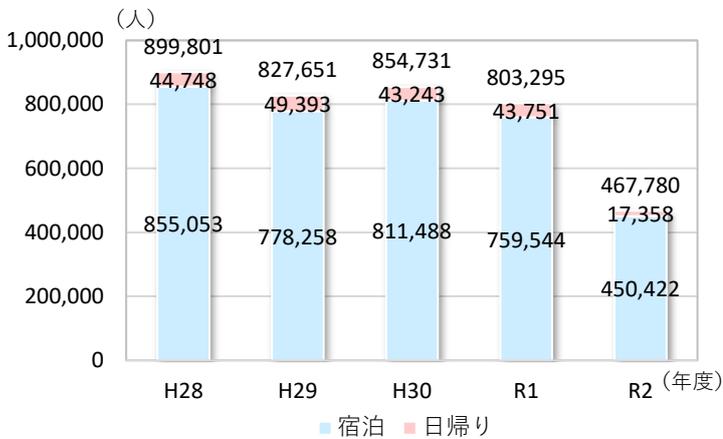
3-3 観光客の動向

和倉温泉と能登島地区の旅行客は緩やかな減少傾向でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、令和 2 年度は大きく減少しました。

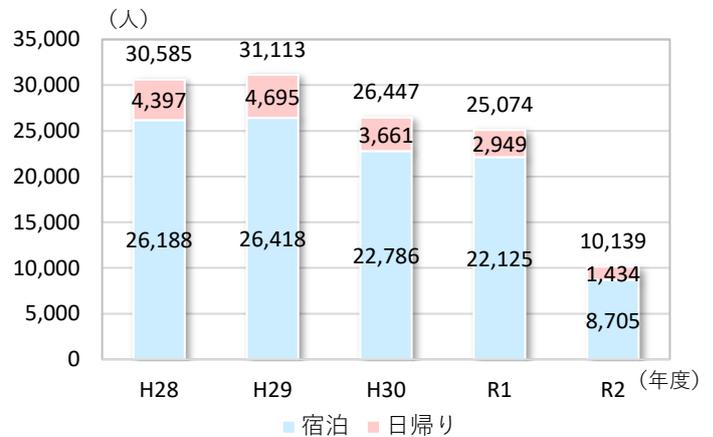
和倉温泉宿泊者数及び日帰り客数は緩やかな減少傾向でしたが、令和 2 年度に大きく減少して約 468,000 人となっています。平成 28 年度と比較して、約 432,000 人(48.0%)減少しています。

能登島地区宿泊施設宿泊者数及び日帰り客数は緩やかな減少傾向でしたが、令和 2 年度に大きく減少して約 10,000 人となっています。平成 28 年度と比較して、約 20,000 人(66.8%)減少しています。

図表 10 和倉温泉宿泊者数及び日帰り客数



図表 11 能登島地区宿泊施設宿泊者数及び日帰り客数



出典:七尾市統計書

3-4 高齢者の運転免許保有動向

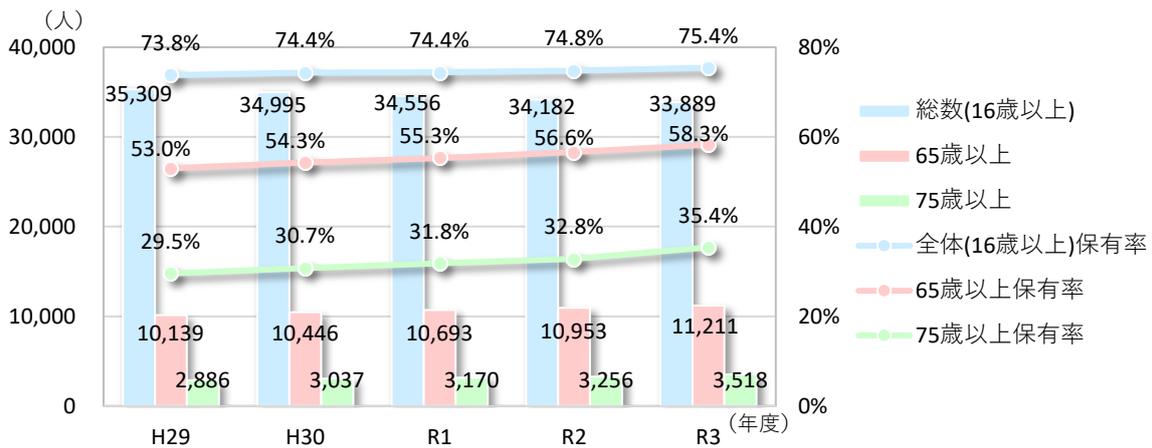
高齢者運転免許証自主返納支援事業の申請者は増加していますが、数は少なく、運転免許保有者数・保有率とも年々増加しています。

(1) 高齢者運転免許保有状況

市内の運転免許保有者数は緩やかに減少しており、令和 3 年度に 33,889 人と平成 29 年度に比べ 4.0%(1,420 人)減少となりますが、高齢者の免許保有者数は増加しており、65 歳以上は令和 3 年度に 11,211 人となり、平成 29 年度に比べ、10.6%(1,072 人)増加しており、75 歳以上は令和 3 年度に 3,518 人となり、平成 29 年度に比べ、21.9%(632 人)増加しています。

市全体の運転免許保有率は緩やかに増加しており、令和 3 年度に 75.4%となっています。高齢者の免許保有率も年々増加しており、令和 3 年度に 65 歳以上が 58.3%、75 歳以上が 35.4%となっています。

図表 12 運転免許保有者数・保有率(H29～R3)

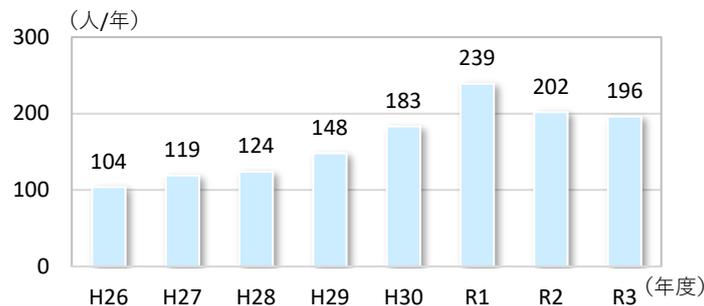


出典:【運転免許保有者数】石川県七尾警察署提供データ(各年12月末現在)
【人口】住民基本台帳:七尾市提供データ(各年12月末現在)

(2) 高齢者運転免許証自主返納支援事業申請状況

七尾市高齢者運転免許証自主返納支援事業申請者数の状況は、令和元年度まで増加傾向にあり、令和元年度は239人となっています。令和2年度以降はやや減少しており、令和3年度は196人となっています。

図表 13 七尾市高齢者運転免許証自主返納支援事業申請者推移(H26～R3)



出典:七尾市提供データ

○高齢者運転免許証自主返納支援補助の概要

【対象者】

運転免許返納時点において七尾市に在住する満70歳以上で全ての運転免許証を自主返納した人

【申請方法】

①石川県公安委員会(七尾警察署など)に、運転免許証の自主返納の申請をする

②その際に「運転免許証取消通知書」と「運転免許証のコピー」を受け取る

③七尾市役所1階総務課またはミナクル2階市民課で補助金申請を行う

〔必要書類〕…印鑑、振り込み先の通帳、運転免許証取消通知書の写し、返納した運転免許証の写し

※免許証を返納してから1年間以内に手続きを行う必要がある

【補助金額】

12,000円

出典:七尾市HP

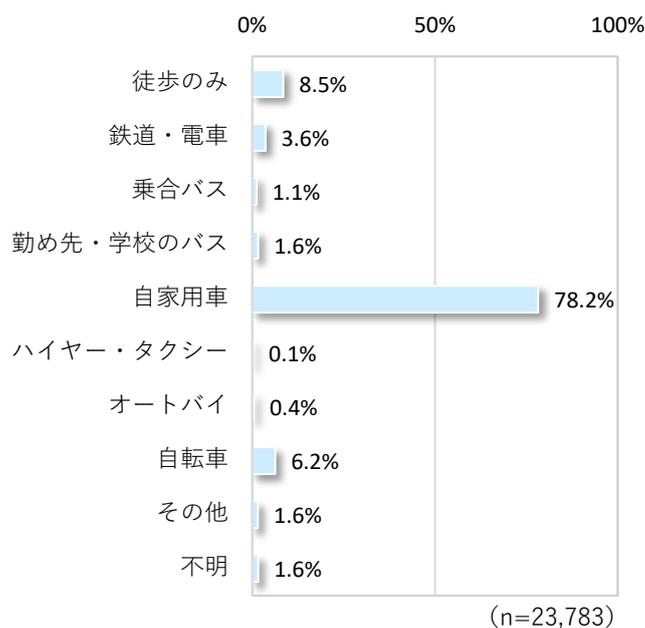
3-5 日常移動状況

(1)通勤・通学移動実態(国勢調査)

8割の方の通勤・通学先が七尾市内で、約8割の方が自動車を利用しています。

七尾市内に住む通勤・通学者の交通手段割合は「自家用車」が78.2%と最も多く、次いで「徒歩のみ」が8.5%、「自転車」が6.2%となっています。公共交通は(「鉄道・電車」(3.6%)、「乗合バス」(1.1%)、「ハイヤー・タクシー」(0.1%)計)で4.8%に留まっています。

図表 14 市内居住通勤・通学交通手段割合(R2)(複数回答可)

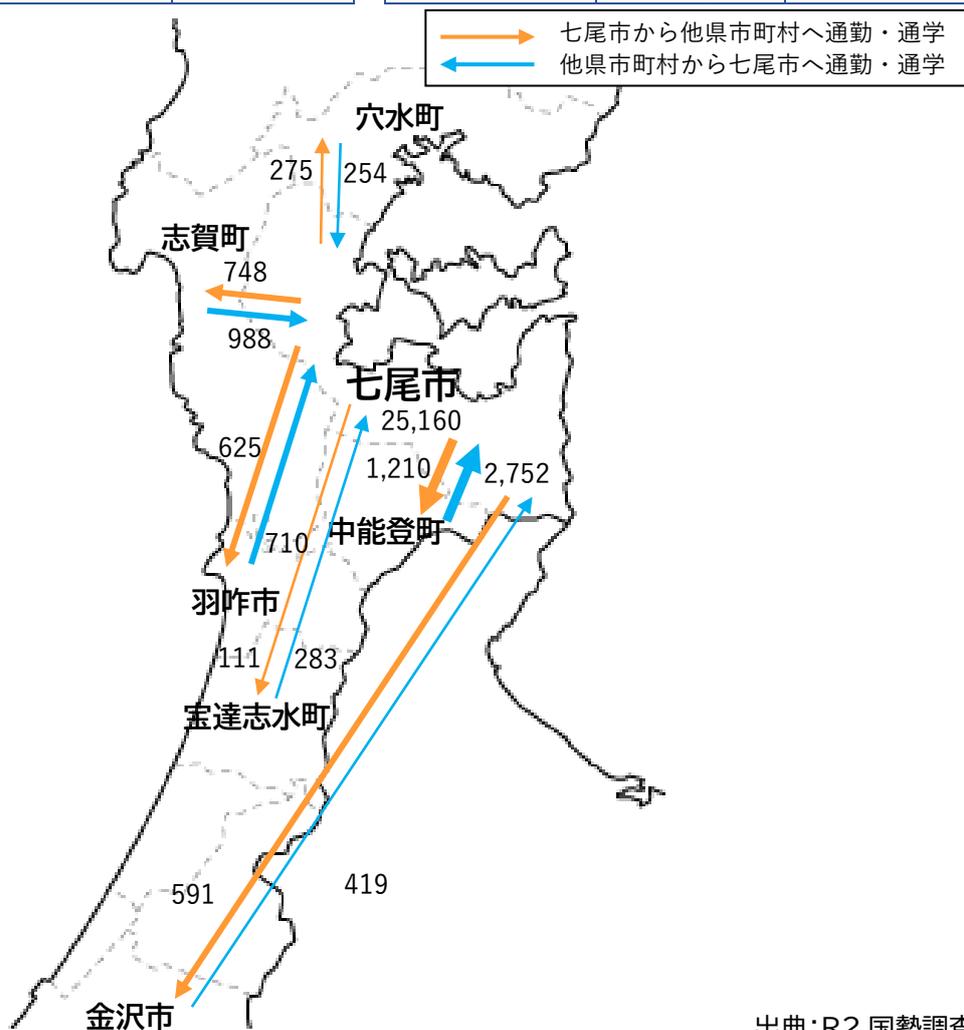


出典:R2 国勢調査結果

市内居住者の通勤・通学先は、七尾市内が 83.9%で、次いで中能登町が 4.0%、志賀町が 2.5%となっています。一方、市内への通勤・通学者の居住地は、七尾市内が 78.3%であり、次いで中能登町が 8.6%、志賀町が 3.1%となっています。

図表 15 通勤・通学における移動状況(R2)

	市内居住者の 通勤・通学先 (人)	市内居住者の 通勤・通学先 割合		市内への 通勤・通学者 の居住地(人)	市内への 通勤・通学者 の居住地 割合
七尾市	25,160	83.9%	七尾市	25,160	78.3%
金沢市	591	2.0%	金沢市	419	1.3%
羽咋市	625	2.1%	羽咋市	710	2.2%
志賀町	748	2.5%	志賀町	988	3.1%
宝達志水町	111	0.4%	宝達志水町	283	0.9%
中能登町	1,210	4.0%	中能登町	2,752	8.6%
穴水町	275	0.9%	穴水町	254	0.8%
その他	846	2.8%	その他	1,040	3.2%
不明	406	1.4%	不明	513	1.6%
七尾市に居住する通勤・通学者	29,972	—	七尾市に通勤・通学する人	32,119	—



出典：R2 国勢調査結果

(2)市民アンケート調査概要

調査目的	市民の移動実態、移動に関するニーズの把握
調査対象	七尾市民(16歳以上)
調査方法	郵送配布・郵送回収による回答
対象者数	2,000人
対象者の抽出	地区別に配布数を人口規模において配分し抽出(令和4年7月31日時点) ※無作為抽出
調査期間	調査票の配布 令和4年9月9日(金) 調査票の回収 令和4年9月26日(月)
配布・回収数	配布数 2,000票、回収数 857票、回収率 42.9%

(3)市民アンケート調査結果

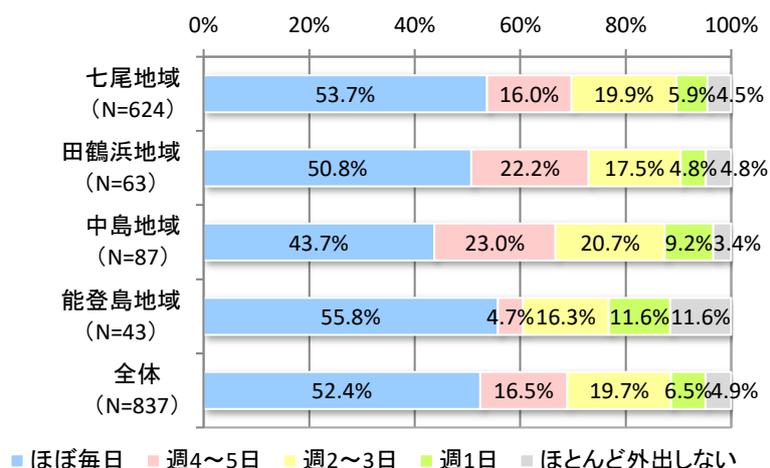
① 外出頻度

七尾市全体では週1日以上外出している方が約95%となっています。中島地域の外出頻度が高く、一方で能登島地域は低くなっています。

七尾市全体での1週間あたりの外出頻度は、「ほぼ毎日」が52.4%、「週4～5日」が16.5%、「週2～3日」が19.7%、「週1日」が6.5%であり、週1日以上外出している方が95.1%となっています。一方、「ほとんど外出しない」が4.9%を占めています。

地域別での1週間あたりの外出頻度は、どの地域も「ほぼ毎日」が最も多く約4～6割を占めます。「ほとんど外出しない」の割合をみると、「七尾地域」は4.5%、「田鶴浜地域」は4.8%、「中島地域」が3.4%と同程度となっていますが、「能登島地域」は11.6%であり、全体の4.9%に比べ6.7ポイント高くなっています。

図表 16 地域別1週間あたりの外出頻度



出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

② 主な交通手段

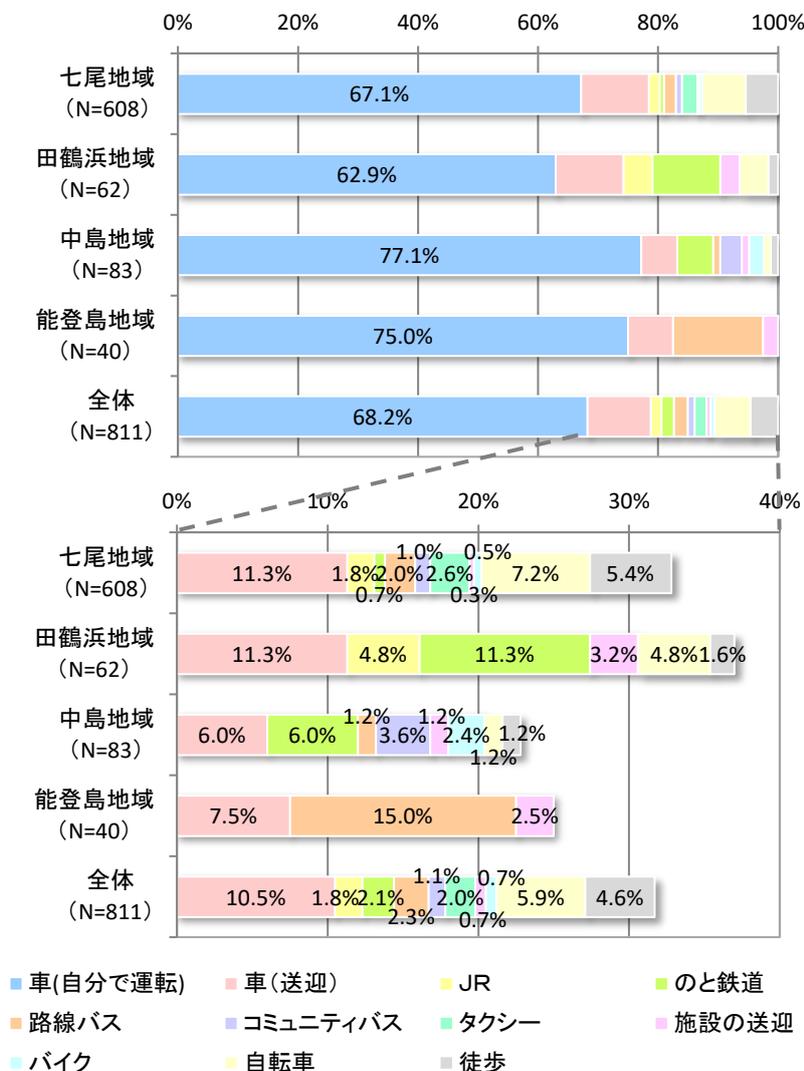
自分で車を運転する方が約 7 割を占めて最も多く、次いで車で送迎してもらう方が約 1 割を占めています。地域公共交通の割合は約 1 割と低くなっています。

地域によって主に利用する地域公共交通は異なり、七尾地域では「タクシー」、田鶴浜地域・中島地域では「のと鉄道」、能登島地域では「路線バス」が多く利用されています。

主な交通手段は、「車(自分で運転)」が 68.2%と最も多く、次いで「車(送迎)」が 10.5%、「自転車」が 5.9%、「徒歩」が 4.6%となっています。公共交通は 9.3%であり、「JR」が 1.8%、「のと鉄道」が 2.1%、「路線バス」が 2.3%、「コミュニティバス」が 1.1%、「タクシー」が 2.0%を占めています。

七尾地域の公共交通の割合は 8.1%で「タクシー」(2.6%)や「路線バス」(2.0%)が多く、田鶴浜地域の公共交通の割合は 16.1%で「のと鉄道」(11.3%)や「JR」(4.8%)が多く、中島地域の公共交通の割合は 10.8%で「のと鉄道」(6.0%)や「コミュニティバス」(3.6%)が多く、能登島地域の公共交通の割合は 15.0%で「路線バス」(15.0%)が多くなっています。

図表 17 地域別主な交通手段

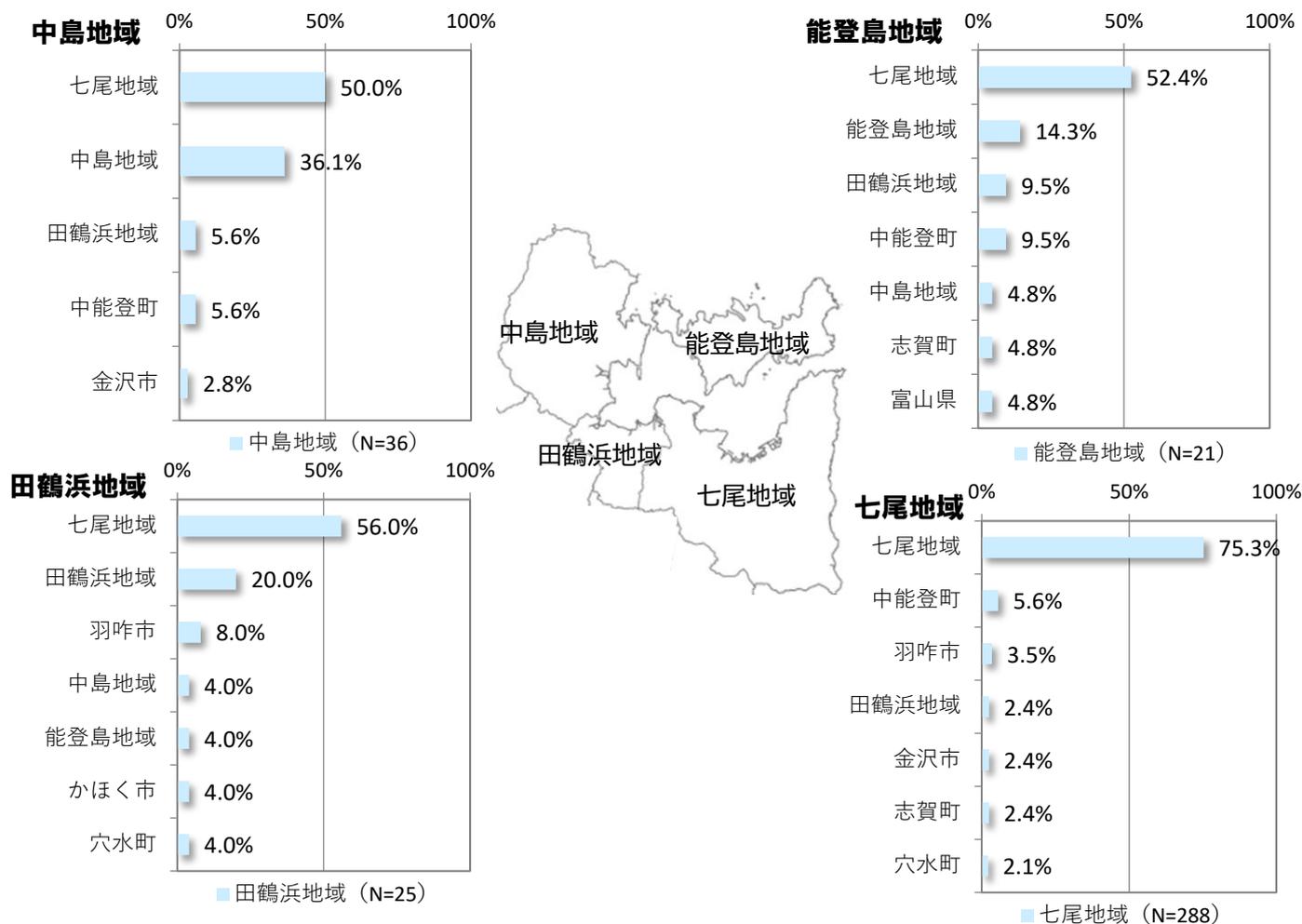


出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

③ 通勤移動

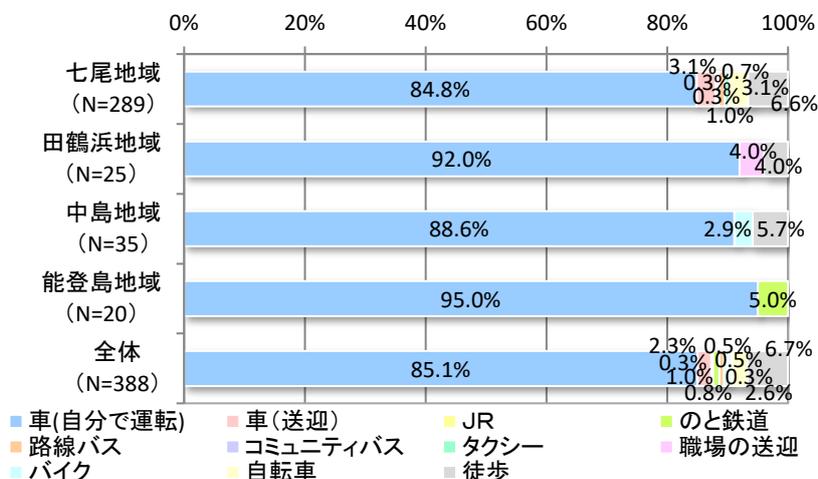
いずれの地域も半数以上が七尾地域に通勤しており、8割以上が自分で車を運転して通勤しています。

図表 18 地域別通勤先(上位 5 位以内)



出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

図表 19 地域別通勤時交通手段



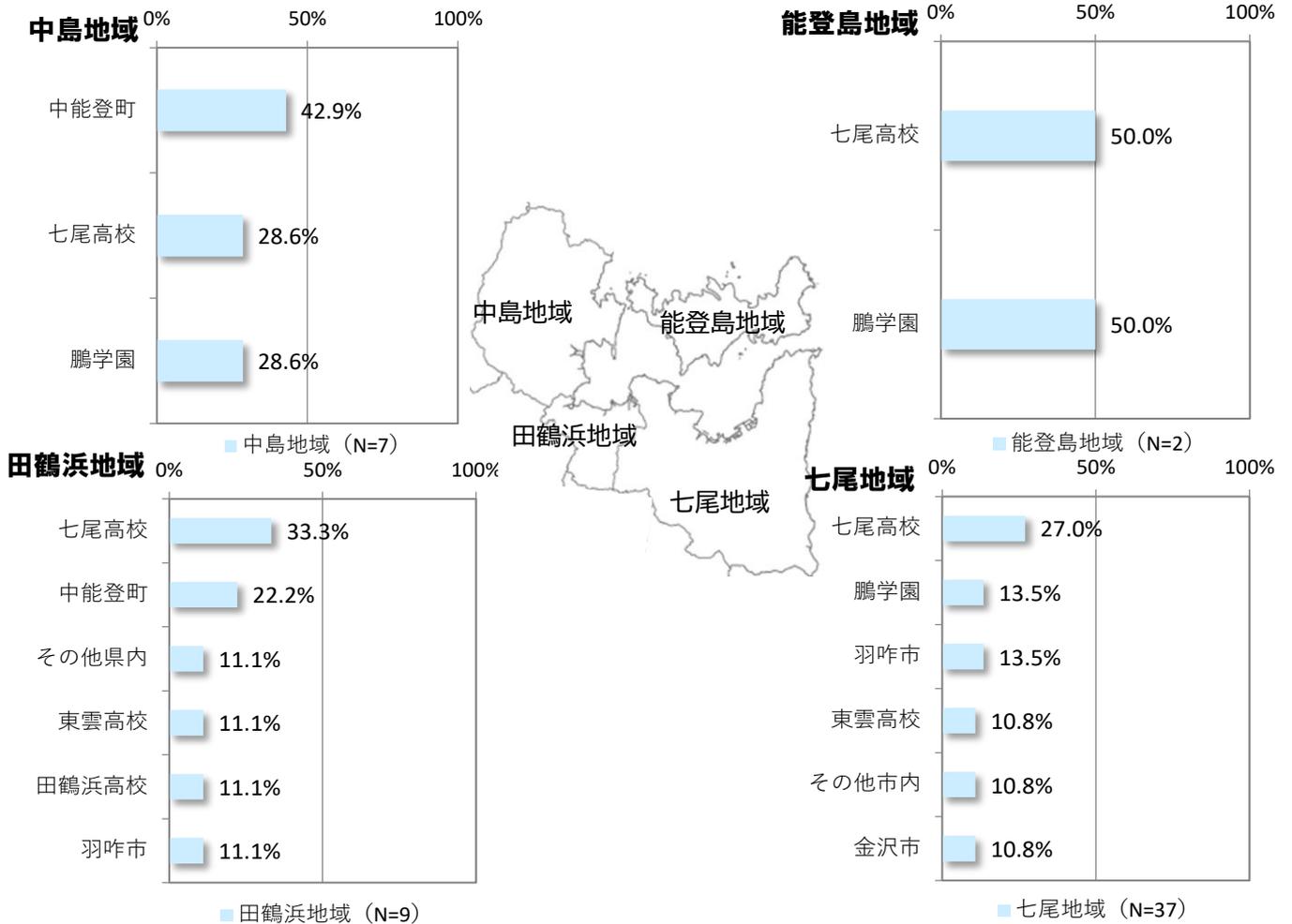
※「通勤している」と回答した方を集計対象とする

出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

④ 通学移動

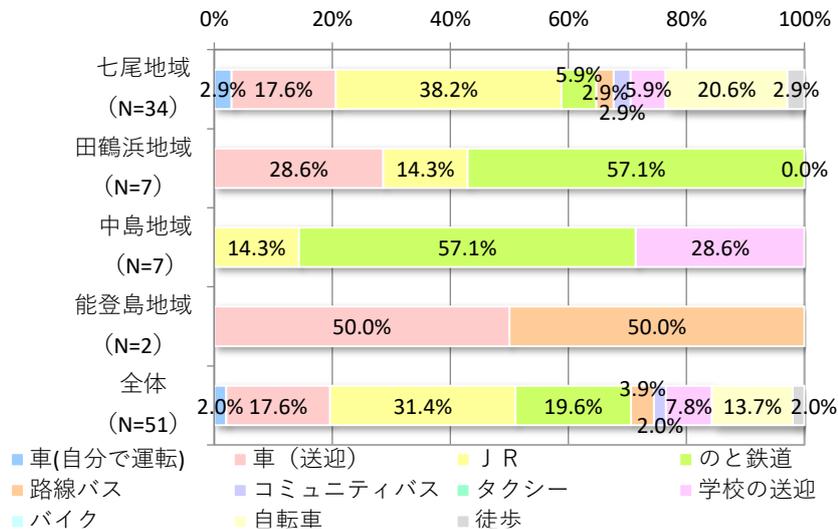
七尾高校に通学する生徒が多く、七尾地域では「JR」、田鶴浜地域と中島地域では「のと鉄道」を多く利用しています。

図表 20 地域別通学先(上位 5 位以内)



出典: アンケート調査結果(R4.9月実施)

図表 21 地域別通学時交通手段



※「通学している」と回答した方を集計対象とする

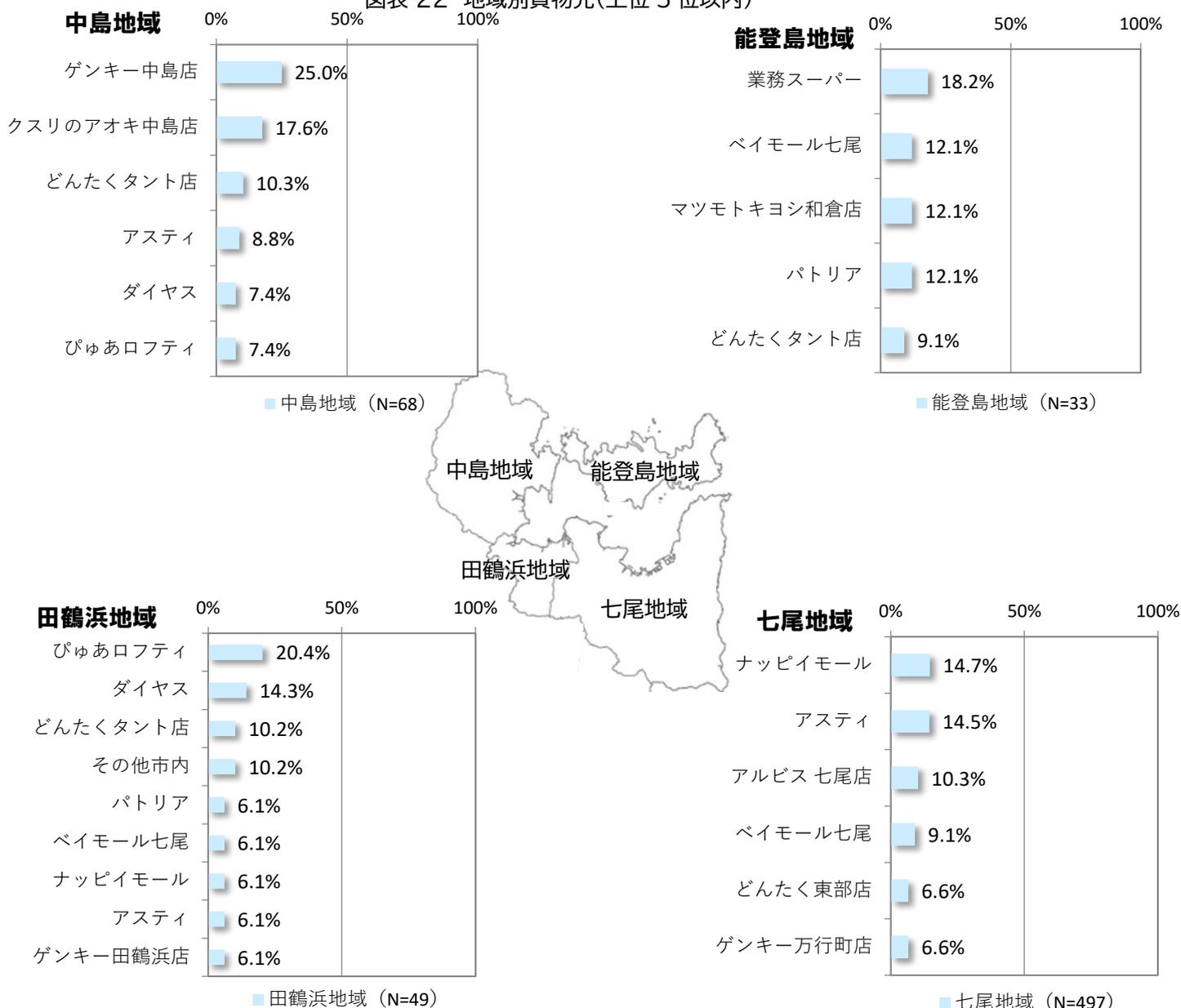
出典: アンケート調査結果(R4.9月実施)

⑤ 買物移動

近くの買物先に行く傾向があるため、地域によって買物先が異なっています。中島地域は「ゲンキー中島店」、能登島地域は「業務スーパー」、田鶴浜地域は「ぴゅあロフティ」、七尾地域は「ナッピイモール」「アスティ」に行く方が多くなっています。

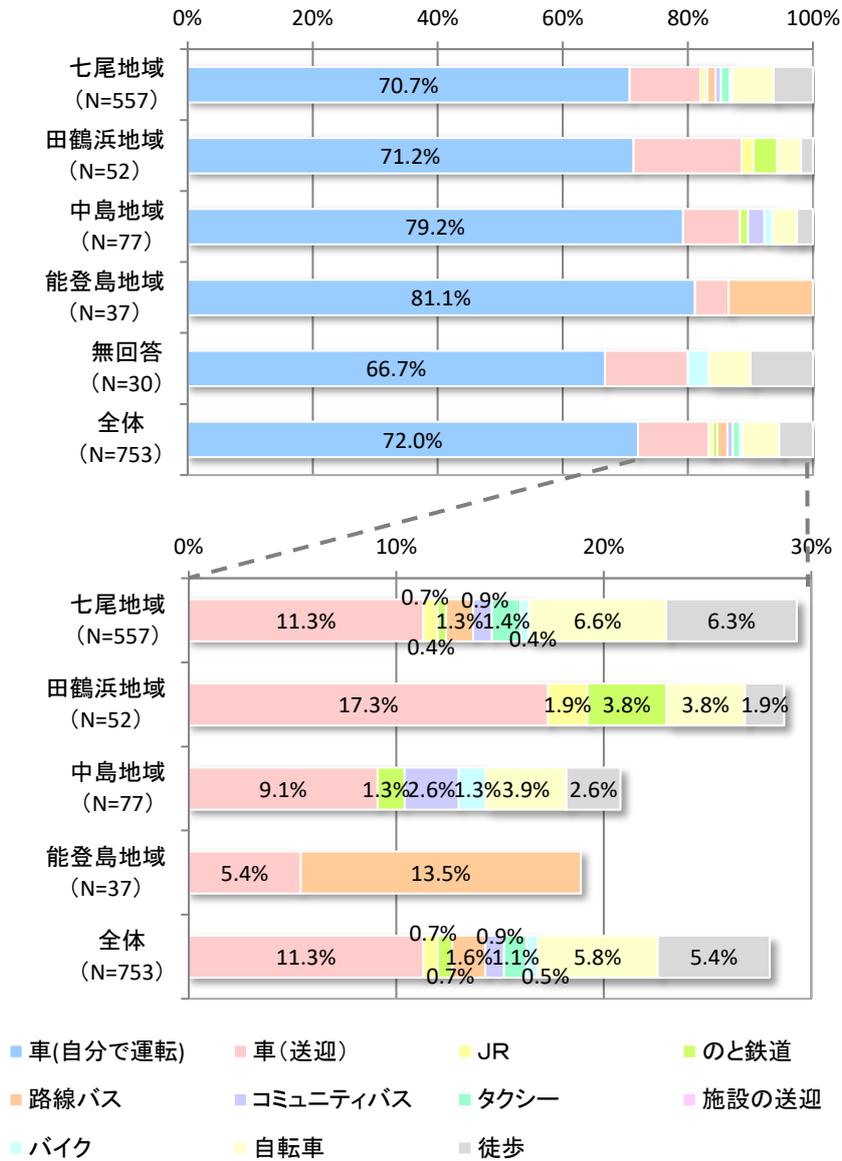
どの地域も7割以上の方が、自分で車を運転して買物に行っています。能登島地域以外では、車で送迎される方も多く、七尾地域では「自転車」と「徒歩」、田鶴浜地域では「のと鉄道」と「JR」、中島地域では「のと鉄道」と「コミュニティバス」、能登島地域では「路線バス」が、他の地域と比較して多くなっています。

図表 22 地域別買物先(上位 5 位以内)



※買物頻度が「週 5 日以上」または「週 3~4 日程度」または「週 1~2 日程度」または「月 1, 2 日」と回答した方を集計対象とする
出典: アンケート調査結果(R4.9 月実施)

図表 23 地域別買物時交通手段



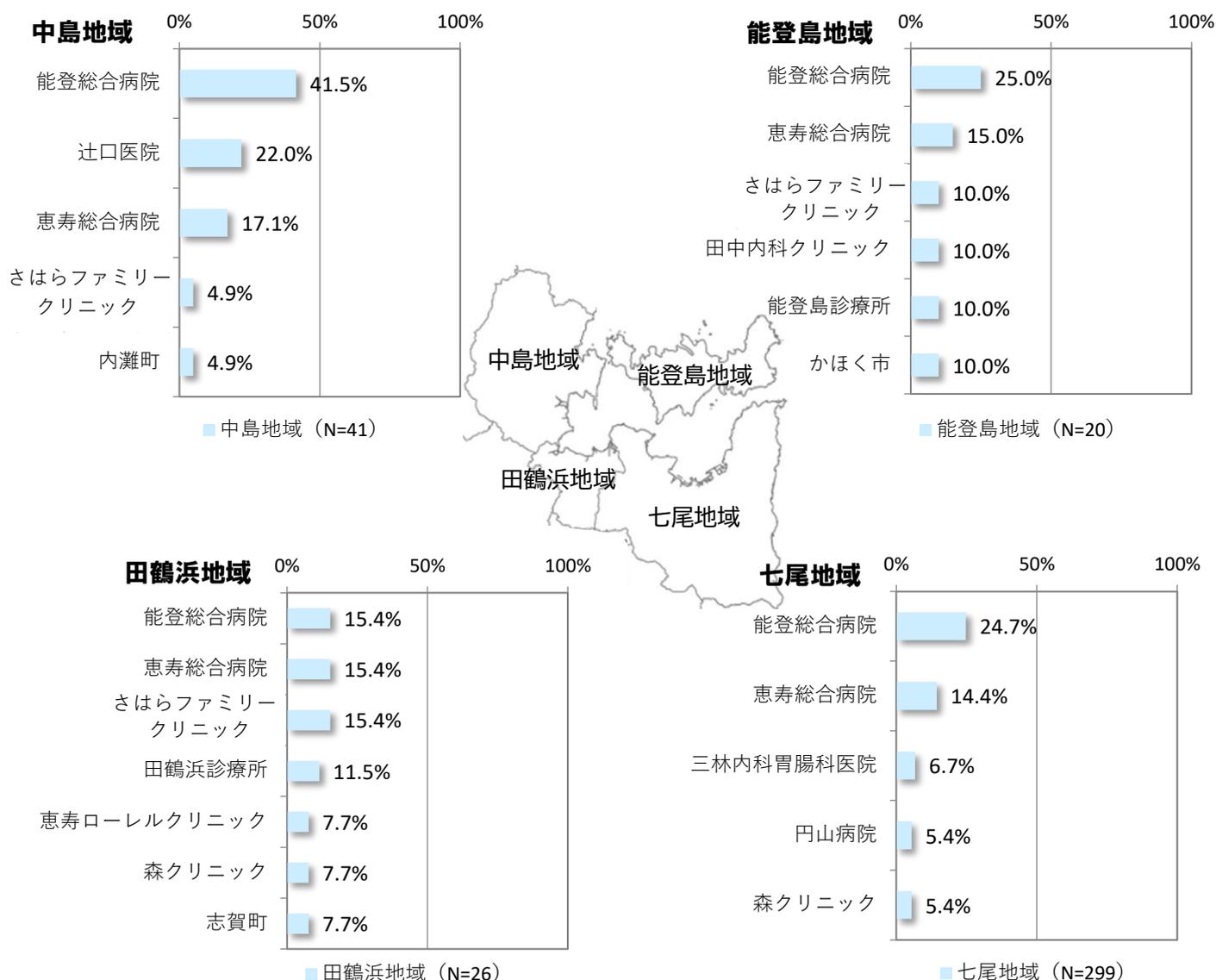
※買物頻度が「週 5 日以上」または「週 3~4 日程度」または「週 1~2 日程度」または「月 1、2 日」と回答した方を集計対象とする
 出典:アンケート調査結果(R4.9 月実施)

⑥ 通院移動

いずれの地域も「能登総合病院」に通院する方が最も多く、次いで中島地域では「辻口医院」、その他の地域では「恵寿総合病院」に通院する方が多くなっています。

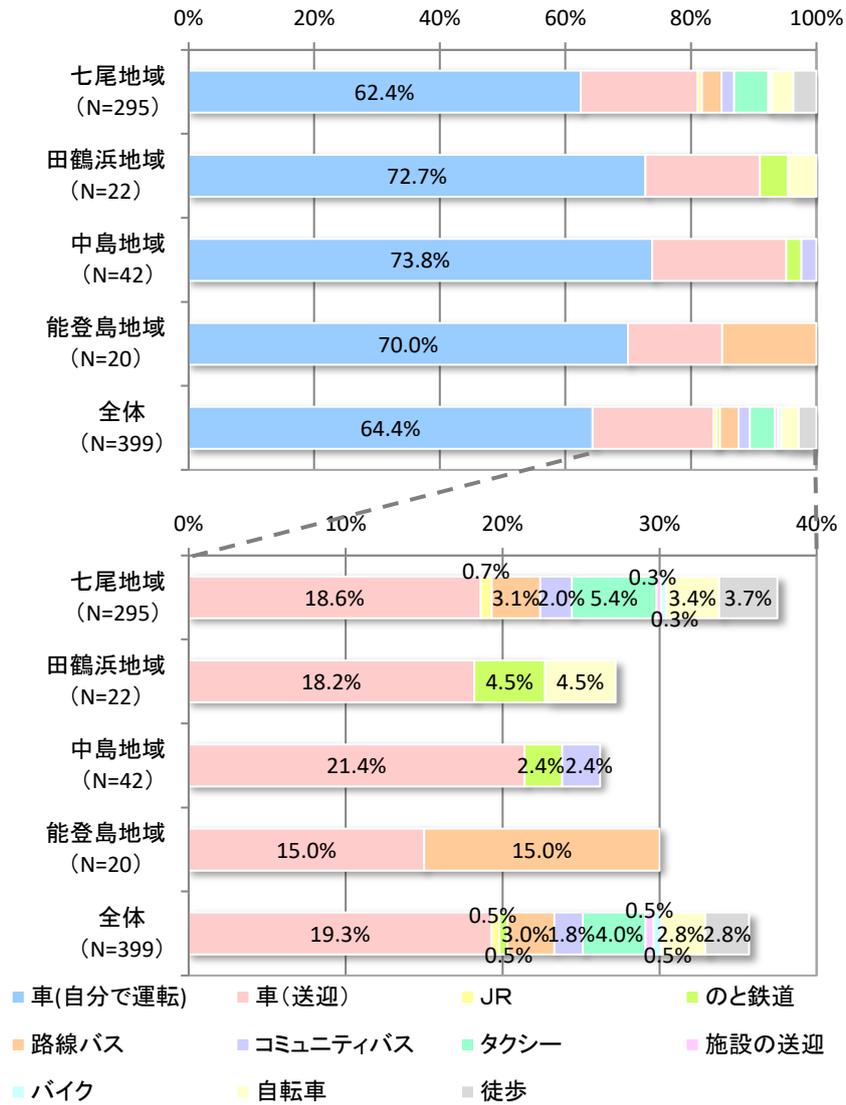
どの地域も6割以上の方が、自分で車を運転して通院しています。次いで、車で送迎される方も多くなっています。七尾地域では「タクシー」、田鶴浜地域では「のと鉄道」、中島地域では「のと鉄道」と「コミュニティバス」、能登島地域では「路線バス」が、他の地域と比較して多くなっています。

図表 24 地域別通院先(上位5位以内)



※通院頻度が「週5日以上」または「週3~4日程度」または「週1~2日程度」または「月1、2日」と回答した方を集計対象とする
出典: アンケート調査結果(R4.9月実施)

図表 25 地域別通院時交通手段



※通院頻度が「週 5 日以上」または「週 3~4 日程度」または「週 1~2 日程度」または「月 1、2 日」と回答した方を集計対象とする
 出典:アンケート調査結果(R4.9 月実施)

⑦ 外出の際に困ること

七尾市全体で、移動の際に困ることがある方は約 3 割を占めています。地域別では、中島地域が約 4 割と高く、年代別では 10 代、20 代、70 代、80 代以上の割合が高くなっています。

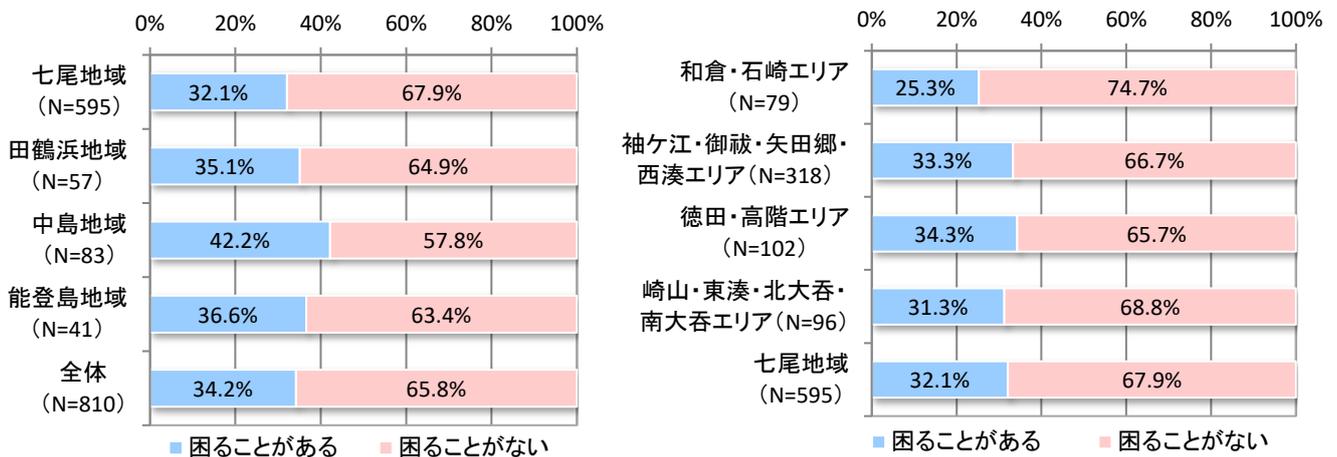
七尾市全体での移動の際の困りごとの有無は、「困ることがある」は 32.4%、「困ることがない」は 65.8%となっています。

地域別では、中島地域で 42.2%が「困ることがある」と回答しており、他の地域と比べ割合が高くなっています。

七尾地域のエリア別では、徳田・高階エリアで 34.3%が「困ることがある」と回答しており、他のエリアに比べ高くなっています。

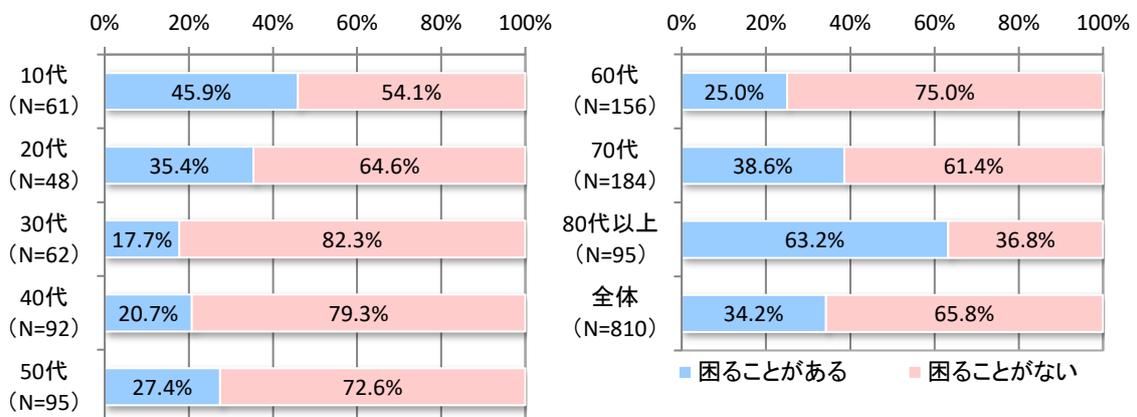
年代別では、10 代、20 代、70 代、80 代以上が、他の年代に比べ「困ることがある」の割合が高くなっています。

図表 26 地域別移動の際の困りごとの有無



出典:アンケート調査結果(R4.9 月実施)

図表 27 年代別移動の際の困りごとの有無



出典:アンケート調査結果(R4.9 月実施)

いずれの地域でも「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」と回答した方が最も多くなっています。

地域別では、七尾地域は「路線バスやコミュニティバスのルート上に目的地がない」、田鶴浜地域と中島地域では「鉄道と路線バスやコミュニティバスの接続がよくない」、能登島地域では「その他(路線バスの運賃が高い)」という回答が特徴的です。

七尾地域のエリア別では、和倉・石崎エリアは「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」、「誰かに送ってもらうことが多く、精神的に負担である」、袖ヶ江・御祓・矢田郷・西湊エリアは「路線バスやコミュニティバスのルート上に目的地がない」、徳田・高階エリアは「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」、崎山・東湊・北大呑・南大呑エリア「自動車の運転が不安になってきた」という回答が特徴的です。

図表 28 地域別移動の際の困りごと(複数回答可)

地域	回答した割合が高かった困りごと
七尾地域	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(39.2%)、「最寄りバス停まで遠い」(26.9%)、「路線バスやコミュニティバスのルート上に目的地がない」(23.7%)
和倉・石崎エリア	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(60.0%)、「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」(40.0%)、「誰かに送ってもらうことが多く、精神的に負担である」(25.0%)
袖ヶ江・御祓・矢田郷・西湊エリア	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(39.8%)、「最寄りバス停まで遠い」(31.1%)、「路線バスやコミュニティバスのルート上に目的地がない」(28.2%)
徳田・高階エリア	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(29.4%)、「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」(26.5%)
崎山・東湊・北大呑・南大呑エリア	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(34.5%)、「最寄りバス停まで遠い」(31.0%)、「自動車の運転が不安になってきた」(24.1%)
田鶴浜地域	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(45.0%)、「鉄道と路線バスやコミュニティバスの接続がよくない」(40.0%)、「目的地まで時間がかかる」(35.0%)、「路線バスやコミュニティバスを利用してみたいが、利用の仕方がわからない」(35.0%)
中島地域	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(61.8%)、「鉄道と路線バスやコミュニティバスの接続がよくない」(35.3%)、「目的地まで時間がかかる」(35.3%)
能登島地域	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(66.7%)、「その他」(26.7%)が多く、「その他」の内容は「路線バスの運賃が高い」

出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

10代・20代では「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」、70代では「自動車の運転が不安になってきた」、70代・80代以上では、「最寄りバス停まで遠い」という回答が特徴的です。

図表 29 年代別(20代以下・70代以上)移動の際の困りごと(複数回答可)

年代	回答した割合が高かった困りごと
10代	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(57.1%)、「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」(35.7%)、「鉄道と路線バスやコミュニティバスの接続がよくない」(32.1%)
20代	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(50.0%)、「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」(37.5%)、「鉄道と路線バスやコミュニティバスの接続がよくない」(25.0%)
70代	「自動車の運転が不安になってきた」(47.1%)、「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(38.2%)、「最寄りバス停まで遠い」(25.0%)
80代以上	「使いたい時間に路線バスやコミュニティバスが走っていない」(39.0%)、「最寄りバス停まで遠い」(32.2%)、「誰かに送ってもらうことが多く、自由な時間に外出できない」(28.8%)

出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

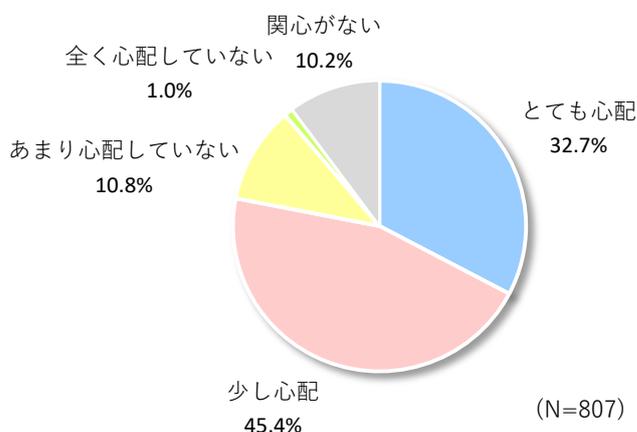
⑧ 七尾市の地域公共交通に対する意識

地域公共交通の利用者数減少について、約 8 割の市民が心配しており、半数近くの市民が、現在の地域公共交通のサービスを維持することや利便性の向上が必要と感じています。

地域公共交通の利用者数減少について、「とても心配」「少し心配」と回答した方は 78.1%を占めます。

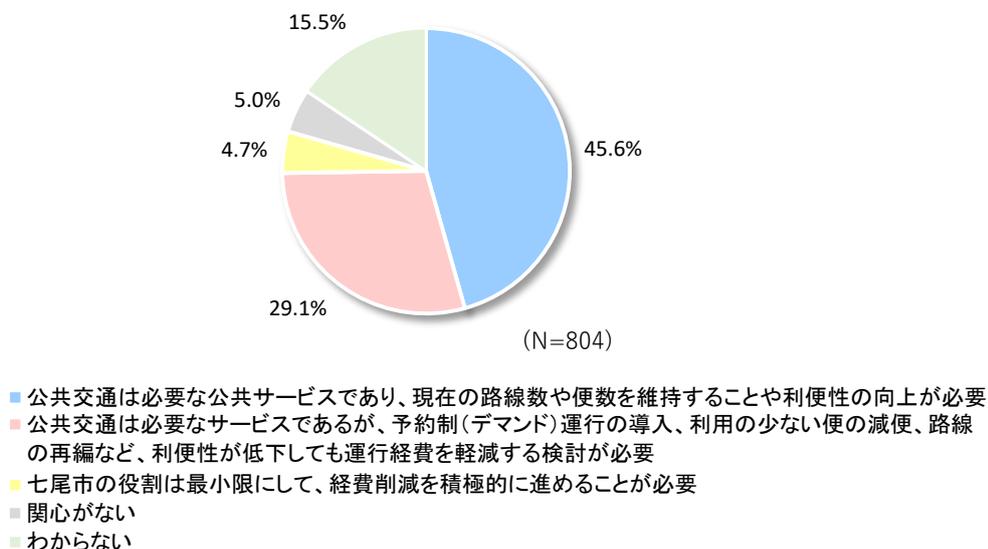
地域公共交通に期待する役割については、「公共交通は必要な公共サービスであり、現在の路線数や便数を維持することや利便性の向上が必要」が最も高い割合で 45.6%を占めています。次いで、「公共交通は必要なサービスであるが、予約制(デマンド)運行の導入、利用の少ない便の減便、路線の再編など、利便性が低下しても運行経費を軽減する検討が必要」が 29.1%、「七尾市の役割は最小限にして、経費削減を積極的に進めることが必要」が 4.7%であり、現在のサービスを維持することや利便性を向上することが必要と感じる市民が多くなっています。

図表 30 地域公共交通の利用者数減少について



出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

図表 31 公共交通における役割について



出典:アンケート調査結果(R4.9月実施)

4 章 公共交通の実態把握

4-1 市内の地域公共交通概況

(1)市内の地域公共交通概況

市内にはJR七尾線、のと鉄道七尾線、路線バスの北鉄能登バスが 7 路線、能登島交通が 5 路線、市営コミュニティバスが 5 路線、デマンド交通が運行されており、様々な交通手段が整備されています。

図表 32 市内の地域公共交通

路線名			便数/日			車両	運賃
			平日	土	日祝		
鉄道							
JR	七尾線 ^{※1}	七尾駅－津幡駅	53便 ^{※2}	55便	55便	－	対距離運賃
のと鉄道	七尾線	七尾駅－穴水駅	34便	39便	39便	－	対距離運賃
路線バス							
北鉄能登バス	三階線	七尾駅前－サンビーム日和ヶ丘	7便	4便	4便	大型車	対距離運賃
	満仁線	七尾駅前－吉田	11便	6便	4便	中型車	
	羽七東線	七尾駅前－羽咋駅前(羽咋市)	22便	18便	18便	大型車	
	高浜線	七尾駅前－高浜(志賀町)	17便	14便	14便	大型車	
	和倉線	七尾駅前－和倉温泉駅前	31便	19便	19便	大型車	
	脇線	七尾駅前－脇(氷見市)	12便	10便	10便	中型車	
能登島交通	崎山循環線	七尾駅前－七尾駅前	8便	4便	4便	大型車	140円から
	曲線	能登総合病院－のとしま臨海公園	16便	16便	16便	大型車 :3台	
	祖母ヶ浦線	マリンパーク島の湯－祖母ヶ浦	11便	11便	11便		
	南線	大橋駐車場－マリンパーク島の湯	12便	12便	12便		
	通線	通－小学校前	4便	2便	－		
学校線	別所－小学校前	3便	2便	－			
七尾市コミュニティバス							
まりん号 ^{※3・10}	順回り	七尾駅前－七尾駅前	8便	8便	8便	ポンチョ :3台	100円
	逆回り	七尾駅前－七尾駅前	8便	8便	8便		
ぐるっとセブン	東コース	七尾駅前－七尾駅前	4便	4便	4便		170円から
	西コース ^{※4}	七尾駅前－七尾駅前	5便	4便	4便		
やまびこ号 ^{※5}		七尾駅前－七尾駅前、滝尻車庫	3便	－	－	ハイース	大人300円
はなバス ^{※6}		JR 田鶴浜前－田鶴浜診療所	4便	－	4便	ポンチョ	100円
げんきバス ^{※7・10}	鉦打・熊木方面	すこやか－別所集会所－すこやか	7便	－	－	マイクロバス :3台 ハイース :1台	100円
	豊川方面	すこやか－萩谷バス停－すこやか	6便	－	－		
	西岸方面	すこやか－西岸バス停－すこやか	6便	－	－		
	笠師保方面	すこやか－笠師保駅－すこやか	6便	－	－		
	いやしの湯直行便	すこやか－いやしの湯	2便	－	－		
デマンド交通(南大呑地域づくり協議会)							
	南大呑さわやか送迎サービス ^{※8}	水上集会所－花園口バス停	7便 ^{※9}	－	－	－	50円
デマンド交通(鉦打ふるさとづくり協議会)							
	鉦打地区	中島地区内、中島地区⇄田鶴浜地区	－	－	－	－	800円、1,000円

※1:津幡駅～金沢駅は IR が運行。

※2:特急花嫁のれん号の平日の運行日は曜日が不定期なため、平日便数に入れていない。

※3:まりん号、年末年始運休。

※4:ぐるっとセブン(西コース)、朝便は土・日・祝・小学校の休業期間年始運休。

※5:やまびこ号、全区間一律(高校生 100 円、中学生以下無料)土・日・祝・年末年始運休。

※6:はなバス、祝日のみ運行、日曜日は運休、年末年始運休。

※7:げんきバス、年末年始運休。

※8:南大呑さわやか送迎サービス、前日までに予約(午後便のみ当日の 8:30～11:00 に予約可)。

※9:南大呑さわやか送迎サービスの運行日は火・水・金、予約がない場合は運行しない。

※10:地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用

出典:運行事業者HP、七尾市提供データ

地域公共交通(地域内フィーダー系統)の確保維持に係る必要性

地域公共交通ネットワークを確保するためには、地域の特性にあった公共交通サービスを提供する必要があり、地域特性に応じて以下のフィーダーバス路線を確保します。

まりん号

(「七尾駅バス停」で、JR 七尾線、路線バスと接続)

七尾駅を中心に、巡回ルートをパターンダイヤで運行しています。市内の商店街や公共施設へアクセスしており、主に買物や通院時の移動手段として、JR 七尾駅と接続する公共交通サービスを担っています。

げんきバス

(「能登中島駅バス停」「西岸駅バス停」「笠師保駅バス停」で、のと鉄道七尾線と接続)

路線バスが運行されていない中島地域において、4路線を運行しています。主に通学や通院時の移動手段として、のと鉄道七尾線と接続する公共交通サービスを担っています。

※路線再編等によって、地域内フィーダー系統の対象路線が変更となる場合は、必要に応じて本計画の記載内容の見直しを行います。

図表 33 市内の地域公共交通網図



(2)関係者ヒアリング調査実施概要

ヒアリング調査対象者とヒアリング事項は以下の通りです。公共交通の利用者層や利用の特徴、課題や改善点などについて、令和4年10月にヒアリング調査を実施しました。

図表 34 関係者ヒアリング調査実施概要

分類	対象者	対象となる項目	主なヒアリング事項
交通事業者	北鉄能登バス株式会社	○路線バス ・三階線 ・満仁線 ・羽七東線 ・高浜線 ・和倉線 ・脇線 ・崎山循環線 ○コミュニティバス ・ぐるっとセブン ・まりん号	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者層 ・利用の特徴 ・課題改善点
	能登島交通株式会社	○路線バス ・曲線 ・祖母ヶ浦線 ・南線 ・通線 ・学校線	
	株式会社田鶴浜交通	・はなバス	
	特定非営利活動法人中島オパレーションセンター	・中島げんきバス	
	教育総務課	・やまびこ号	
福祉	社会福祉協議会総務課 高齢者支援課 福祉課	・高齢者の移動	<ul style="list-style-type: none"> ・移動実態 ・困りごと ・課題改善点
教育	教育総務課	・スクールバス ・高校生の通学	<ul style="list-style-type: none"> ・移動実態 ・困りごと ・課題改善点
観光	交流推進課	—	<ul style="list-style-type: none"> ・移動実態 ・困りごと ・今後の取組み

(1)JR七尾線

利用者数は減少傾向であり、令和3年度は年間約56万人が利用しています。七尾駅の利用が最も多く約32万人となっています。

JR七尾線は、七尾市内に徳田駅、七尾駅、和倉温泉駅の3駅があります。

七尾駅の運行便数は平日が53便/日(うち特急10便※特急花嫁のれん号は含まない)、土・日曜日が55便/日(うち特急14便)運行されています。

七尾線の利用者数は平成29年度から令和元年度は緩やかに減少しており、令和2年度に大きく減少し約51.3万人、令和3年度にやや増加し約55.7万人となっています。令和3年度の利用者数は、徳田駅が約10.5万人、七尾駅が約32.0万人、和倉温泉駅が約13.2万人となっています。

令和3年度の定期利用状況は、徳田駅が91.4%、七尾駅が72.9%、和倉温泉駅が52.1%であり、徳田駅と七尾駅は定期利用者が多く、和倉温泉駅は普通利用者が多くなっています。

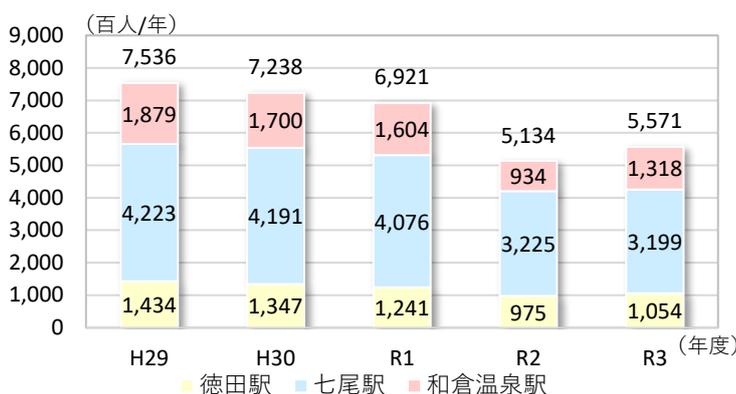
図表 36 JR七尾線の運行状況

	平日の便数	土・日・祝日の便数
徳田駅	43 便/日 七尾方面 22 便/日、金沢方面 21 便/日	41 便/日 七尾方面 21 便/日、金沢方面 20 便/日
七尾駅	53 便/日(うち特急 10 便) 七尾着 27 便/日、金沢方面 26 便/日	55 便/日(うち特急 14 便) 七尾着 28 便/日、金沢方面 27 便/日
和倉温泉駅	10 便/日(うち特急 10 便) 和倉温泉駅着 5 便/日、七尾方面 5 便/日	14 便/日(うち特急 14 便) 和倉温泉駅着 7 便/日、七尾方面 7 便/日

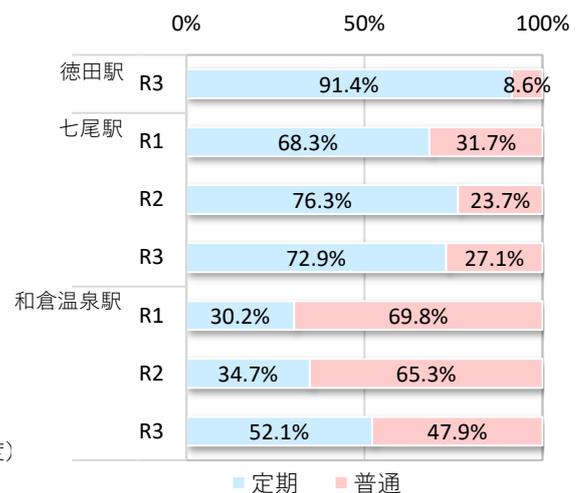
※特急花嫁のれん号の平日の運行日は曜日が不定期なため、平日便数に入れていない。

出典:JR西日本HP(R5.1 末時点)

図表 37 JR七尾線の利用者数推移(H29~R3)



図表 38 各駅の定期割合(R1~R3)



出典:JR西日本提供データ

(2)のと鉄道七尾線

利用者数は減少傾向であり、令和3年度は1日あたり約1,000人が利用しています。七尾駅の利用が最も多く約500人となっています。

のと鉄道七尾線は、七尾市内に七尾駅、和倉温泉駅、田鶴浜駅、笠師保駅、能登中島駅、西岸駅の6駅があります。

七尾駅の運行便数は平日が34便/日、土・日曜日・祝日が39便/日(うち観光列車5便)運行されています。

1日平均利用者数は平成28年度から緩やかに減少しており、令和3年度は967人/日となっています。令和3年度の駅別の1日平均利用者数は、七尾駅が473人/日、和倉温泉駅が210人/日、田鶴浜駅が164人/日、笠師保駅が21人/日、能登中島駅が99人/日、西岸駅が34人/日となっています。

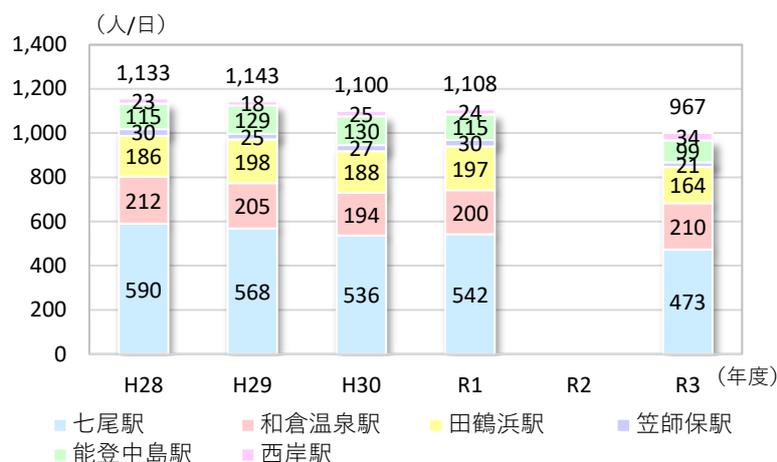
令和3年度の定期利用状況は、七尾駅が71.2%、和倉温泉駅が50.0%、田鶴浜駅が88.4%、笠師保駅が76.2%、能登中島駅が75.8%、西岸駅が35.3%であり、七尾駅、田鶴浜駅、笠師保駅、能登中島駅は定期利用が多く、和倉温泉駅、西岸駅は定期外利用が多くなっています。

図表 39 のと鉄道七尾線の運行状況

	平日の便数	土・日・祝日の便数
七尾駅	34 便/日 七尾発 17 便/日、七尾着 17 便/日	39 便/日(うち観光列車 5 便) 七尾発 19 便/日、七尾着 19 便/日
和倉温泉駅・ 能登中島駅	34 便/日 穴水方面 17 便/日、七尾方面 17 便/日	38 便/日(うち観光列車 5 便) 穴水方面 19 便/日、七尾方面 19 便/日
田鶴浜駅・笠師保駅・ 西岸駅	34 便/日 穴水方面 17 便/日、七尾方面 17 便/日	33 便/日 穴水方面 16 便/日、七尾方面 17 便/日

出典:のと鉄道HP(R5.1月末時点)

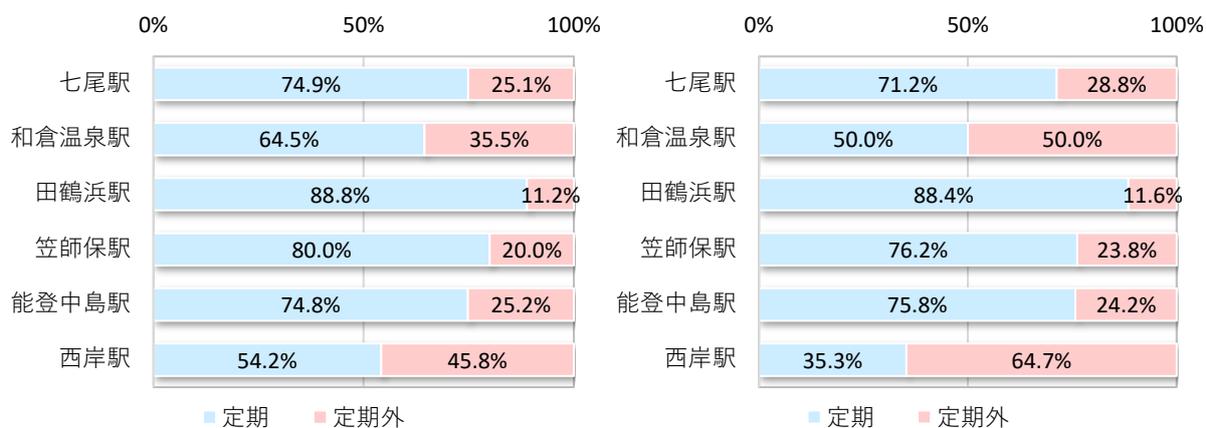
図表 40 のと鉄道七尾線の利用者数推移(H29~R3)



※令和2年度は調査未実施

出典:のと鉄道提供データ

図表 41 各駅の定期割合(R1:左・R3:右)



出典:のと鉄道提供データ

4-3 路線バスの利用状況

(1)北鉄能登バス

七尾市内には 7 路線が運行されており、うち 3 路線が市外まで運行されています。利用者数はほぼ横ばいで、令和 3 年度は約 60 万人が利用しています。

① 北鉄能登バス運行概況

北鉄能登バスは、三階線、満仁線、羽七東線、高浜線、和倉線、脇線、崎山循環線の 7 路線を七尾市内で運行しています。羽七東線は羽咋市⇄七尾市、高浜線は志賀町⇄七尾市、脇線は氷見市⇄七尾市を運行しており、他の三階線、満仁線、和倉線、崎山循環線は市内を運行しています。

図表 42 北鉄能登バス運行状況

路線	運行区間	平日の便数	土曜日の便数	日祝の便数
三階線	七尾駅前－サンビーム日和ヶ丘	7 便	4 便	4 便
満仁線	七尾駅前－吉田	11 便	6 便	4 便
羽七東線	七尾駅前－羽咋駅前(羽咋市)	22 便	18 便	18 便
高浜線	七尾駅前－高浜(志賀町)	17 便	14 便	14 便
和倉線	七尾駅前－和倉温泉駅前	31 便	19 便	19 便
脇線	七尾駅前－脇(氷見市)	12 便	10 便	10 便
崎山循環線	七尾駅前－七尾駅前	8 便	4 便	4 便

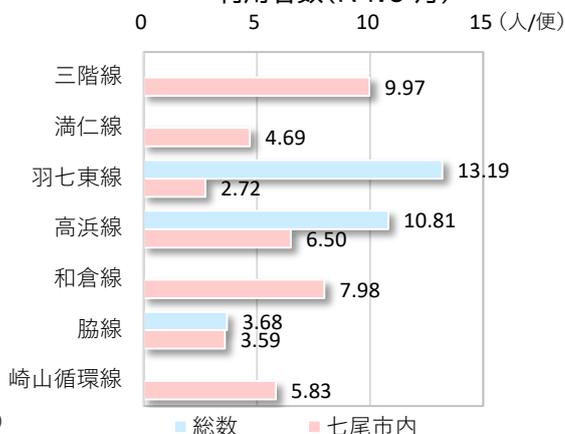
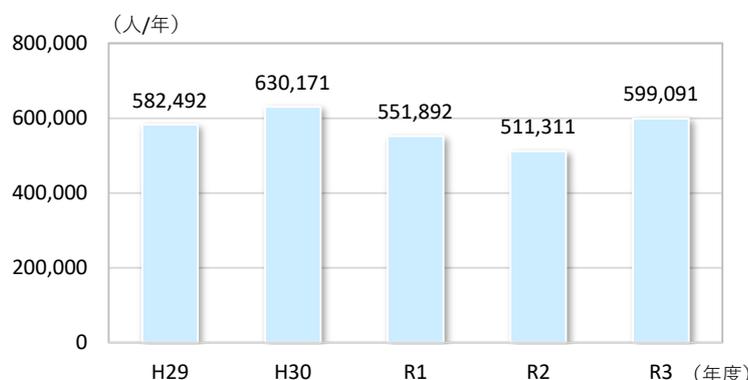
出典: 北鉄能登バスHP(R5.1 月末時点)

② 北鉄能登バス利用状況

北鉄能登バスの利用者数は、平成 30 年度の 630,171 人をピークに緩やかに減少しましたが令和 3 年度に増加し、令和 3 年度は 599,091 人となっています。令和 3 年度は平成 30 年度に比べ、4.9%(31,080 人)減少しています。

路線別便あたり利用者数をみると、三階線が 9.97 人/便、満仁線が 4.69 人/便、羽七東線が 2.72 人/便(市外含む:13.19 人/便)、高浜線が 6.50 人/便(市外含む:10.81 人/便)、和倉線が 7.98 人/便、脇線が 3.59 人/便(市外含む:3.68 人/便)、崎山循環線が 5.83 人/便となっています。

図表 43 北鉄能登バスの利用者数推移(H29～R3) 図表 44 北鉄能登バスの路線別便あたり利用者数(R4.6 月)



左※利用者数に廃止路線、万行緑ヶ丘線(令和元年度まで運行)、水上線(平成 29 年度まで運行)、七富線(平成 29 年度まで運行)のデータを含む。

右※データ期間: 令和 4 年 6 月 4 日(土)～10 日(金)

出典: 北鉄能登バス提供データ

③ 三階線利用状況

便数	平日:7便、土曜日:4便、日祝:4便	利用者数 (R3)	30,514 人	スクール バス利用	あり
<ul style="list-style-type: none"> 令和 2 年度以降、利用者数は減少しており、令和 3 年度は約 3 万千人が利用しています。 七尾中学校開校にあたり田鶴浜地域の生徒のための路線バスとして新設され、七尾中学校の生徒の通学利用がほとんどを占めています。 					

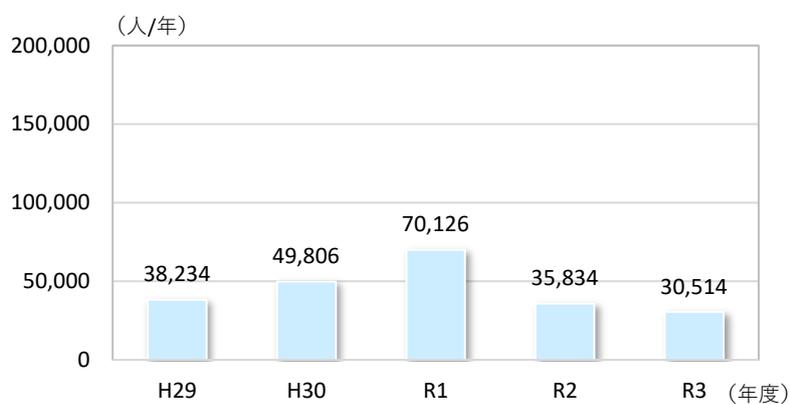
図表 45 三階線路線図



三階線は、平成29年4月の七尾中学校開校にあたり田鶴浜地域の生徒のための路線バスとして新設され、スクールバスに利用されています。

利用者数は、平成 29 年度以降増加し、令和元年度の 70,126 人をピークに、令和 2 年度以降減少し、令和 3 年度は 30,514 人となっています。令和 3 年度は令和元年度に比べ、56.5%(39,612 人)減少しています。

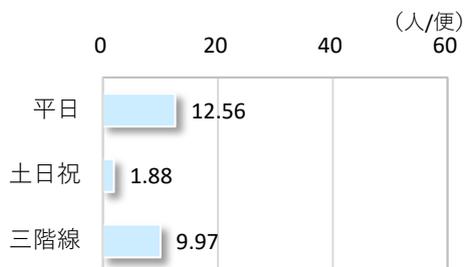
図表 46 三階線の利用者数推移(H29~R3)



出典:北鉄能登バス提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、平均 9.97 人/便、平日が 12.56 人/便、休日が 1.88 人/便であり、平日に比べ休日は利用が少なくなっています。便別では平日の上り 7:20 便が 37.20 人/便と利用が多くなっています。

図表 47 三階線の便あたり利用者数(R4.6 月)



※データ期間:令和 4 年 6 月 4 日(土)~10 日(金)

出典:北鉄能登バス提供データ

④ 満仁線利用状況

便数	平日:11便、土曜日:6便、日祝:4便	利用者数 (R3)	38,938 人	スクール バス利用	あり
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は増加傾向であり、令和3年度は約3万9千人が利用しています。 ・七尾中学校の生徒が利用する便の利用者数は多いものの、それ以外の便の利用は少なくなっています。 					

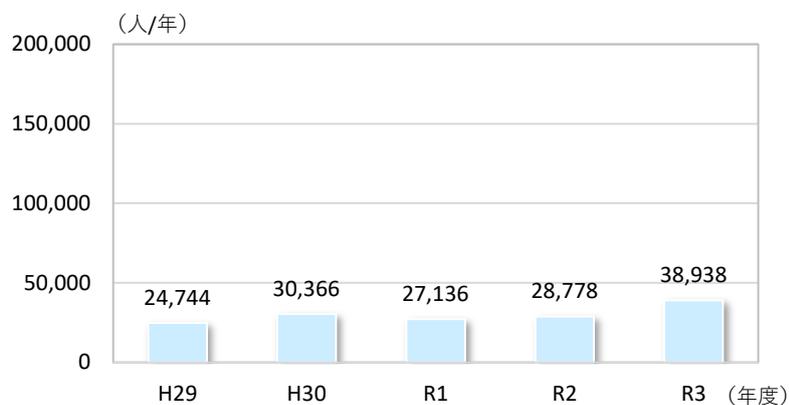
図表 48 満仁線路線図



満仁線は七尾中学校開校時に中学校を経由するルートに変更されており、スクールバス利用がされています。

利用者数は増加傾向にあり、令和3年度は38,938人であり、平成29年度の24,744人に比べ、57.4%(14,194人)増加しています。

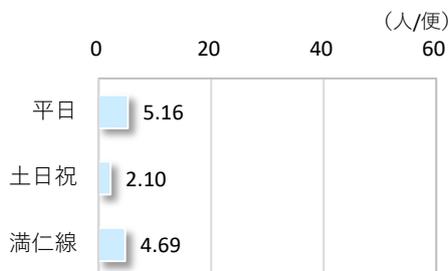
図表 49 満仁線の利用者数推移(H29～R3)



出典:北鉄能登バス提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 4.69 人/便、平日が 5.16 人/便、休日が 2.10 人/便であり、休日は平日に比べ利用が少なくなっています。便別では平日の上り 7:20 便(25.40 人/便)や下り 18:38 便(10.00 人/便)の利用が多く、休日は上り 7:20 便(6.50 人/便)の利用が多くなっています。

図表 50 満仁線の便あたり利用者数(R4.6 月)



※日祝日の運行便のうち、下り 9:15 便、上り 08:40 便は土曜日のみ運行
 ※データ期間:令和 4 年 6 月 4 日(土)~10 日(金)

出典:北鉄能登バス提供データ

⑤ 高浜線利用状況

便数	平日:17便、土曜日:14便、日祝:14便	利用者数 (R3)	147,332人	スクール バス利用	あり
<p>・令和元年度以降、利用者数は増加しており、令和3年度は約14万7千人が利用しています。</p> <p>・七尾中学校の生徒の通学利用が多くなっています。また、七尾高校や田鶴浜高校への通学や、志賀町～七尾市間での通学利用もみられます。</p>					

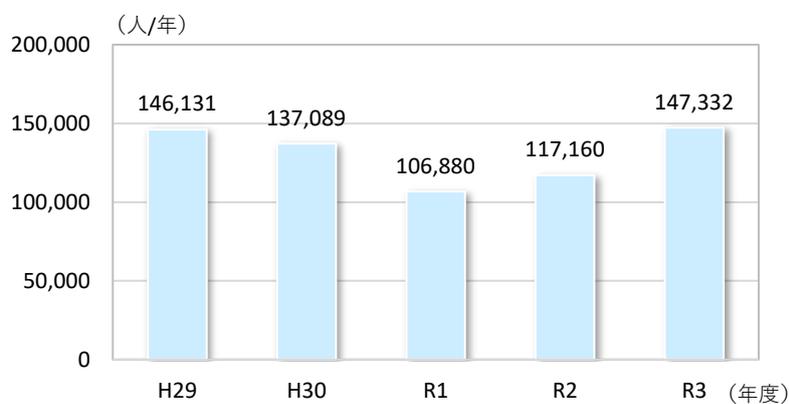
図表 51 高浜線路線図



高浜線は志賀町～七尾市を運行しています。高浜線は七尾中学校開校時に中学校を經由するルートに変更されており、スクールバス利用がされています。

利用者数は平成29年度から令和元年度にかけて減少していますが、令和元年度以降は増加し、令和3年度に147,332人となり、平成29年度の146,131人に比べ、0.8%(1,201人)増加しています。

図表 52 高浜線の利用者数推移(H29～R3)



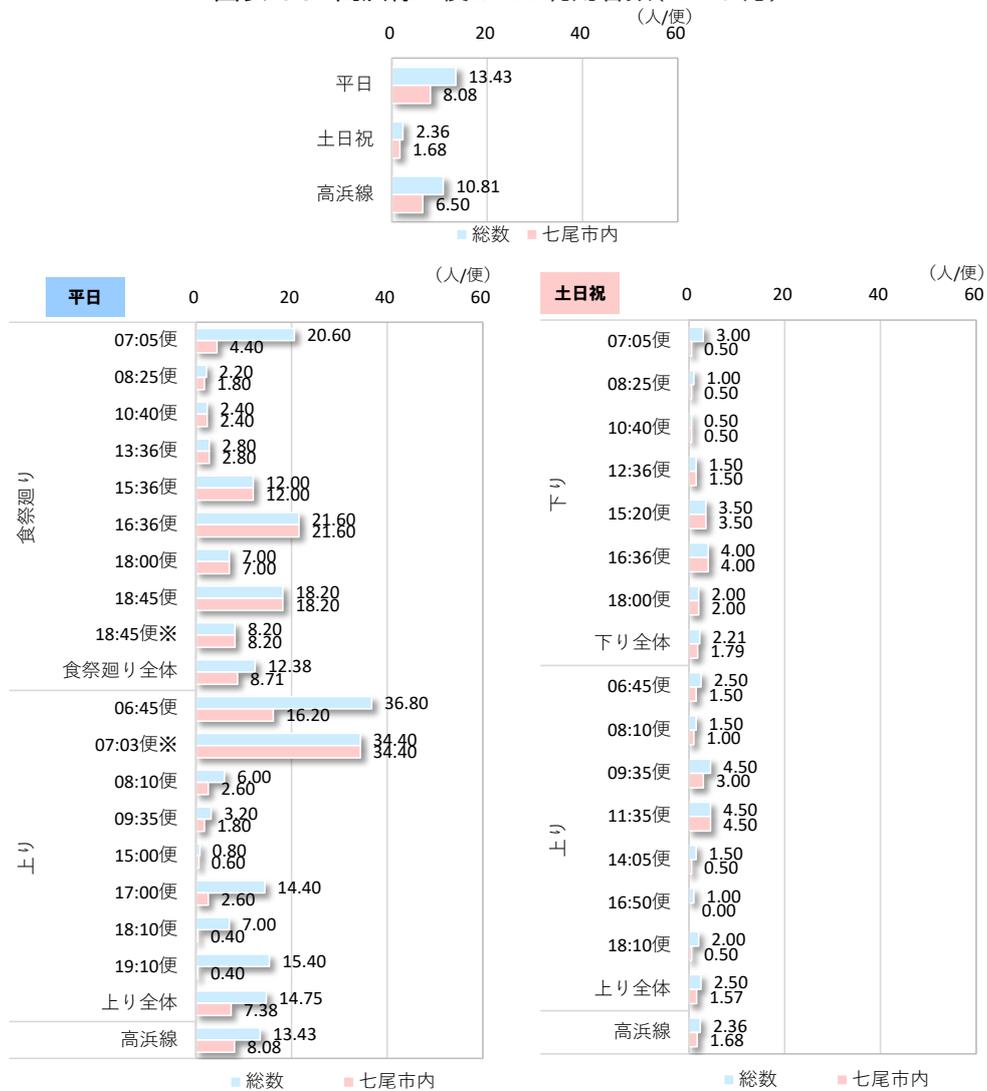
出典:北鉄能登バス提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 6.50 人/便(市外含む:10.81 人/便)、平日が 8.08 人/便(市外含む:13.43 人/便)、休日が 2.36 人/便(市外含む:1.68 人/便)であり、七尾市内の利用が多く、休日は平日に比べ利用が少なくなっています。便別では平日の上り 7:03 便(市内利用:34.40 人/便)や下り 16:36 便(市内利用:21.60 人/便)、下り 18:45 便(市内利用:18.20 人/便)の利用が多く、休日は上り 11:35 便(4.50 人/便)の利用が多くなっています。

<関係者ヒアリング調査より>(三階線・満仁線・高浜線)

- ・三階線と満仁線は、ほぼ中学生の利用となっている。
- ・高浜線は、中学生の利用の他に、高校生の通学にも利用されている。
- ・スクールバスとして利用する生徒数の増減や、利用する路線により、路線の利用者総数に大きく影響が出る。

図表 53 高浜線の便あたり利用者数(R4.6 月)



※データ期間:令和4年6月4日(土)~10日(金)

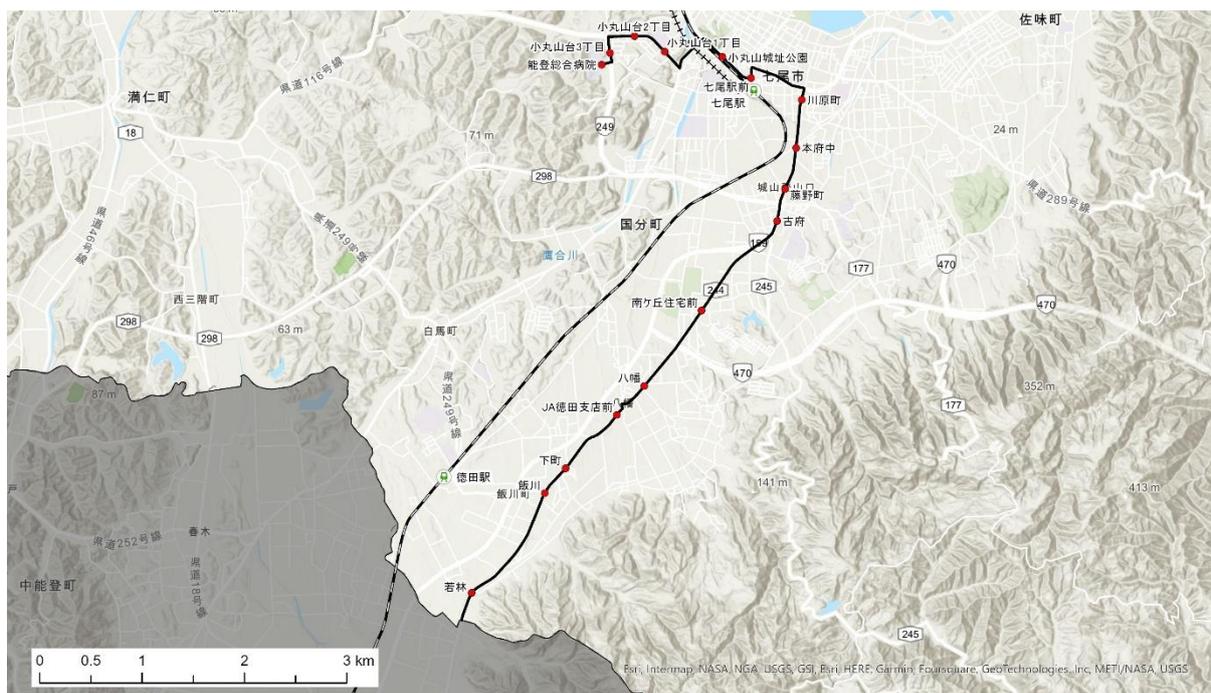
出典:北鉄能登バス提供データ

⑥ 羽七東線利用状況

便数	平日:22 便、土曜日:18 便、日祝:18 便	利用者数 (R3)	196,902 人	スクール バス利用	あり
----	--------------------------	--------------	-----------	--------------	----

・中能登町がスクールバスとして利用を開始したことから、利用者数は増加しており、令和 3 年度は約 19 万 7 千人が利用しています。
 ・中能登町と七尾市間の移動に利用されています。
 ・七尾中学校のスクールバス利用もされていますが、対象となる地域がごく一部のため、生徒の利用はほとんどありません。

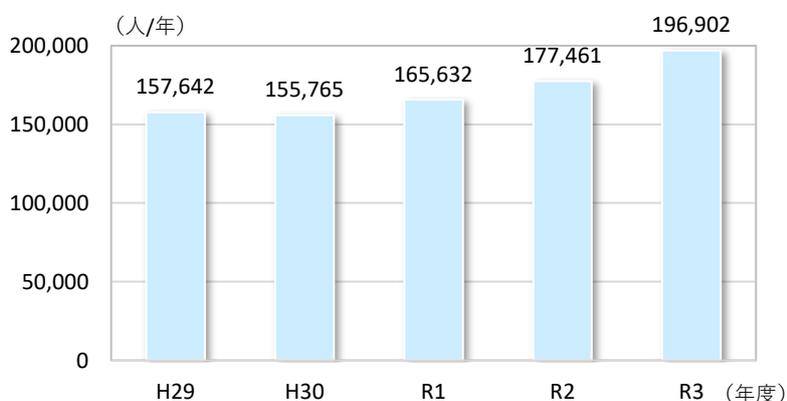
図表 54 羽七東線路線図



羽七東線は羽咋市～中能登町～七尾市を運行しています。

利用者数は増加傾向にあり、令和 3 年度に 196,902 人となり、平成 29 年度の 157,642 人に比べ、24.9%(39,260 人)増加しています。中能登町がスクールバスから路線バス利用へ転換したことにより近年路線全体の利用者が増加しています。

図表 55 羽七東線の利用者数推移(H29～R3)



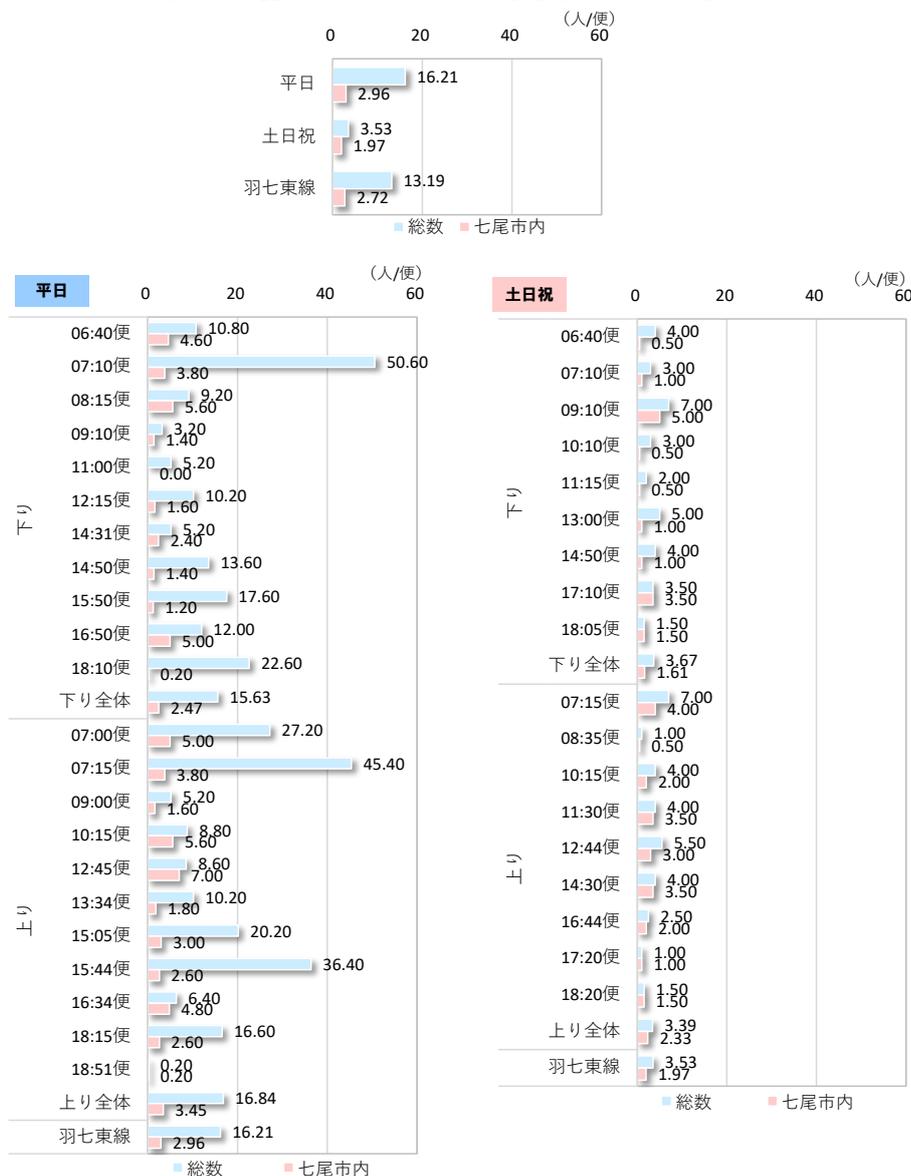
出典:北鉄能登バス提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 2.72 人/便(市外含む:13.19 人/便)、平日が 2.96 人/便(市外含む:16.21 人/便)、休日が 1.97 人/便(市外含む:1.97 人/便)であり、七尾市内の利用は市外に比べ少なく、休日は平日に比べ利用が少なくなっています。便別では平日の上り 12:45 便(市内利用:7.00 人/便)や上り 10:15 便(市内利用:5.60 人/便)、下り 8:15 便(市内利用:5.60 人/便)の利用が多く、休日は下り 9:10 便(5.00 人/便)の利用が多くなっています。

<関係者ヒアリング調査より>

- ・羽七東線は羽咋市～中能登町～七尾市の広域を運行している。羽咋市の利用者は、羽咋市内で移動が完結している場合が多く、中能登町～七尾市は相互に利用をしている。羽咋市～七尾市の移動はほとんどない。
- ・中能登町～七尾市の利用者は、通勤、通学、買物、通院目的である。
- ・中能登町の中能登中学校、鹿島小学校の通学利用で羽七東線を利用しており、路線全体の利用者が増加している。

図表 56 羽七東線の便あたり利用者数(R4.6 月)



※データ期間:令和 4 年 6 月 4 日(土)～10 日(金)

出典:北鉄能登バス提供データ

⑦ 和倉線利用状況

便数	平日:31便、土曜日:19便、日祝:19便	利用者数 (R3)	131,505 人	スクール バス利用	なし
----	-----------------------	--------------	-----------	--------------	----

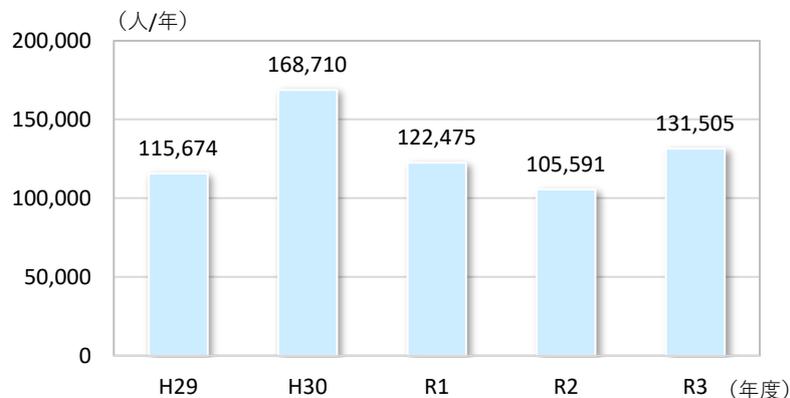
・全体の便数も多く、通勤通学の時間帯以外の利用も比較的多くなっています。
 ・令和元年度以降減少しますが、令和3年度に増加して、約13万2千人が利用しています。
 ・令和元年度以降、それまで多かった観光客の利用が、ほとんどなくなりました。

図表 57 和倉線路線図



利用者数は、平成30年度の168,710人をピークに緩やかに減少するが令和3年度に増加し、令和3年度は131,505人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、22.1%(37,205人)減少しています。

図表 58 和倉線の利用者数推移(H29~R3)



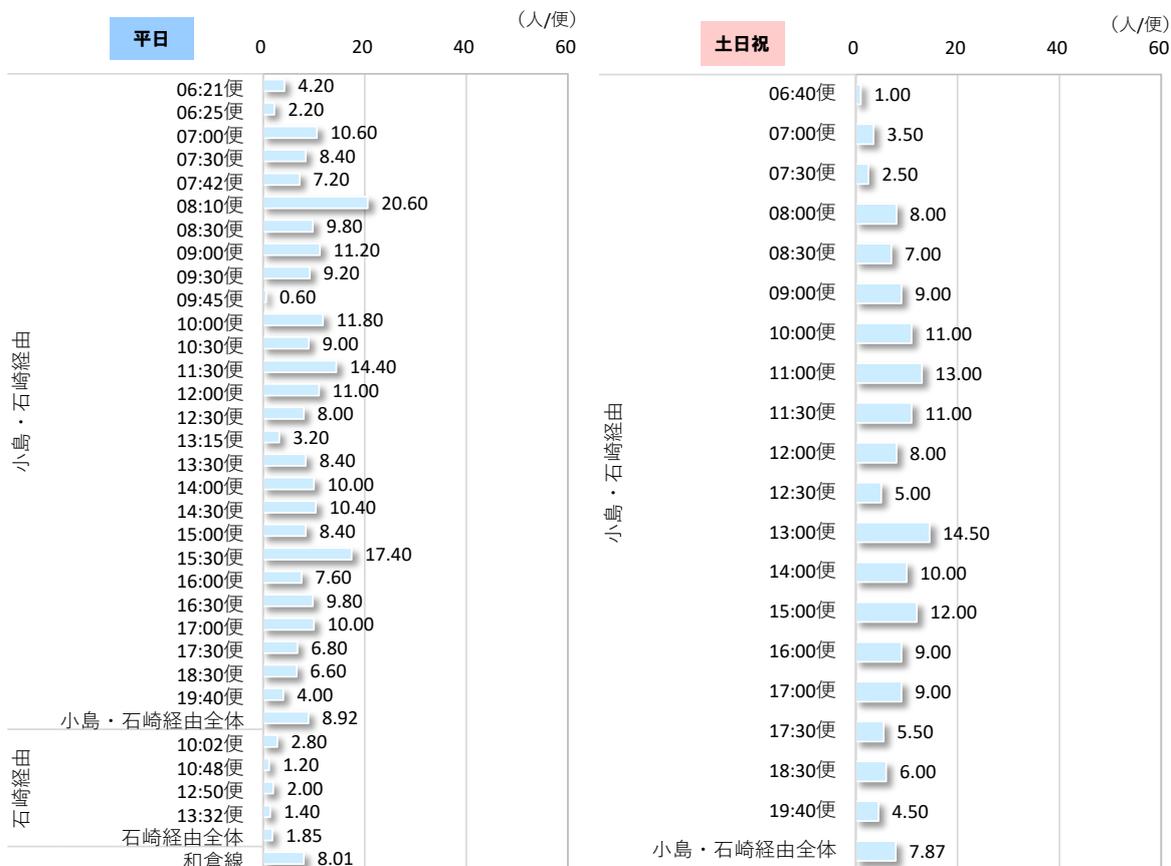
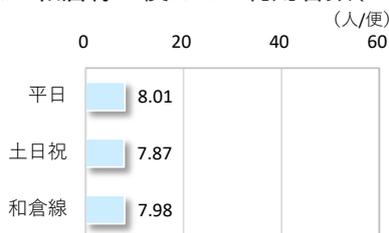
出典:北鉄能登バス提供データ

1便あたりの利用者数をみると、路線は7.98人/便、平日が8.01人/便、休日が7.87人/便となり、平日も休日も同程度の利用があります。便別では平日の小島・石崎経由8:10便(20.60人/便)や小島・石崎経由15:30便(17.40人/便)、小島・石崎経由11:30便(14.40人/便)の利用が多く、休日は小島・石崎経由13:00便(14.50人/便)、小島・石崎経由11:00便(13.00人/便)の利用が多くなっています。

<関係者ヒアリング調査より>

- ・現在は、通勤、通学、通院目的での利用者である。
- ・新型コロナウイルスの影響を受ける前の平成30年度は観光客の利用も多く、路線利用者数が多かった。新型コロナウイルスの感染拡大以降(令和元年度以降)は、観光客の利用はほとんどない。
- ・利用が多い理由として、路線の沿線に住宅地が密集しており、バス停までの距離が近い人が多いことが考えられる。

図表 59 和倉線の便あたり利用者数(R4.6月)



※データ期間:令和4年6月4日(土)~10日(金)

出典:北鉄能登バス提供データ

⑧ 脇線利用状況

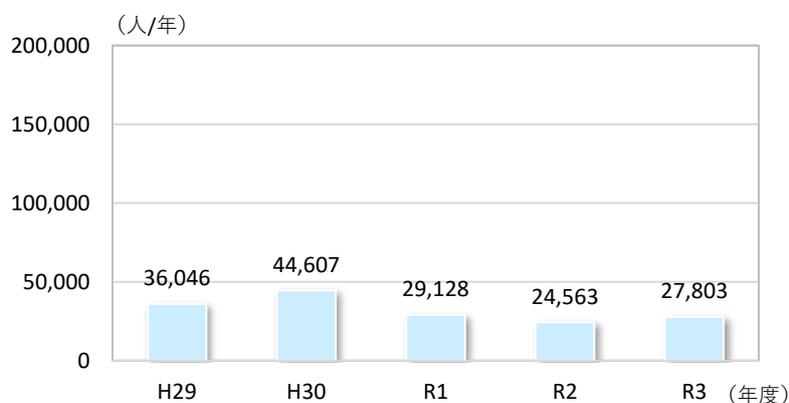
便数	平日:12便、土曜日:10便、日祝:10便	利用者数 (R3)	27,803 人	スクール バス利用	なし
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は減少傾向であり、令和3年度は約2万8千人が利用しています。 ・スクールバスとしての利用や通学目的の利用はされておらず、通勤・通院目的の利用が多くなっています。 					

図表 60 脇線路線図



利用者数は、平成30年度の44,607人をピークに緩やかに減少するが令和3年度に増加し、令和3年度は27,803人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、37.7%(16,804人)減少しています。

図表 61 脇線の利用者数推移(H29～R3)



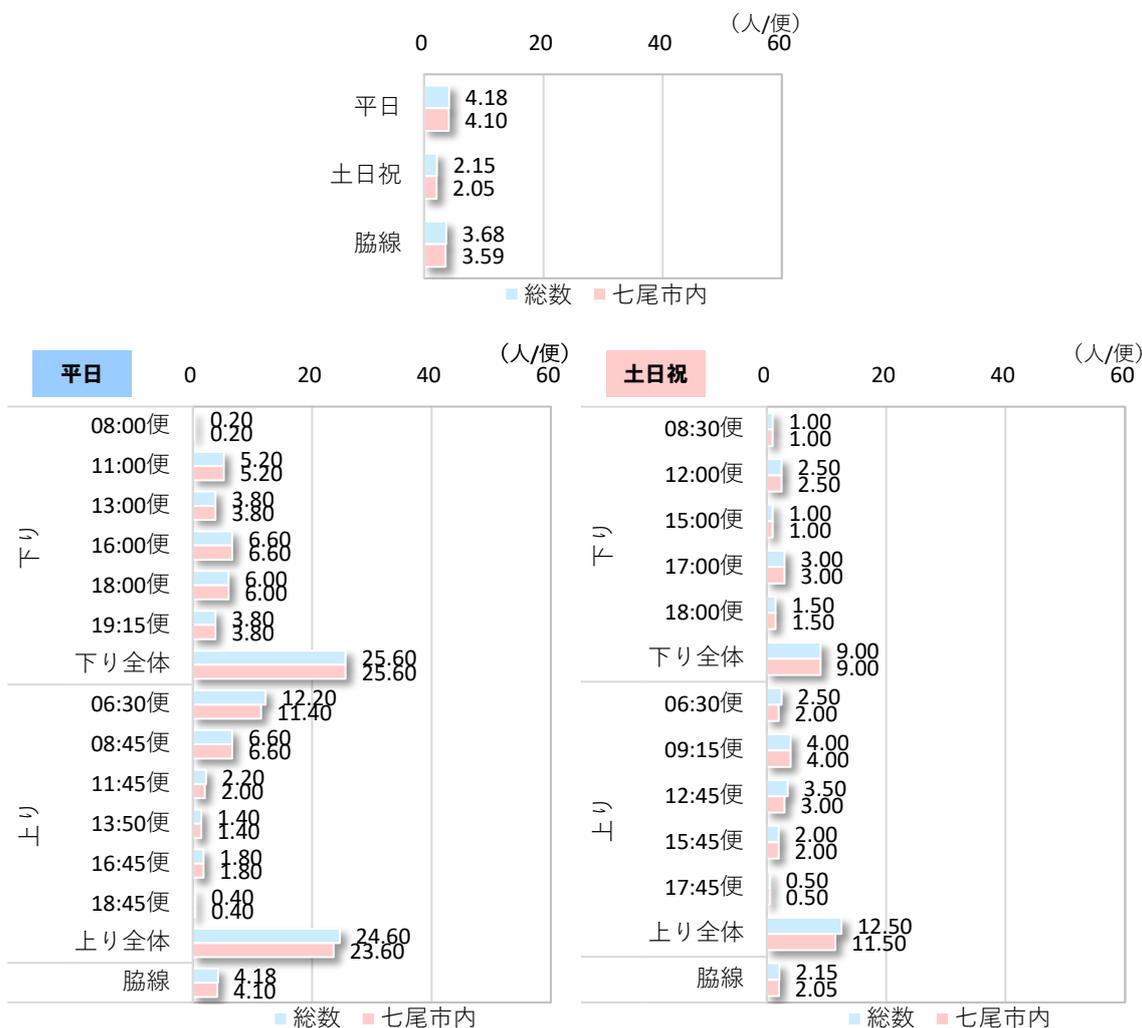
出典:北鉄能登バス提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 3.59人/便(市外含む:3.68人/便)、平日が 4.10人/便(市外含む:4.18 人/便)、休日が2.05人/便(市外含む:2.15人/便)であり、平日に比べ休日の利用が少なくなっています。便別では平日の上り 6:30 便(市内利用:11.40人/便)や下り 16:00 便(市内利用:6.60 人/便)、上り 8:45 便(市内利用:6.60 人/便)の利用が多く、休日は上り 9:15 便(市内利用:4.00 人/便)の利用が多くなっています。

<関係者ヒアリング調査より>

・通勤、通院目的での利用である。今のところ、中学校や高校の通学目的での利用はない。

図表 62 脇線の便あたり利用者数(R4.6 月)



※データ期間:令和4年6月4日(土)~10日(金)

出典:北鉄能登バス提供データ

⑨ 崎山循環線利用状況

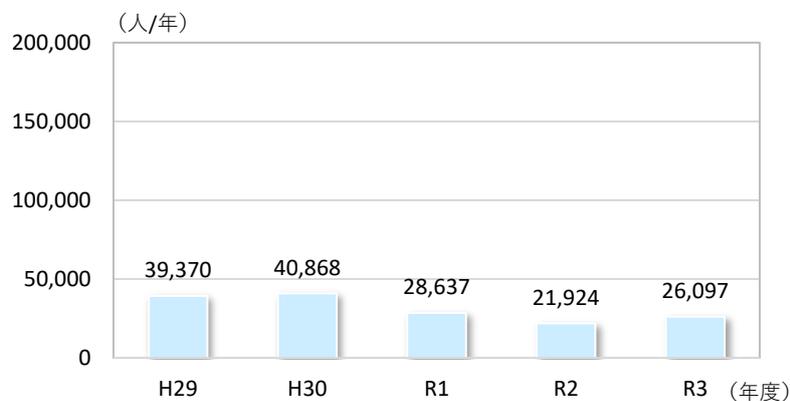
便数	平日:8便、土曜日:4便、日祝:4便	利用者数 (R3)	26,097人	スクール バス利用	なし
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は緩やかに減少しており、令和3年度は約2万6千人が利用しています。 ・スクールバスとしての利用はされておらず、通勤・通院目的の利用が多くなっています。 					

図表 63 崎山循環線路線図



利用者数は、平成30年度の40,868人をピークに緩やかに減少するが令和3年度に増加し、令和3年度は26,097人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、36.1%(14,771人)減少しています。

図表 64 崎山循環線の利用者数推移(H29~R3)



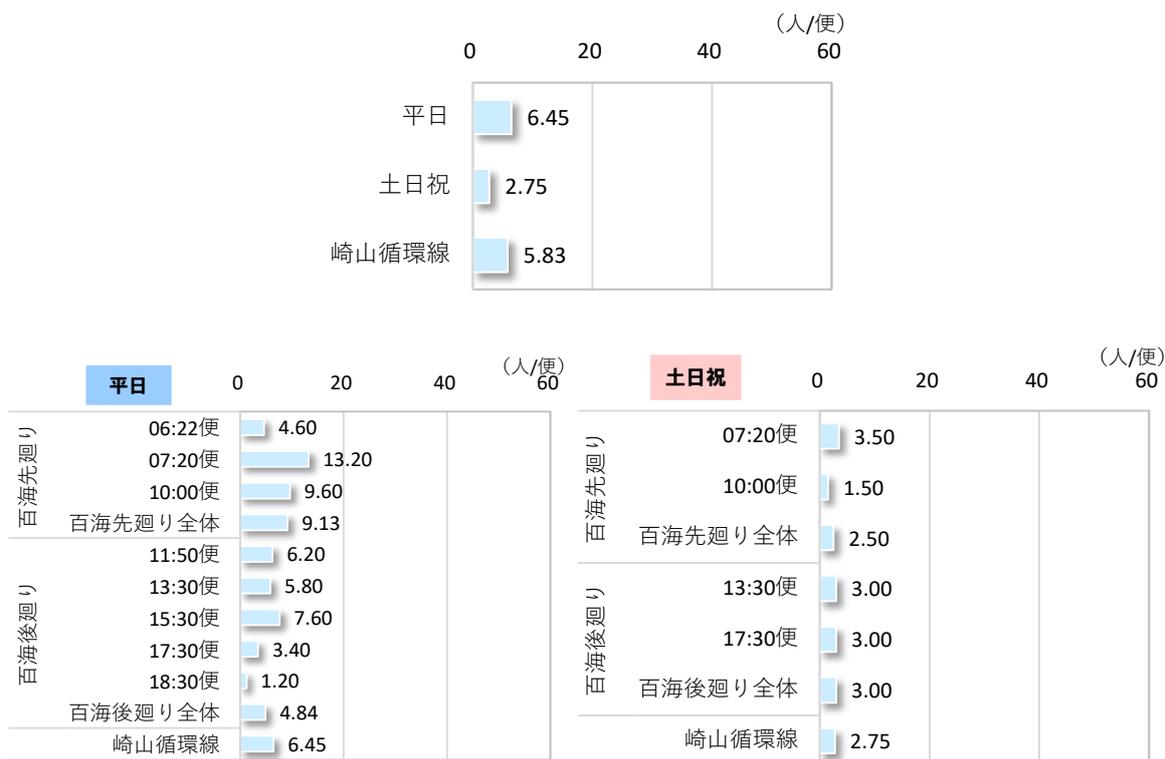
出典:北鉄能登バス提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 5.83 人/便、平日が 6.45 人/便、休日が 2.75 人/便であり、平日に比べ休日の利用が少なくなっています。便別では平日の百海先廻り 7:20 便(13.20 人/便)や百海先廻り 10:00 便(9.60 人/便)の利用が多くなっています。

<関係者ヒアリング調査より>

- ・通勤、通院目的での利用者である。
- ・今年は高校生の通学利用者が1人いる。

図表 65 崎山循環線の便あたり利用者数(R4.6 月)



※データ期間:令和 4 年 6 月 4 日(土)~10 日(金)

出典:北鉄能登バス提供データ

(2)能登島交通

能登島地区を中心に 5 路線が運行されており、すべての路線がスクールバスとして利用されています。利用者数は減少傾向で、令和 3 年度は約 12 万人が利用しています。

① 運行概況

能登島交通は、曲線、祖母ヶ浦線、南線、通線、学校線の 5 路線を七尾市内で運行しています。通線、学校線は通学用のスクールバスとして運行されていますが、一般の混乗も可能な路線となっています。

中学生は各路線を利用して能登島小学校まで行き、能登島小学校からスクールバスで能登香島中学校まで送迎しています。

図表 66 能登島交通運行状況

路線	運行区間	平日の便数	土曜日の便数	日祝の便数
曲線	能登総合病院－のとじま臨海公園	16 便	16 便	16 便
祖母ヶ浦線	マリパーク島の湯－祖母ヶ浦	11 便	11 便	11 便
南線	大橋駐車場－マリパーク島の湯	12 便	12 便	12 便
通線	通－小学校前	4 便	2 便	－
学校線	別所－小学校前	3 便	2 便	－

※通線、学校線は通学用のスクールバスであるが、一般の混乗も可能な路線

出典：能登島交通HP、七尾市提供データ(R5.1 月末時点)

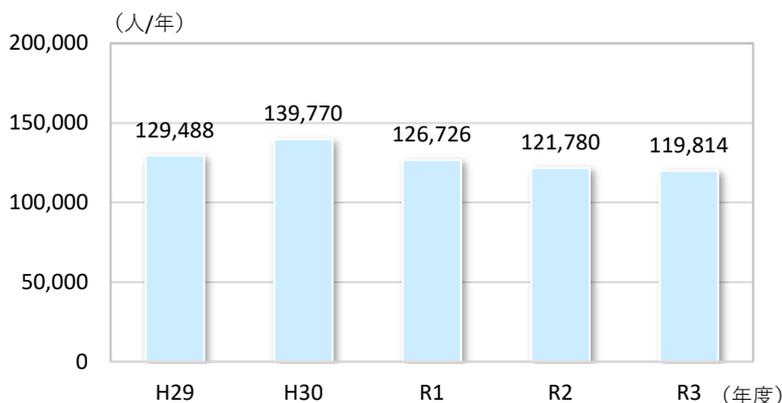
② 能登島交通利用状況

能登島交通の利用者数は、平成 30 年度の 139,770 人をピークに緩やかに減少しており、令和 3 年度は 119,814 人となっています。令和 3 年度は平成 30 年度に比べ、14.3%(19,956 人)減少しています。

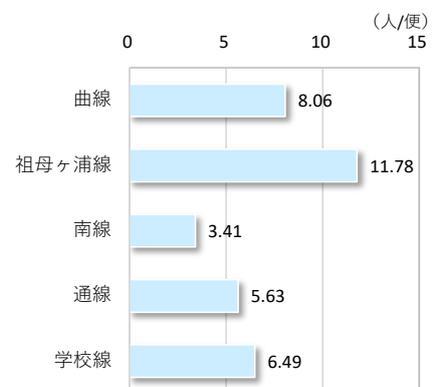
路線別便あたり利用者数をみると、曲線が 8.06 人/便、祖母ヶ浦線が 11.78 人/便、南線が 3.41 人/便、通線が 5.63 人/便、学校線が 6.49 人/便となっています。

※能登島交通の利用者数把握について、定期利用者は乗降者数でカウントせず、申請の定期数を運行日で往復利用としてカウントしており、定期外利用者は運賃収入よりカウントしている

図表 67 能登島交通の利用者数推移(H29～R3)



図表 68 能登島交通の路線別便あたり利用者数(R4.6 月)



出典：能登島交通提供データ

<関係者ヒアリング調査より>

- ・全路線、小中学生のスクールバスとして利用されている。
- ・曲線以外は一般の利用は少数で、特に、通線と学校線は一般の利用はほぼない状況である。
- ・少子化による小中学生の減少に伴い、路線の利用者数も減少している。

③ 曲線別利用状況

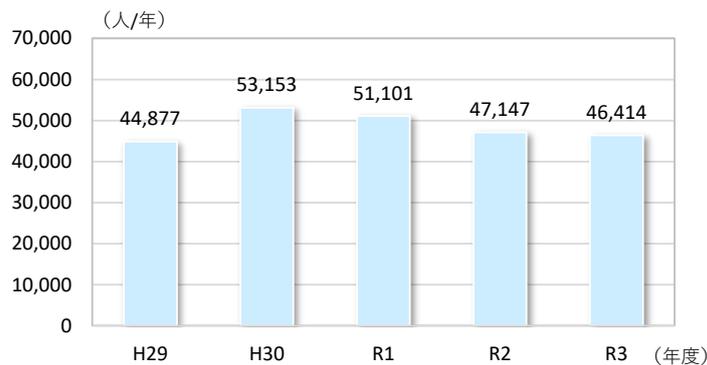
便数	平日:16 便、土曜日:16 便、日祝:16 便	利用者数 (R3)	46,414 人	スクールバス利用	あり
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度以降、利用者数は減少しており、令和3年度は約4万6千人が利用しています。 のどしま水族館等の観光施設へ行くための利用が多く、夏季は積み残しが発生しています。 					

図表 69 曲線路線図



利用者数は、平成30年度の 53,153 人をピークに緩やかに減少しており、令和3年度は 46,414 人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、12.7%(6,739人)減少しています。

図表 70 曲線の利用者数推移(H29~R3)



出典: 能登島交通提供データ

④ 祖母ヶ浦線別利用状況

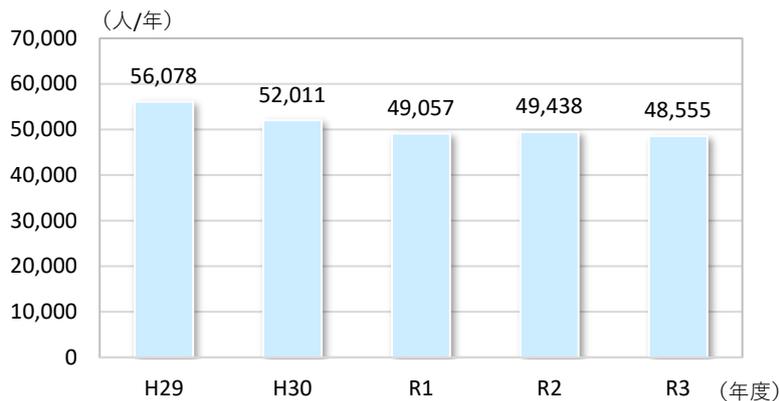
便数	平日:12 便、土曜日:12 便、日祝:12 便	利用者数 (R3)	48,555 人	スクールバス利用	あり
・利用者数は緩やかに減少しており、令和 3 年度は約 4 万 9 千人となっています。					

図表 71 祖母ヶ浦線路線図



利用者数は、平成29年度の 56,078 人をピークに緩やかに減少しており、令和3年度は 48,555 人となっています。令和3年度は平成29年度に比べ、13.4%(7,523 人)減少しています。

図表 72 祖母ヶ浦線の利用者数推移(H29～R3)

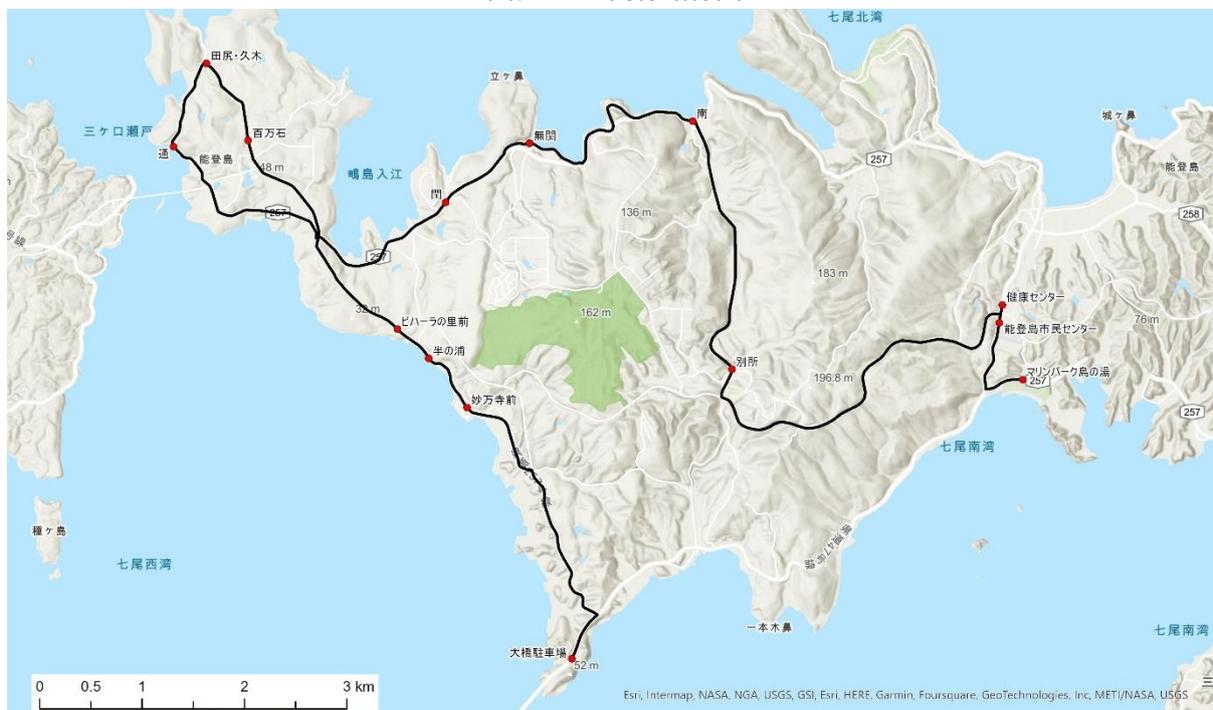


出典: 能登島交通提供データ

⑤ 南線別利用状況

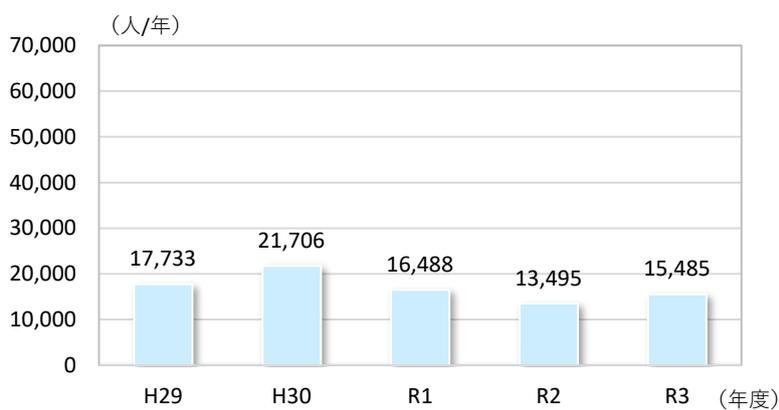
便数	平日:11 便、土曜日:11 便、日祝:11 便	利用者数 (R3)	15,485 人	スクールバス利用	あり
<p>・利用者数は、平成 30 年度をピークに緩やかに減少しており、令和 3 年度は約 1 万 5 千人となっています。</p>					

図表 73 南線路線図



利用者数は、平成30年度の 21,706 人をピークに緩やかに減少しており、令和3年度は 15,485 人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、28.7%(6,221 人)減少しています。

図表 74 南線の利用者数推移(H29～R3)



出典: 能登島交通提供データ

⑥ 通線別利用状況

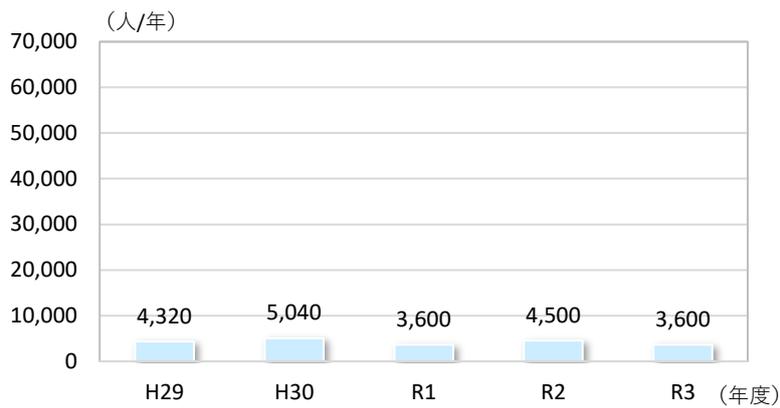
便数	平日:4便、土曜日:2便	利用者数 (R3)	3,600人	スクール バス利用	あり
・平成30年度をピークに減少しており、令和3年度は3,600人となっています。					

図表 75 通線路線図



利用者数は、平成30年度の5,040人をピークに緩やかに減少しており、令和3年度は3,600人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、28.6%(1,440人)減少しています。

図表 76 通線の利用者数推移(H29~R3)



出典: 能登島交通提供データ

⑦ 学校線別利用状況

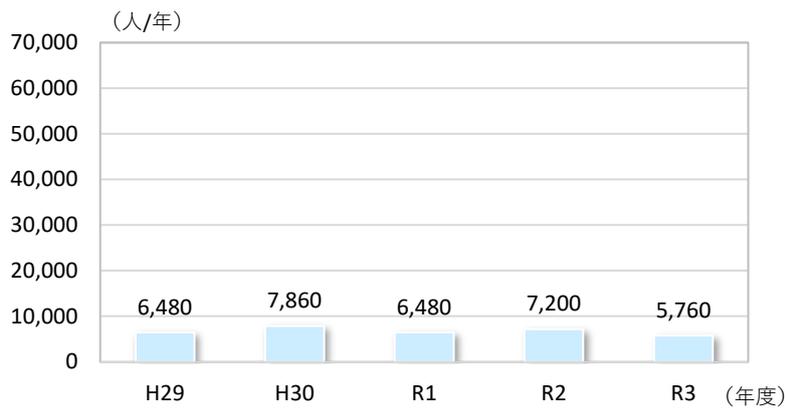
便数	平日:3便、土曜日:2便	利用者数 (R3)	5,760人	スクールバス利用	あり
・平成30年度をピークに減少しており、令和3年度は約5,800人となっています。					

図表 77 学校線路線図



利用者数は、平成30年度の7,860人をピークに減少傾向にあり、令和3年度は5,760人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、26.7%(2,100人)減少しています。

図表 78 学校線の利用者数推移(H29~R3)



出典:能登島交通提供データ

4-4 コミュニティバスの利用状況

(1)コミュニティバス全体

能登島地域を除く各地域でコミュニティバスが運行しており、全部で5路線が運行しています。利用者数は減少しており、令和3年度は約8万7千人が利用しています。

1便当たりの利用者数は、まりん号、ぐるっとセブン及びはなバスが5人以上、やまびこ号とげんきバスが3人以下となっています。

① コミュニティバス運行概要

市内にはコミュニティバスが5路線運行されており、七尾地域は まりん号、ぐるっとセブン、やまびこ号、田鶴浜地域は はなバス、中島地域は げんきバスが運行されています。

図表 79 市営バスの運行状況

路線名	運行区間	便数/日			車両	運賃	
		平日	土	日祝			
まりん号 ^{※1}	順回り	七尾駅前－七尾駅前	8便	8便	8便	ポンチョ 2台	100円
	逆回り	七尾駅前－七尾駅前	8便	8便	8便		
ぐるっと セブン ^{※2}	東コース	七尾駅前－七尾駅前	4便	4便	4便	ポンチョ 1台	170円 から
	西コース	七尾駅前－七尾駅前	5便	4便	4便		
やまびこ号 ^{※3}		七尾駅前－滝尻車庫、七尾駅前	3便	－	－	ハイエース	300円
はなバス ^{※4}		JR 田鶴浜前－田鶴浜診療所	4便	－	4便	ポンチョ	100円
げんきバス	鉾打・熊木方面	すこやか－別所集会所－すこやか	7便	－	－	マイクロバス (29人乗り)	100円
	豊川方面	すこやか－萩谷バス停－すこやか	6便	－	－	マイクロバス (29人乗り)	
	西岸方面	すこやか－西岸バス停－すこやか	6便	－	－	マイクロバス (26人乗り)	
	笠師保方面	すこやか－笠師保駅－すこやか	6便	－	－	ハイエース (15人乗り)	
	いやしの湯直行便	すこやか－いやしの湯	2便	－	－	－	

※1:まりん号、年末年始運休。

※2:ぐるっとセブン(西コース)、朝便は土・日・祝・小学校の休業期間年始運休。

※3:やまびこ号、全区間一律(高校生100円、中学生以下無料)土・日・祝・年末年始運休、月曜日はやまびこ荘休館のため、やまびこ荘は止まらない。

※4:はなバス、祝日のみ運行、日曜日は運休、年末年始運休。

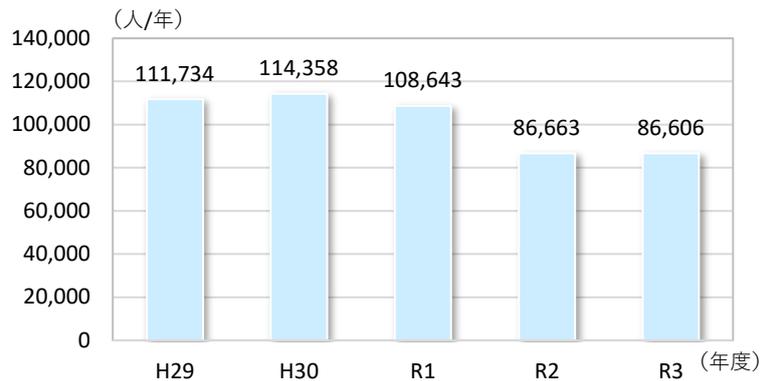
※5:げんきバス、年末年始運休。

② コミュニティバス利用状況

コミュニティバスの利用者は、平成 30 年度の 114,358 人をピークに緩やかに減少しており、令和 3 年度は 86,606 人となっています。令和 3 年度は平成 30 年度に比べ、24.3%(27,752 人)減少しています。

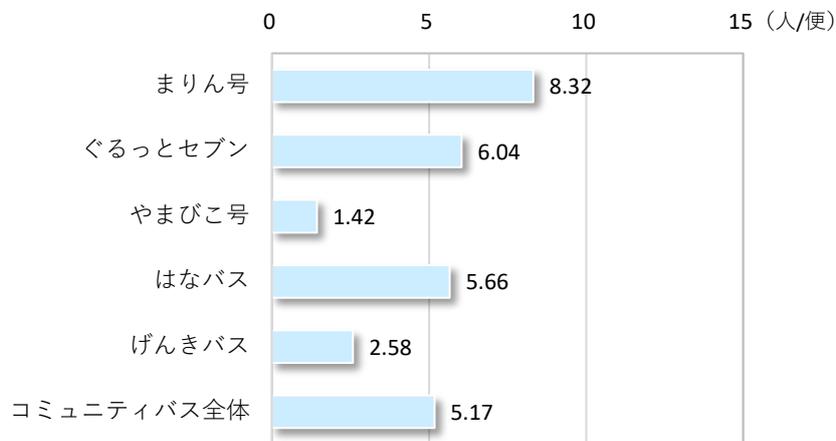
路線別便あたり利用者数をみると、まりん号が 8.32 人/便、ぐるっとセブンが 6.04 人/便、やまびこ号が 1.42 人/便、はなバスが 5.66 人/便、げんきバスが 2.58 人/便となっています。

図表 80 コミュニティバス利用者数推移(H29~R3)



出典:七尾市提供データ

図表 81 コミュニティバスの路線別便あたり利用者数(R4.6 月)



出典:七尾市提供データ

(2)まりん号利用状況

便数	平日:16 便、土曜日:16 便、日祝:16 便	利用者数(R3)	45,517 人	スクールバス利用	なし
	順回り 平日、土曜日、日祝:8 便 逆回り 平日、土曜日、日祝:8 便				

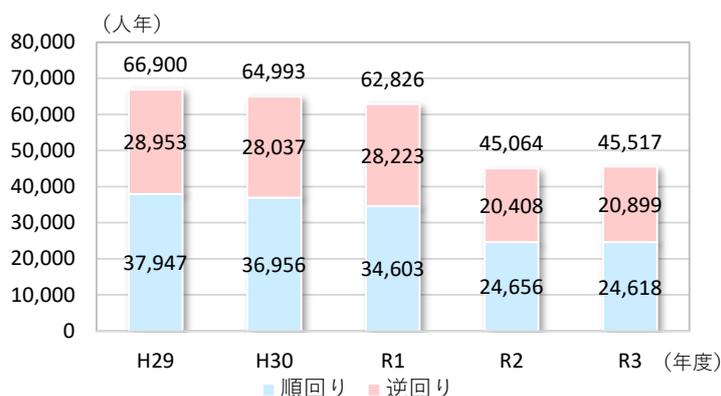
・令和 2 年度以降、利用者数は大きく減少し、令和 3 年度は約 4 万 6 千人が利用しています。
 ・通院利用や沿線施設利用の目的での利用が多く、午前中の便の利用が多くなっています。
 ・過密なダイヤ設定やルート上に道路幅の狭いところがあるなど、安全に運転するための課題があります。

図表 82 まりん号路線図



利用者数は、平成 29 年度以降緩やかに減少しており、令和元年度から令和 2 年度にかけ大きく減少し、令和 2 年度から令和 3 年度は横ばいで推移し、令和 3 年度は 45,517 人となっています。令和 3 年度は平成 29 年度に比べ、32.0%(21,383 人)減少しています。

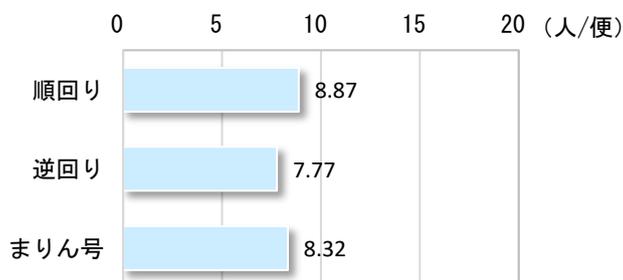
図表 83 まりん号利用者数推移(H29~R3)



出典:七尾市提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 8.32 人/便、順回りが 8.87 人/便、逆回りが 7.77 人/便となっています。順回りに比べ逆回りの利用がやや少なくなっています。

図表 84 まりん号の便あたり利用者数(R4.6 月)



出典:七尾市提供データ

<関係者ヒアリング調査より>

- ・通院利用や沿線施設利用の目的での利用が多い。また、天候が悪い日は、高校生(鵬学園の生徒)の利用がある。観光客の利用はほとんどない。
- ・午前中の便の利用が多く、午後は利用が少なくなり、夕方の便の利用はほとんどない。順回りの方が、利用が多い。

(3)ぐるっとセブン利用状況

便数	平日:9 便、土曜日:8 便、日祝:8 便	利用者数(R3)	16,926 人	スクールバス利用	あり
	西コース 平日:5 便、土曜日、日祝:4 便 東コース 平日、土曜日、日祝:4 便	便あたり利用者数(R4.6月)	6.04 人/便		

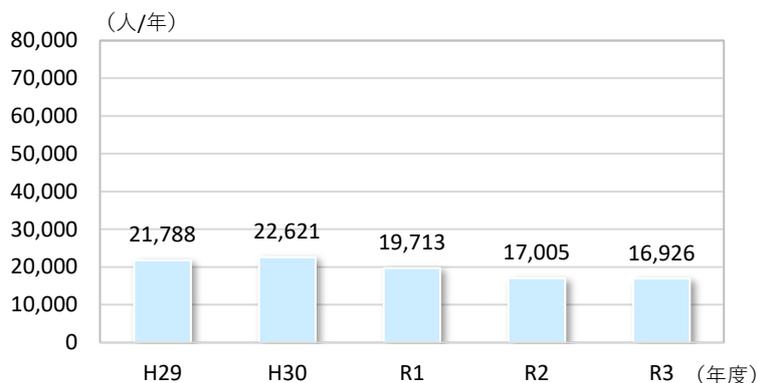
・平成 30 年度をピークに緩やかに減少し、令和 3 年度は約 1 万 7 千人が利用しています。
 ・1 便当たりの利用者数は、西コースが約 8 人、東コースが約 3 人となっています。西コースは、小丸山小学校の児童のスクールバスとして利用されており、利用が多くなっています。

図表 85 ぐるっとセブン(左:西コース、右:東コース)路線図



利用者数は、平成 30 年度の 21,621 人をピークに緩やかに減少し、令和 3 年度は 16,926 人となっています。令和 3 年度は平成 30 年度に比べ、25.2%(5,695 人)減少しています。

図表 86 ぐるっとセブン利用者数推移(H29~R3)

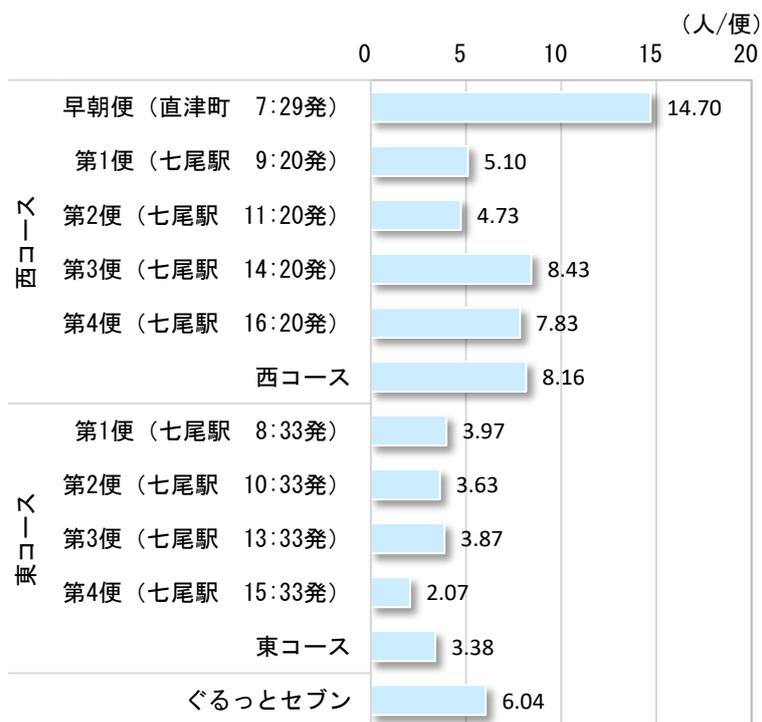


出典:七尾市提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 6.04 人/便、西コースが 8.16 人/便、東コースが 3.38 人/便となっており、西コースに比べ東コースの利用が少なく、便別では西コースの早朝便(14.70 人/便)や西コースの第 3 便(8.43 人/便)の利用が多くなっています。

西コースの早朝便は小丸山小学校のスクールバス利用として運行を始めました。早朝便が登校、第 3 便、第 4 便が下校で利用されています。

図表 87 ぐるっとセブンの便あたり利用者数(R4.6 月)



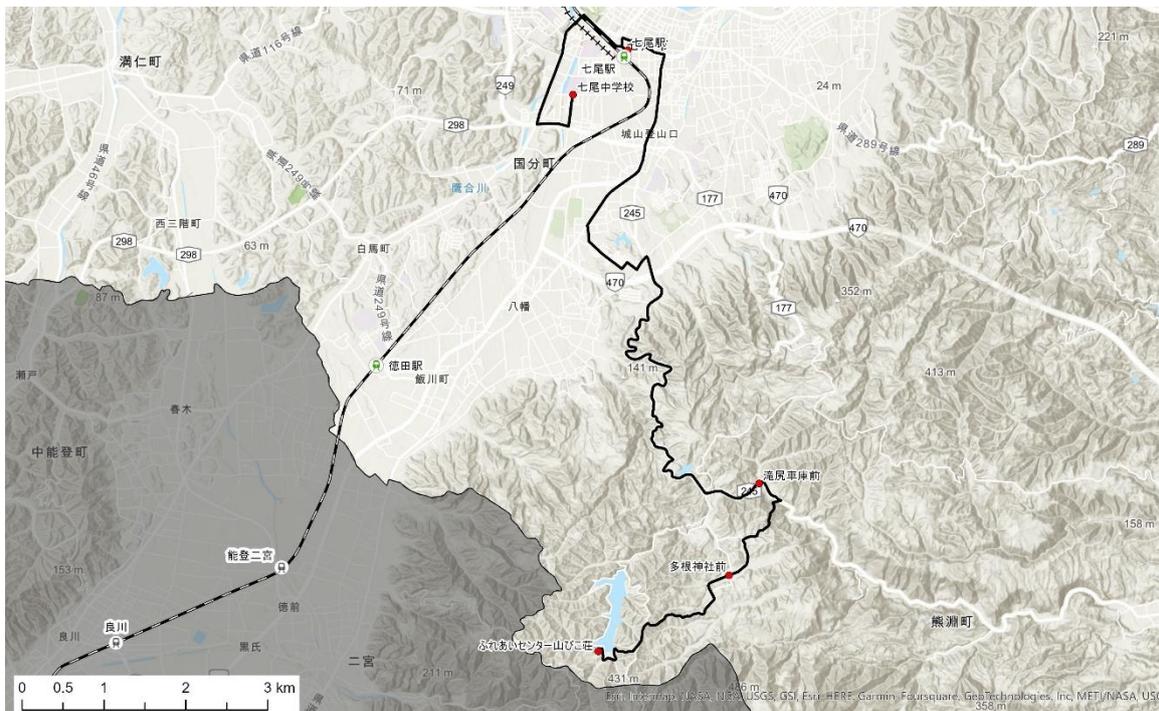
出典:七尾市提供データ

(4)やまびこ号利用状況

便数	平日:3 便	利用者数(R3)	833 人	スクールバス利用	あり
		便あたり利用者数(R4.6月)	1.42 人/便		

・利用者数はほぼ横ばいで、令和3年度は約800人が利用しています。
 ・交通空白地域の解消として、スクールバスの空き時間にコミュニティバスとして運行しています。
 ・午前1便と午後1便の利用がほとんどで、午後2便の利用はほとんどありません。

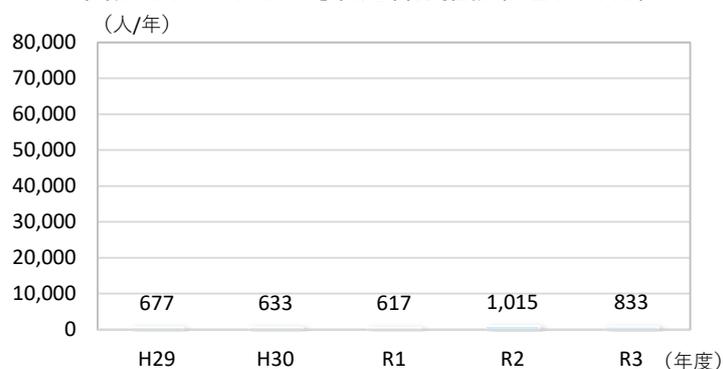
図表 88 やまびこ号路線図



やまびこ号は、スクールバスとして運行していましたが、交通空白地区解消のため、スクールバスの空き時間を活用して、コミュニティバスとしても運行しています。

利用者数は、平成 29 年度から令和元年度は横ばいに推移し、令和 2 年度に増加し 1,015 人となり、令和 3 年度に減少し、833 人となっています。令和 3 年度は令和 2 年度に比べ、17.9%(182 人)減少しています。

図表 89 やまびこ号利用者数推移(H29～R3)



出典:七尾市提供データ

1日あたりの利用者数は4.27人/日であり、1便あたりの利用者数は1.42人/便となっています。

図表 90 やまびこ号の日・便あたり利用者数(R4.6月)



出典:七尾市提供データ

図表 91 やまびこ号のタイムスケジュール(R4)

	停留所	時間
午前① (スクールバス)	市役所車庫	7:00
	アクティブタウン千野	7:15
	国分町集会所	7:26
	下町センター	7:36
	朝日小学校	7:40
	JR七尾駅	8:00

※災害・悪天候時を除き、朝日小学校の全児童が下町センターで降車する。

※徒歩での通学が困難な場合は、朝日小学校までバスで登校する。

※網掛け部分が平成30年度からの変更点。

午前② (コミュニティバス)	JR七尾駅	8:30
	山びこ荘	8:55
	多根神社前	9:00
	滝尻車庫前	9:05
	JR七尾駅	9:25

午後① (コミュニティバス)	JR七尾駅	14:30
	滝尻車庫前	14:55
	多根神社前	15:00
	山びこ荘	15:05
	JR七尾駅	15:30

午後② (スクールバス)	朝日小学校	15:50
	国分町集会所	16:01
	アクティブタウン千野	16:11
	朝日小学校	16:20

午後③ (スクールバス)	朝日小学校	16:30
	国分町集会所	16:41
	アクティブタウン千野	16:50
	市役所車庫	17:05

午後④ (コミュニティバス)	JR七尾駅	18:40
	七尾中学校	18:50
	多根神社前	19:15
	滝尻車庫前	19:20
	市役所車庫	19:45

出典:七尾市提供データ

(5) はなバス利用状況

便数	平日:4 便、祝日:4 便	利用者数(R3)	6,298 人	スクールバス利用	なし
		便あたり利用者数(R4.6月)	5.66 人/便		

・利用者数は増加しており、令和3年度は約6千人が利用しています。
 ・高校生の利用が多く、また数も増えてきています。昼間は、能登病院とアスロンの利用が多くなっています。

はなバスは全4便あり、各便でルートが異なります。

図表 92 はなバス第1便路線図



図表 93 はなバス第2便路線図



図表 94 はなバス第3便路線図

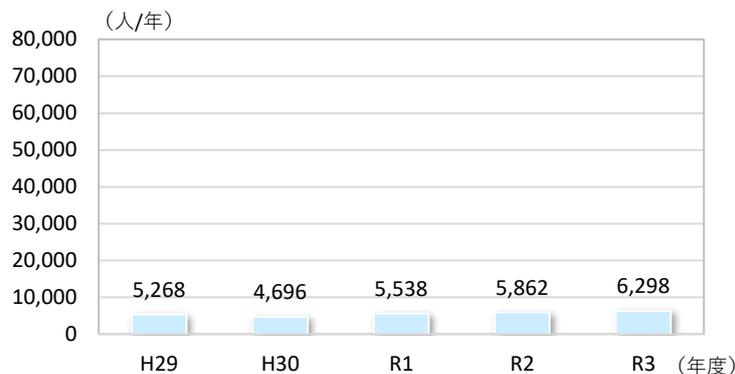


図表 95 はなバス第4便路線図



利用者数は、平成30年度以降増加しており、令和3年度は 6,298 人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、34.1%(1,602 人)増加しています。

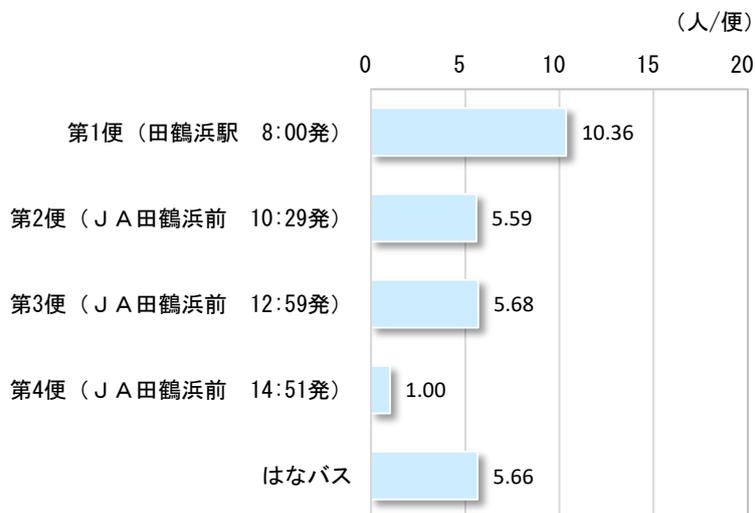
図表 96 はなバス利用者数推移(H29~R3)



出典:七尾市提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、路線は 5.66 人/便でとなっており、便別では第1便の 10.36 人/便の利用が最も多く、次いで第 3 便が 5.68 人/便、第 2 便が 5.59 人/便が多くなっています。

図表 97 はなバスの便あたり利用者数(R4.6 月)



出典:七尾市提供データ

<関係者ヒアリング調査より>

- ・第1便は、高校生の利用が多い。晴れた日で 4~5 人、雨の日で 10 人以上の利用。
- ・第2、3便は、通院、買物目的で、アスロン(お風呂・買物)、能登病院の利用が多い。アスロンを利用すると、お風呂も入れて、買物もできるため、バスの待ち時間が苦にならない。
- ・第4便は、高校生が下校に利用しているが、利用は少ない状況である。
- ・高校生の利用が増えてきている。
- ・田鶴浜診療所の利用は、以前は多かったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により少なくなっている。
- ・新規利用者は免許返納者。能登病院の利用が増えてきた。
- ・田鶴浜駅、笠師保駅とダイヤがあっていないため乗換利用はないが、ダイヤが接続したら利用者は増えるのではないかと。

(6)げんきバス利用状況

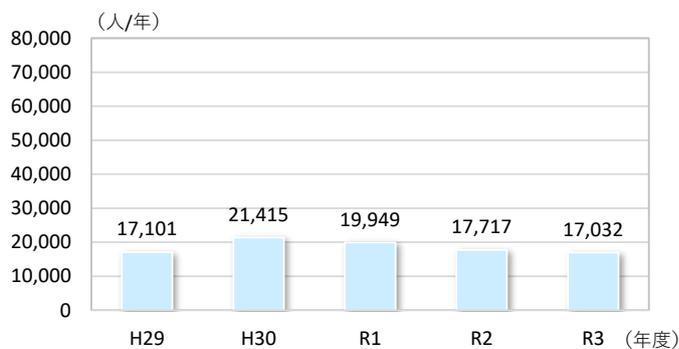
① げんきバス全体

げんきバスの利用者数は、平成30年度の 21,415 人をピークに減少しており、令和3年度は 17,032 人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、20.5%(4,383人)減少しています。

1便あたりの利用者数をみると、路線は 2.58 人/便であり、方面別では鉦打・熊木方面が 4.84 人/便、豊川方面が 1.91 人/便、西岸方面が 2.54 人/便、笠師保方面が 1.20 人/便、いやしの湯直行便が 0.91 人/便となっています。

中島中学校の下校用のスクールバスとして運行しています。鉦打・熊木方面のみ登校のための便も運行しています。

図表 98 げんきバス利用者数推移(H29～R3) 図表 99 げんきバスの便あたり利用者数 (R4.6月)



出典:七尾市提供データ

<関係者ヒアリング調査より>

- ・中島中学校の下校のための便を運行している。
- ・高齢者にとっては、100円で利用できるげんきバスは貴重。
- ・利用者数の変動は、中学生の人数の変動が主な要因である。

② 鉈打・熊木方面

便数	平日:7便	利用者数(R3)	7,683人	スクールバス利用	あり
		便あたり利用者数(R4.6月)	4.84人/便		

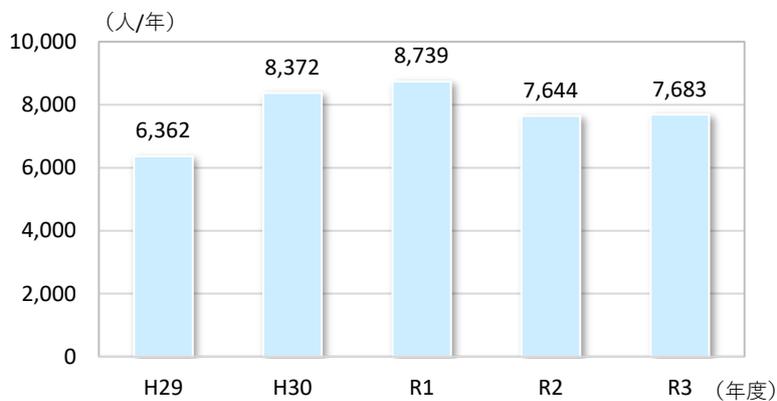
- ・中島中学校の登下校のスクールバス利用がされています。
- ・令和2年度以降、利用者数は減少しており、令和3年度は約8千人が利用しています。
- ・高校生や通勤客が、中島駅でのと鉄道に乗継しています。

図表 100 げんきバス鉈打・熊木方面路線図



げんきバスの鉈打・熊木方面は、中島中学校の登下校のためのスクールバス利用がされています。利用者数は、平成29年度以降増加していましたが、令和元年度の8,739人をピークに減少し、令和3年度は7,683人となっています。令和3年度は令和元年度に比べ、12.1%(1,056人)減少しています。

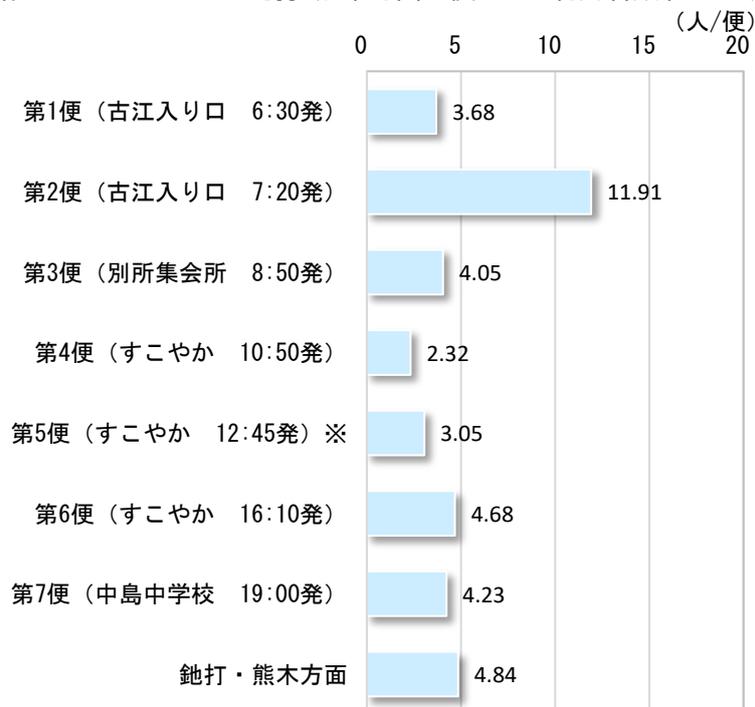
図表 101 げんきバス鉈打・熊木方面利用者数推移(H29～R3)



出典:七尾市提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、げんきバス鉦打・熊木方面は 4.84 人/便となっています。便別では第 2 便の 11.91 人/便の利用が最も多く、次いで第 6 便が 4.68 人/便が多くなっています。

図表 102 げんきバス鉦打・熊木方面の便あたり利用者数(R4.6 月)



※第 5 便はすこやか→別所集会所→すこやかの往復運行

出典:七尾市提供データ

③ 豊川方面

便数	平日:6 便	利用者数(R3)	3,415 人	スクール	あり
		便あたり利用者数(R4.6月)	1.91 人/便	バス利用	

- ・中島中学校の下校のスクールバスとして運行していますが、今年度は中学生の利用がなく、調査期間の利用(R4.6月)がゼロとなっています。
- ・平成29年度以降、利用者数は減少しており、令和3年度は約3千人となっています。

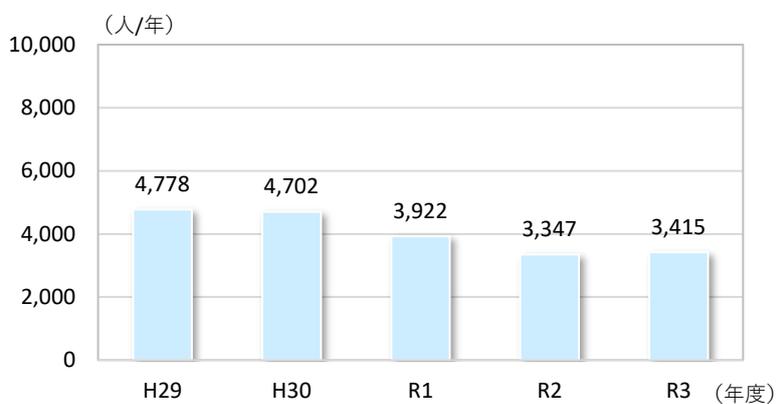
図表 103 げんきバス豊川方面路線図



げんきバスの豊川方面は、下校時のスクールバス利用ができるよう運行していますが、中学生の利用が少なくなってきました。

利用者数は、平成29年度以降減少しており、令和3年度は 3,415 人となっています。令和3年度は平成29年度に比べ、28.5%(1,363 人)減少しています。

図表 104 げんきバス豊川方面利用者数推移(H29～R3)



出典:七尾市提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、げんきバス豊川方面は 1.91 人/便となっており、便別では第 2 便の 5.09 人/便の利用が最も多く、次いで第 3 便が 2.36 人/便が多くなっています。

図表 105 げんきバス豊川方面の便あたり利用者数(R4.6 月)



※第 4 便はすこやか→萩谷バス停→すこやかの往復運行

出典:七尾市提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、げんきバス西岸方面は 2.54 人/便となっており、便別では第 5 便の 3.86 人/便の利用が最も多く、次いで第 2 便が 3.82 人/便が多くなっています。

図表 108 げんきバス西岸方面の便あたり利用者数(R4.6 月)



※第 4 便はすこやか→田岸バス停→すこやかの往復運行

出典:七尾市提供データ

⑤ 笠師保方面

便数	平日:6 便	利用者数(R3)	2,105 人	スクール	あり
		便あたり利用者数(R4.6月)	1.20 人/便	バス利用	(冬季)

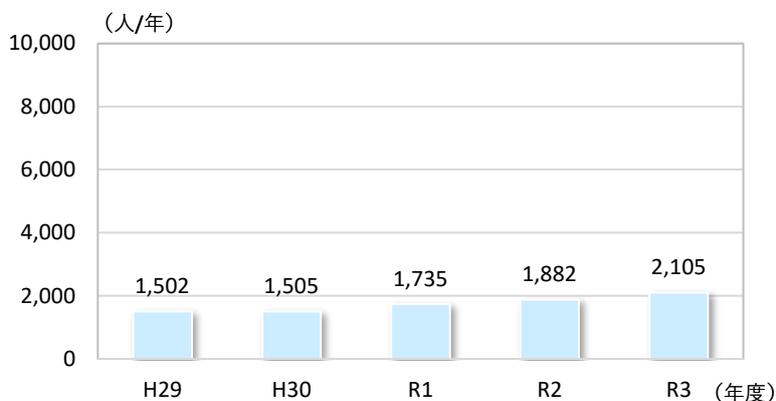
・冬季に、中島中学校の下校のスクールバスとして運行しています。
 ・平成29年度以降、利用者数は増加しており、令和3年度は約 2 千人となっています。
 ・笠師保地区の方は、七尾市街地に行く方が多いためか、各方面別のげんきバスのなかで笠師保方面の利用が最も少なくなっています。

図表 109 げんきバス笠師保方面路線図



げんきバスの笠師保方面は、冬季の下校時のスクールバス利用ができるよう運行しています。利用者数は、平成29年度以降増加しており、令和3年度は 2,105 人となっています。令和3年度は平成29年度に比べ、40.1%(603 人)減少しています。

図表 110 げんきバス笠師保方面利用者数推移(H29~R3)



出典:七尾市提供データ

1 便あたりの利用者数をみると、げんきバス笠師保方面は 1.20 人/便となっており、便別では第 5 便の 2.82 人/便の利用が最も多く、次いで第 2 便が 2.23 人/便が多くなっています。

図表 111 げんきバス笠師保方面の便あたり利用者数(R4.6 月)



※第 4 便はすこやか→笠師保駅→すこやかの往復運行

出典:七尾市提供データ

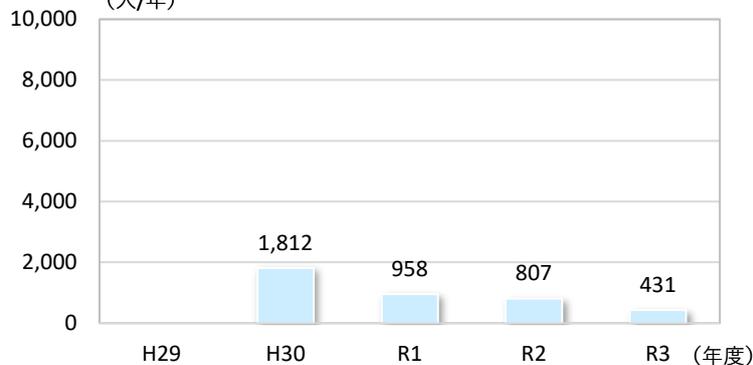
⑥ いやしの湯直行便

便数	平日:2 便	利用者数 (R3)	2,105 人	スクール バス利用	なし
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から運行が始まりました。各方面のげんきバスはすこやかに停車し、すこやかからいやしの湯までの送迎を行っています。 高齢化や新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、いやしの湯の利用者が減少していることに伴い、いやしの湯直行便の利用者数も減少しており、令和3年度は約400人に留まりました。 					

げんきバスのいやしの湯直行便は、平成30年度から運行を開始しています。利用者数は減少しており、令和3年度は431人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、76.2%(1,308人)減少しています。

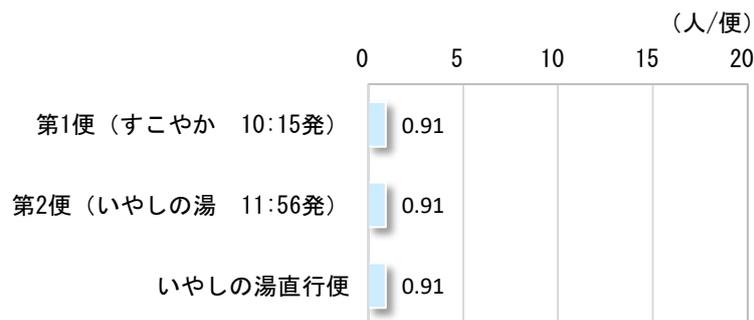
1便あたりの利用者数をみると、げんきバスいやしの湯直行便は0.91人/便となっており、第1便も第2便も0.91人/便となっています。

図表 112 げんきバスいやしの湯直行便利用者数推移(H29~R3)
(人/年)



出典:七尾市提供データ

図表 113 げんきバスいやしの湯直行便の便あたり利用者数(R4.6月)



出典:七尾市提供データ

4-5 デマンド交通の現状

現在、南大呑地区と鉾打地区で、地域住民が主体となってフィーダー路線としてデマンド交通を運行しています。

(1)南大呑地区

① 運行概況

南大呑地区では、北鉄能登バス水上線の廃止に伴い、水上線沿線住民を脇線との接続バス停まで有償で運送する「南大呑さわやか送迎サービス」を実施しています。平成29年度に実証実験を行い、平成30年4月から本格運行しています。

図表 114 南大呑さわやか送迎サービス運行状況

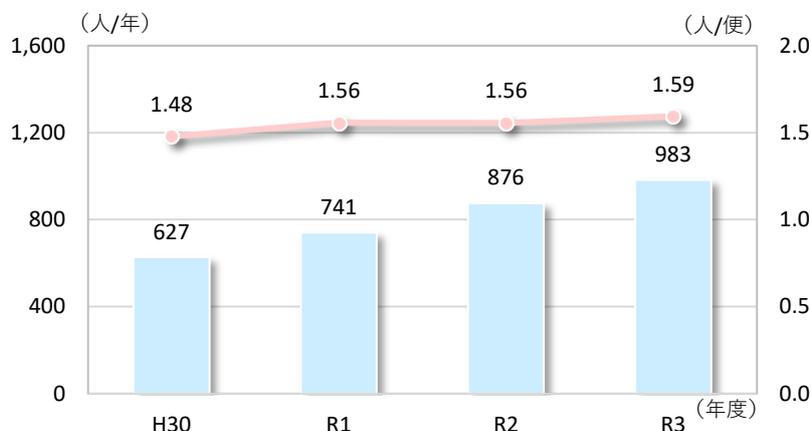
実施主体	南大呑地域づくり協議会
運行区域	水上町集会所前～花園口バス停 北鉄能登バスの脇線に乗り継ぐための移動 地域内移動のための乗車も可(例：郵便局・寺・行事などでの利用)
運行日	火曜日・水曜日・金曜日
運休日	土・日・月・木・祝日・年末年始(12/29～1/3)・盆(8/14～16)
利用料金	1回の乗車につき50円
予約	原則として前日までに予約 (午後便のみ当日の8:30～11:00に予約可)
予約先	送迎担当者の携帯電話
運行便	花園口行:4便(水上集会所 08:18 発、11:18 発、13:18 発、16:18 発) 水上行:3便(花園口 11:41 発、13:41 発、16:41 発)

出典:七尾市提供データ

② 南大呑さわやか送迎サービス利用状況

利用者数は増加傾向にあり、令和3年度に983人となっています。令和3年度は平成30年度に比べ、57%(356人)増加しています。1便あたりの利用者数も増加しており、令和3年度に1.59人/便となっています。

図表 115 南大呑さわやか送迎サービス利用者数推移(H30～R3)



出典:七尾市提供データ

(2) 鉈打地区

鉈打地区のデマンド交通の概要は以下のとおりです。

図表 116 鉈打地区のデマンド交通の概要

実施概要	歩行距離の制約がある高齢者の新たな交通手段を確保するため、高齢者住民を対象に買物支援事業(買物同行)を実施している。※有償運送
実施期間	令和4年8月開始
実施主体	鉈打ふるさとづくり協議会
利用料金	中島地区内:往復利用 800 円 中島地区⇄田鶴浜地区:往復利用 1,000 円

出典:七尾市提供データ

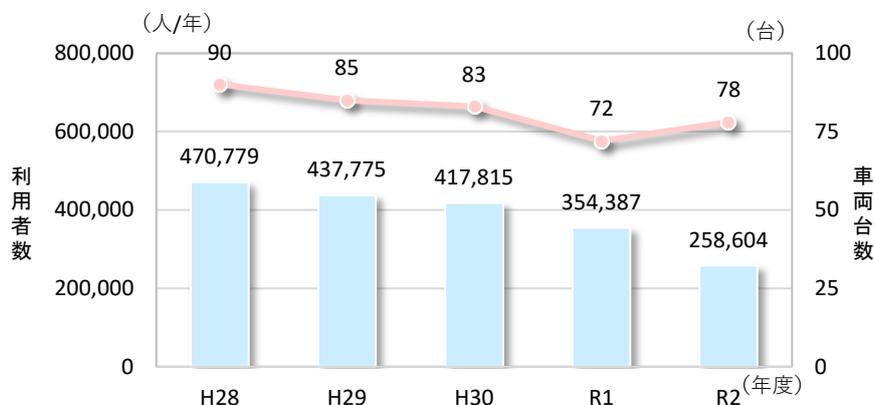
4-6 タクシーの利用状況

タクシーの利用者数、車両台数ともに減少傾向となっています。

市内のタクシー輸送人員は減少傾向にあり、令和2年度に258,604人となっています。令和2年度は平成28年度に比べ、45.1%(212,175人)減少しています。

車両台数も減少傾向ですが、令和元年度から令和2年度にやや増加し、令和2年度は78台となっています。

図表 117 七尾市内のタクシー輸送人員・車両台数推移(H28～R2)



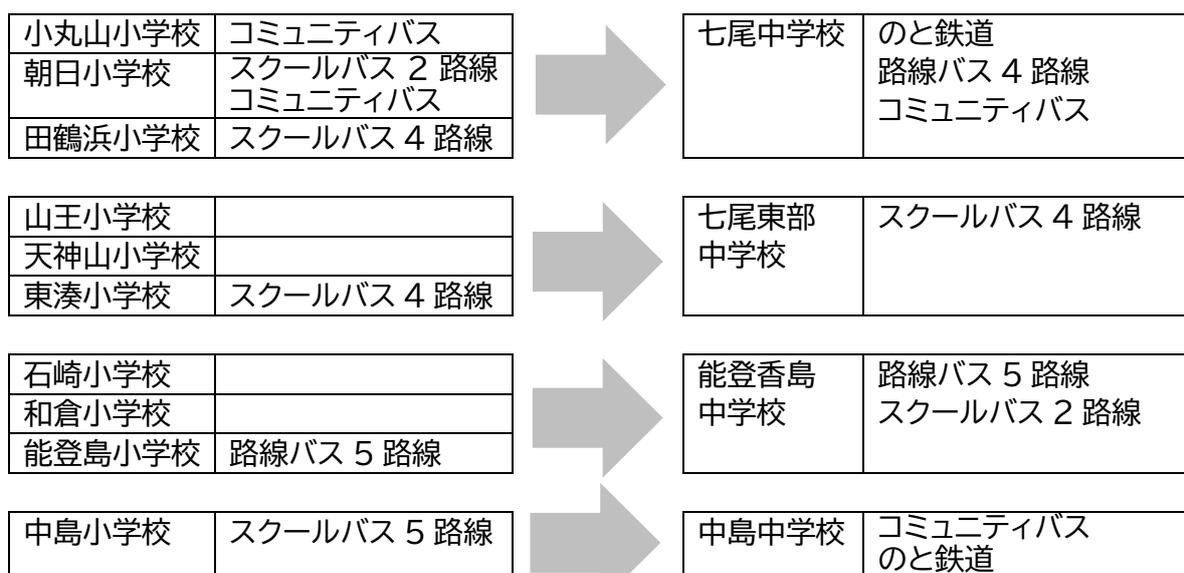
出典:七尾市統計書

4-7 スクールバスの現況

七尾市では多様な地域公共交通を利用して小・中学生が通学していますが、少子化により、今後利用が大きく減少することが予測されます。

(1) スクールバス等運行概要

市内の小・中学校のスクールバス等の利用状況は以下のとおりです。



〔バスの路線名〕

【小丸山小学校】 ぐるっとセブン
 【朝日小学校】 やまびこ号
 【能登島小学校】 曲線、祖母ヶ浦線、南線、通線、学校線

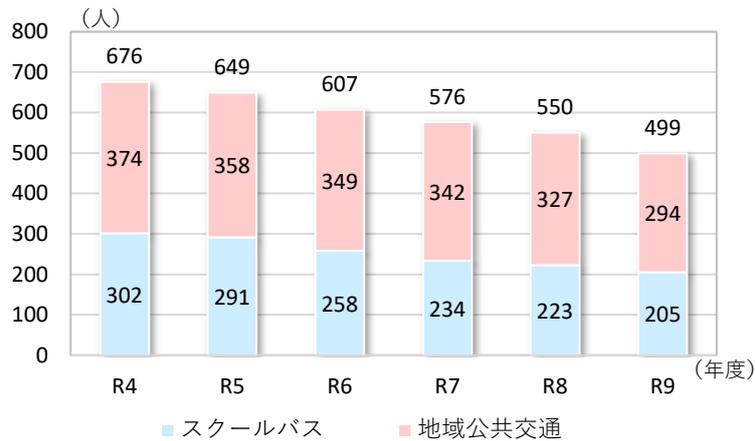
【七尾中学校】 三階線、満仁線、高浜線、羽七東線、ぐるっとセブン
 【能登香島中学校】 曲線、祖母ヶ浦線、南線、通線、学校線
 【中島中学校】 げんきバス鉦打・熊木方面、豊川方面、西岸方面

(2)スクールバス等の利用者の推移予測

七尾市内の小・中学校スクールバス等利用者は令和4年度が676人であり、令和5年度以降利用者は緩やかに減少し、令和9年度には499人となる見込みです。

地域公共交通を利用して通学している児童生徒数は令和4年度が374人となっています。令和5年度以降利用者は緩やかに減少し、令和9年度には294人となる見込みです。児童生徒1名につき、年間200日往復利用すると、年間約32,000人の利用者数の減少となります。

図表 118 七尾市内の小・中学校スクールバス等利用者の推移予測



出典:七尾市提供データ

4-8 運行事業者が抱える課題

日々の便別バス停別利用者数の整理が行われていない路線があり、路線の評価や改善のための検討ができない状況になっています。

- ・利用者数の記録を日々実施しているかは路線によって異なり、特に七尾市が実施主体のコミュニティバスにおいては、便別バス停別利用者数が把握できていません。

運行事業者へのヒアリングから得られた主な意見を示します。

バスの安全な運行を確保できる改善が必要となります。

- ・路上駐車が多くてバスが運行しづらい区間がある。
- ・まりん号は、過密なダイヤとなっているため、時間に遅れてしまうことがある。運転手が安全な運行をすることができるダイヤまたはルートにしてほしい。
- ・道路が狭隘で、走行に苦労しているルートがあるため、運行ルートを変更し安全性を向上したい。

運転手不足と働き方改革により、運行できない便や路線が出てくる可能性があります。

- ・現状、運転手が不足している中、働き方改革で、運転手の 1 人あたりの労働時間が今より制限される場合、人手不足が顕著となる。経費面で問題がなくても、運転手不足で運行できなくなる時間(便)や路線が出てくるかもしれない。

当初の計画と異なった要望に対応しているため負担になっています。

- ・路線バス、貸切バスの車両をスクールバスとしても使用しており、学校の下校時間変更に伴うスクールバスの運行時間変更により車両、運転手不足となることが懸念される。(新型コロナウイルスの影響が落ち着き、貸切バスをスクールバスの運行に使用することが困難になると想定される。)

経営が厳しいため、車両の購入が厳しい状況となっています。

- ・運行ルートに狭隘な道路があるため、中型車両でしか運行できない路線がある。しかし、現在の中型車両は古く、更新をしたいが、中古市場からの入手が難しく、新車を購入することは、財政的に難しい。

タクシー事業が厳しい状況にあるなか、今後の利用者にとっての利便性の確保のため、営業区域の柔軟な対応が必要となります。

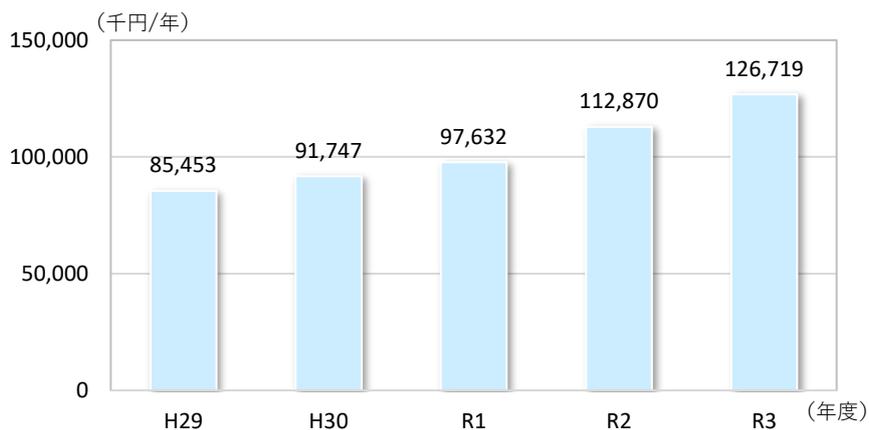
- ・一般乗用の営業区域が鹿島郡になっており、近隣からの依頼でも断っていることがある。今後タクシー事業者が減っていくことが予想されるため、また利用者にとってわかりづらいため、隣接区域なら営業可能等の対応が必要。
- ・運転手の高齢化と売上げの減少で、タクシー事業が大変厳しい状況。土日祝日の運行のとりやめや運行時間帯の短縮を行っている事業者が増えてきた。

4-9 地域公共交通にかかる市負担費用

地域公共交通にかかる市の負担額は増加しており、令和 3 年度は約 1 億 2,700 万円であり、平成 29 年度から約 50%増加しています。

地域公共交通にかかる市負担額は、年々増加しており、令和 3 年度に約 1 億 2,672 万円であり、平成 29 年度に比べ 48.3%(約 4,127 万円)増加しています。

図表 119 地域公共交通にかかる市負担額推移(H29～R3)



出典:七尾市提供データ

5章 地域公共交通を取り巻く課題の整理

課題① 市全体として地域公共交通ネットワークの構築

・JR 七尾線、のと鉄道、路線バス、コミュニティバス、スクールバス等、多様な地域公共交通が運行しているものの、鉄道とバスの乗継がよくない等の意見が見られます。また、合併前の地域を基本とした公共交通サービスの提供がされています。市全体としてのネットワークの構築が必要です。

課題② 地域ごとの移動と市内全地域への移動の利便性の向上

・買物の目的地、利用している地域公共交通、スクールバスとその他の地域公共交通の役割分担等は地域ごとに異なっています。一方、通勤・通学・通院先は七尾地域の中心部に集中しており、鉄道がある地域では鉄道とバス路線の乗継向上が望まれています。地域ごとの特性に配慮しながら、市内の移動の利便性を向上させることが必要です。

課題③ 人口減少に伴う既存路線の利用者数の減少への対応

・利用者数の減少等によって、市の財政負担は増加しています。利用促進を進めると共に、効率的かつ持続可能な交通手段を検討することが必要です。

課題④ 市民・事業者・行政の連携

・市民の地域公共交通の維持への意識は高いものの利用には結びついていません。また、運行事業者にとって、安全で持続可能なサービスの提供が厳しくなっています。市民・事業者・行政が地域公共交通の抱える課題等を共有し、課題解決のために行動することが必要です。

課題⑤ 地域公共交通によってまちの魅力を高める

・医療、福祉、商業、教育、観光等様々なサービスを楽しむまちづくりを進めるうえで、地域公共交通は重要な社会資本となります。地域公共交通ネットワークを改善し、まちの魅力をさらに高めることが必要です。

6章 基本方針・目標指標

6-1 基本方針

方針1 多様な移動手段を一体的に捉えた地域公共交通ネットワークの構築

- ・JR七尾線、のと鉄道、路線バス、コミュニティバス、スクールバス、タクシー等、市内を運行している公共交通全般を一体的に捉え、市民の移動ニーズに応えるよう、地域公共交通ネットワークを再編します。
- ・各地域の中心部と鉄道駅を拠点とした地域公共交通ネットワークを形成します。

方針2 誰もが自動車に頼らなくても豊かに暮らせるよう地域公共交通の利便性を向上

- ・地域公共交通は、医療、福祉、商業、交通安全、教育、観光、まちづくり、地域コミュニティなど多岐にわたる分野に関係しており、市民の日々の暮らしの満足度を向上させる可能性は大きいです。豊かな暮らしの実現を目指し、市民のニーズにあった利便性の高い地域公共交通サービスを提供します。

方針3 市内全体で適切な地域公共交通サービスの提供を行う

- ・市内全体での地域公共交通のサービスのバランスを保ちながら、地域の実態に応じた運行の効率化を行い、限りある資源の有効活用を図ります。

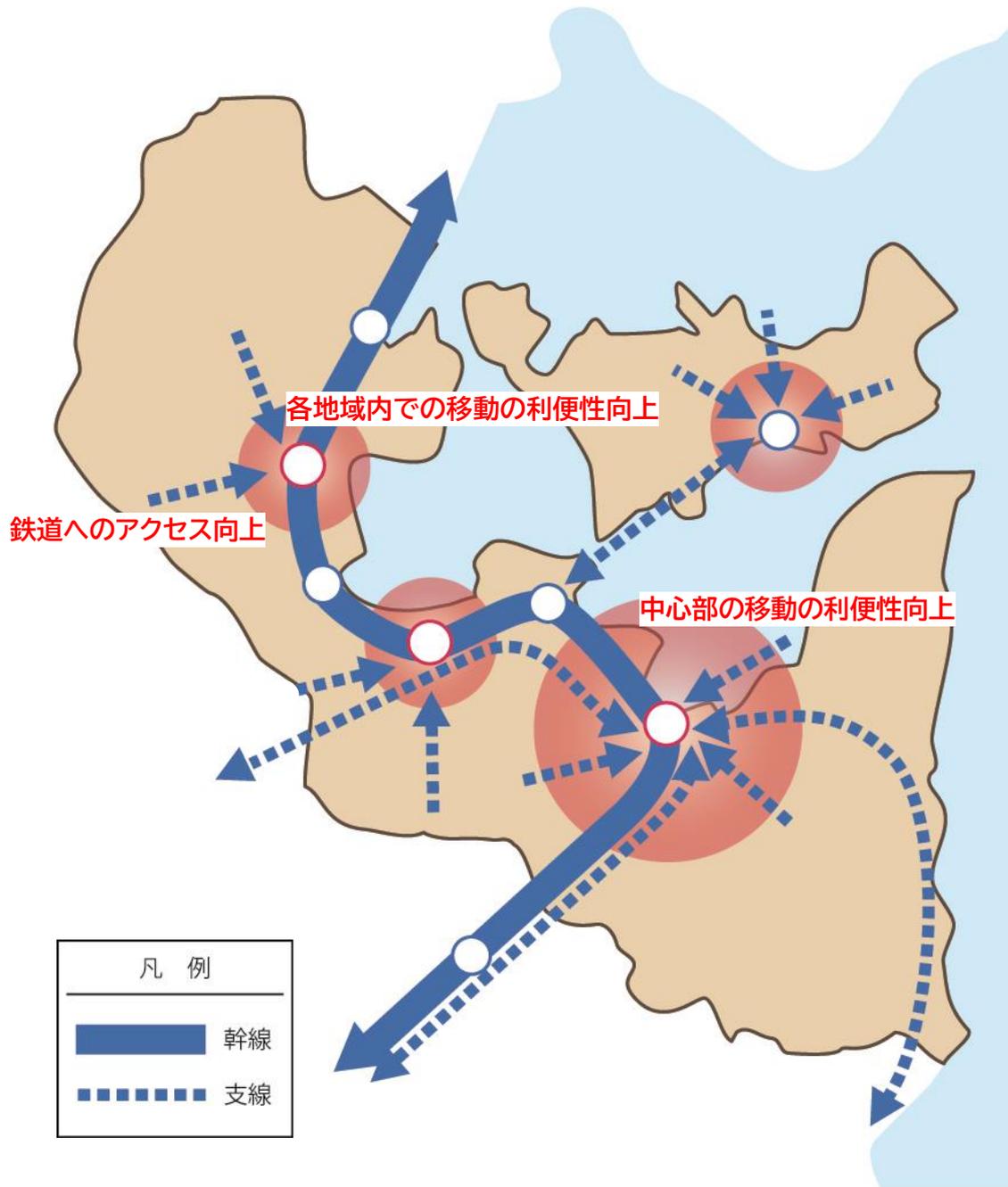
方針4 市民・事業者・行政等、多様な主体が関わり、地域公共交通をつくる

- ・地域公共交通を維持していくためには、地域で支えあうことが必要不可欠です。さまざまな立場の市民、地域公共交通に関わる関係機関、事業者が、主体的に参加・連携し地域公共交通の活性化を図ります。

方針5 地域公共交通により、健康づくり、魅力づくり等、まちづくりを促進させる

- ・福祉、観光、祭やイベント、中心市街地活性化の取り組みなどと地域公共交通を連携させ、誰もが気軽におでかけしたくなるような環境を整えます。

図表 120 七尾市地域公共交通ネットワーク図



図表 121 地域公共交通の位置づけと確保・維持方針

位置づけ	役割	路線名	確保・維持方針	
幹線	都市間の広域的な移動を支える路線	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 七尾線 ・のと鉄道七尾線 	交通事業者と連携し、需要の確保を行う	
支線	地域内の日常的な移動を支える路線で、幹線や地域拠点に接続する路線	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス 脇線 羽七東線 高浜線 和倉線 三階線 満仁線 崎山循環線 曲線 祖母ヶ浦線 南線 学校線 通線 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス まりん号 ぐるっとセブン やまびこ号 はなバス げんきバス 		交通事業者と連携し、需要の確保を行いつつ、利用状況に応じた改善を実施 まりん号、げんきバスは、地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民主体のデマンド交通 		地域住民主体のフィーダー路線への補助
		<ul style="list-style-type: none"> ・七尾中心部のデマンド交通 	導入可能性の検討を行う	

6-2 目標指標

基本方針の達成度を把握するため、以下の指標と目標指標を設定します。

●目標 1

目標指標	現況値 (令和 3 年度)	目標値 (令和 9 年度)	評価年
市内公共交通利用者数	171.1 万人	172.0 万人	毎年

【評価方法等】各交通事業者より利用者数データを収集、JR、のと鉄道、北鉄能登バス、能登島交通、コミュニティバス、デマンド交通の利用者数計

【目標値】現況値に人口ビジョンの令和 2 年から令和 7 年の人口減少割合(95.41%)を乗じた値から 5%増加した値

●目標 2

目標指標	現況値 (令和 3 年度)	目標値 (令和 9 年度)	評価年
地域公共交通にかかる市負担費用	1 億 2,672 万円	現状より減少	毎年

【評価方法等】路線バス、コミュニティバス、デマンド交通の市負担費用の合計から国県補助を引いた市の実質負担額

●目標 3

目標指標	現況値 (令和 4 年度)	目標値 (令和 9 年度)	評価年
コミュニティバス1便当たりの平均利用者数	5.17 人/便	現状より改善	毎年

【評価方法等】全てのコミュニティバス利用者数を運行便数で除した値(現況値は令和 4 年 6 月の実績値)

7章 目標達成のための施策と事業

7-1 施策体系

基本方針達成のための取組み施策、事業、実施主体を以下に示します。

基本方針	施策	事業	実施主体
基本方針 1 多様な移動手段を一体的に捉えた地域公共交通ネットワークの構築	1-1 ネットワーク再編に向けた公共交通の推進	①コミュニティバスの鉄道駅へのアクセス強化	七尾市
		②地域住民主体のフィーダー路線維持・拡張	地域住民、七尾市
		③DXを活用した新たな公共交通の検討	運行事業者
基本方針 2 誰もが自動車に頼らなくても豊かに暮らせるよう地域公共交通の利便性を向上	2-1 市内の公共交通の安全性と利便性向上	①まりん号の見直し	運行事業者、七尾市
		②貨客混載での配送サービスの検討	運行事業者
		③タクシーの営業区域の見直しの検討	運行事業者、七尾市
	2-2 市民へのわかりやすい情報提供	①バス路線沿線住民への周知活動	七尾市
		②マイ時刻表の作成	七尾市
		③検索しやすい環境の整備	運行事業者、七尾市
基本方針 3 市内全体で適切な地域公共交通サービスの提供を行う	3-1 利用状況に応じた効率的な運行	①コミュニティバスのバス停別利用者数の記録	運行事業者、七尾市
		②コミュニティバスの利用状況に応じた便数の設定	七尾市
	3-2 少子化に伴う対応	①スクールバス利用状況の把握と対応策の検討	七尾市
基本方針 4 市民・事業者・行政等、多様な主体が関わり、地域公共交通をつくる	4-1 多様な主体が関わるための仕組みづくり	①スクールバス運行のための調整	運行事業者、七尾市
		②地域住民主体のフィーダー路線維持・拡張(再掲)	地域住民、七尾市
	4-2 地域公共交通利用のための意識醸成	①地域公共交通に関する情報発信	七尾市
		②地域公共交通に親しむイベント等の開催	運行事業者、七尾市
基本方針 5 地域公共交通により、健康づくり、魅力づくり等、まちづくりを促進させる	5-1 施設やイベント等との連携	①イベントでの公共交通利用の呼びかけ	七尾市
	5-2 福祉の取組みとの連携	①「通いの場」での相談会の実施	七尾市
		②生活支援コーディネーター等を通じた周知活動	七尾市社会福祉協議会、七尾市
	5-3 商工・観光の取組みとの連携	①観光企画切符の販売	運行事業者
		②ラッピング車両の運行	運行事業者

7-2 取組み施策の内容

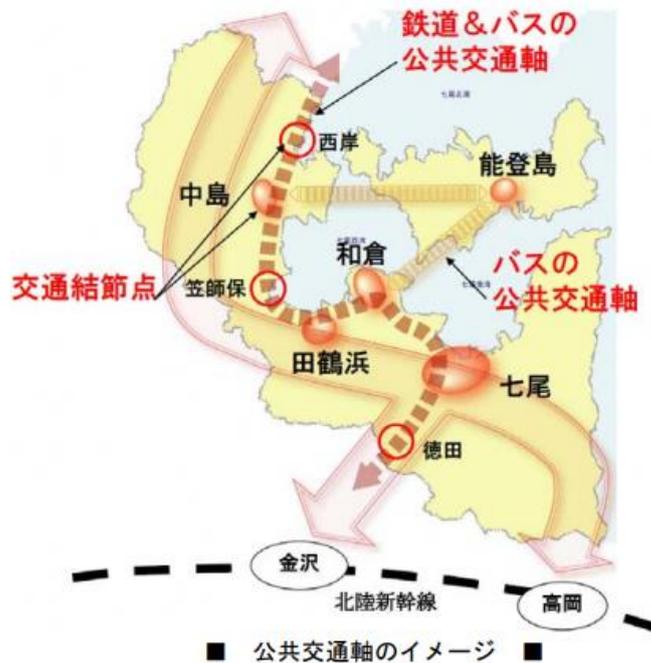
基本方針1 多様な移動手段を一体的に捉えた地域公共通ネットワークの構築

1-1 ネットワーク再編に向けた公共交通の推進

① コミュニティバスの鉄道駅へのアクセス強化 実施主体:七尾市

広域幹線であるJR七尾線とのと鉄道七尾線の利用促進のため、はなバス・げんきバスと、のと鉄道七尾線の乗継を改善し、さらなるアクセス強化を図ります。

図表 122 「七尾市都市マスタープラン」公共交通ネットワークの配置・整備方針の図



■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

② 地域住民主体のフィーダー路線の維持・拡張 実施主体:地域住民、七尾市

現在、南大呑地区と鉾打地区で、地域住民が主体となってフィーダー路線としてデマンド交通を運行しています。また、能登島地域では交通事業者と地域住民が合同でデマンド交通の実証実験を始めています。今後、これらの地区をモデルとして、必要に応じて導入を検討します。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

③ DX を活用した新たな公共交通の検討

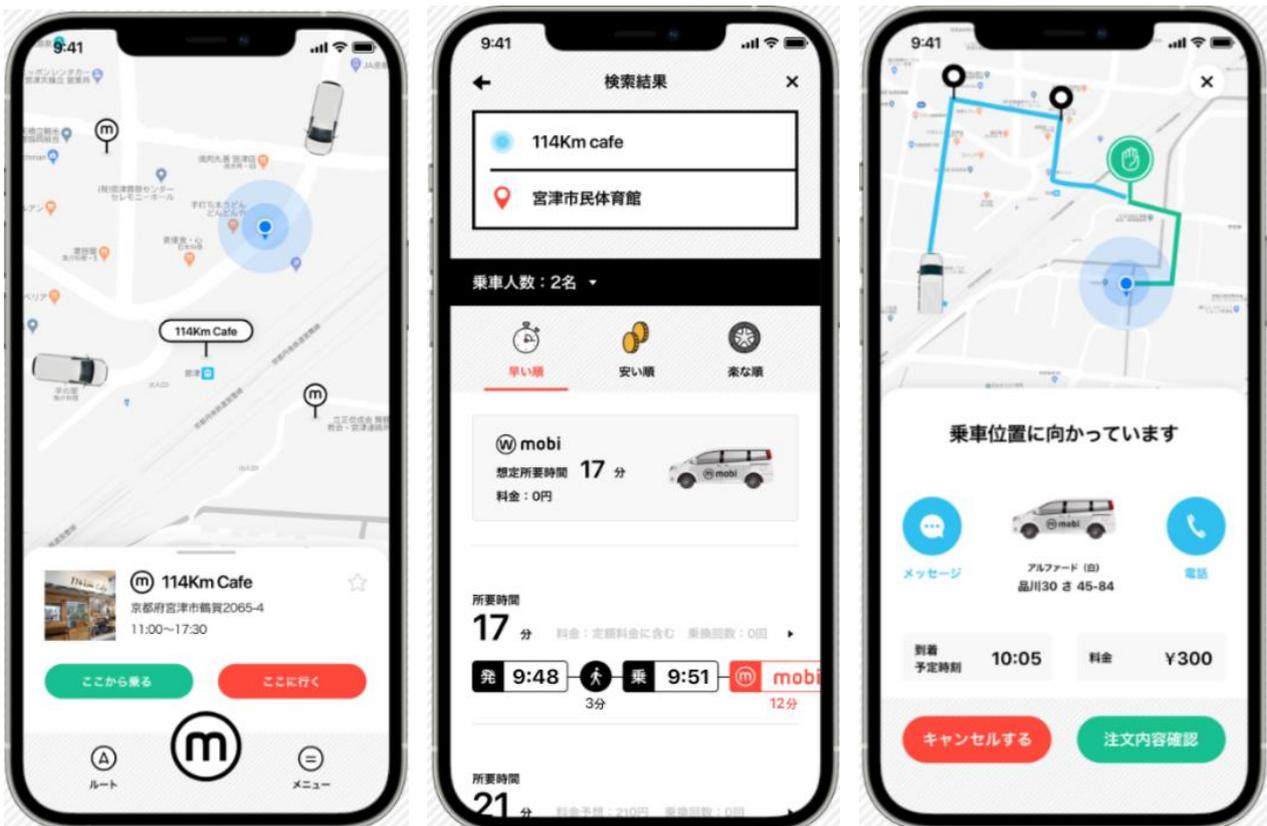
実施主体: 運行事業者

生活に必要な施設が集積する区域の移動の利便性向上を図るため、予約をすると、対象エリア内の好きな出発地から目的地まで送迎を行う新たな公共交通導入の検討を行います。

図表 123 AI オンデマンド交通(出典:国土交通省)



図表 124 フリー乗降できる予約制公共交通の例(出典:mobi)



■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
検討	実験*	実施*	実施*	実施*

※運行事業者と実現可能性を検証し、可能と判断すれば事業を実施

基本方針2 誰もが自動車に頼らなくても豊かに暮らせるよう地域公共交通の利便性を向上

2-1 市内の公共交通の安全性と利便性向上

① まりん号の見直し	実施主体：運行事業者、七尾市
------------	----------------

まりん号は、パターンダイヤで運行していますが、広い範囲を運行するため、過密なダイヤとなっています。また、ルートの一部で道路幅が狭くなっています。運転手への過度な負担を軽減し、安全に運行するため、過密なダイヤを解消し、道路幅に余裕のある区間を通るルートに改編します。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
検討	実施	実施	実施	実施

② 貨客混載での配送サービスの検討	実施主体：運行事業者
-------------------	------------

バス等の地域公共交通の一部のスペースを活用して荷物の運搬を行う、貨客混載での配送サービスを検討します。

図表 125 貨客混載での配送イメージ



■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
検討	検討	実施	実施	実施

③ タクシーの営業区域の見直しの検討	実施主体：運行事業者、七尾市
--------------------	----------------

営業区域を見直し、隣接区域でも営業が可能となるよう、運輸支局と協議を行いながら検討します。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
検討	実施	実施	実施	実施

2-2 市民へのわかりやすい情報提供

① バス路線沿線住民への周知活動	実施主体:七尾市
-------------------------	----------

人口が多いにも関わらず、利用の少ない地域の住民に対して、バスの利便性や利用方法に関する説明会を行い、利用啓発を行います。

■スケジュール

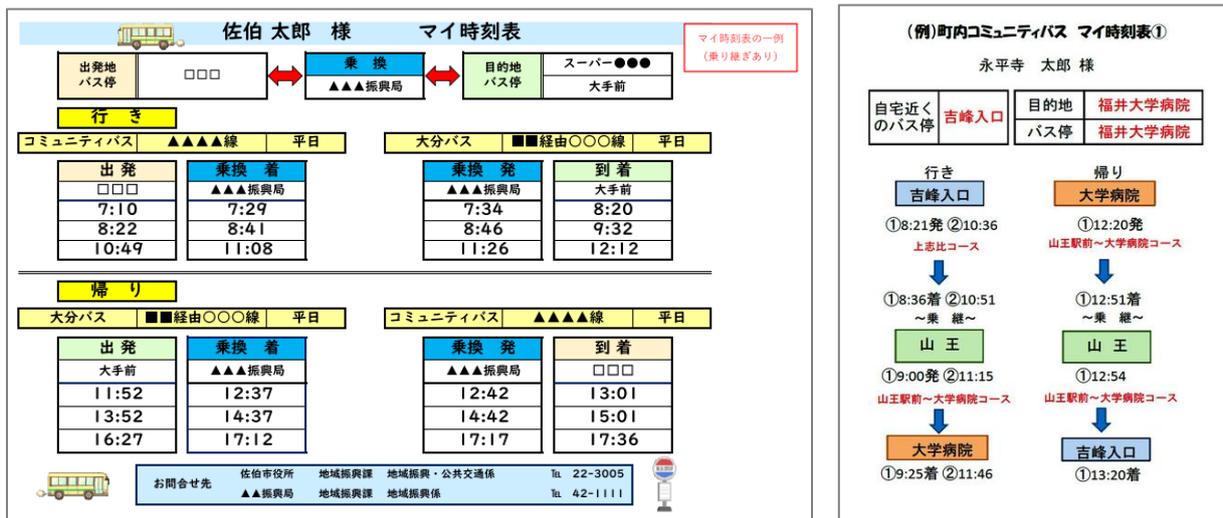
令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

② マイ時刻表の作成	実施主体:七尾市
-------------------	----------

買物や通院等でよく使うルートに絞った自分専用の時刻表(マイ時刻表[※])の作成を行います。

※:出発地(自宅)と目的地(病院、商店等)のあいだのバスの乗り継ぎを見やすく整理した時刻表

図表 126 マイ時刻表例(左:佐伯市、右:永平寺町)



■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

③ 検索しやすい環境の整備	実施主体:運行事業者、七尾市
----------------------	----------------

Google Maps や NAVITIME など検索できない路線があるため、検索サイトにデータを提供し、外国人や観光客を含む幅広い方たちへの情報提供を行います。

また、情報提供済の路線に関しても情報が正しいことを定期的に確認し、ダイヤ、ルート変更に対応します。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

基本方針3 市内全体で適切な地域公共交通サービスの提供を行う

3-1 利用状況に応じた効率的な運行

① コミュニティバスのバス停別利用者数の記録

実施主体:運行事業者、七尾市

コミュニティバスのバス停別乗降者数の記録を行い、利用実態をより詳細に把握し、今後の施策検討や業務改善につなげます。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

② コミュニティバスの利用状況に応じた便数の設定

実施主体:七尾市

コミュニティバス利用状況の変化を捉え、実態に応じた便数の設定を行います。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
検討	実施	実施	実施	実施

3-2 少子化に伴う対応

① スクールバス利用状況の把握と対応策の検討

実施主体:七尾市

児童生徒数の減少が見込まれ、スクールバスの利用者数が少なくなることが想定されます。継続的に、スクールバスの利用状況と児童生徒数の推移を把握し、児童生徒数に合わせたバスの更新や小中学生の同乗等の対応策を検討します。

検討にあたっては、スクールバス、路線バス、コミュニティバスの各運行事業者と教育委員会を交え、協議を行います。

■スケジュール※

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
検討	検討	検討	検討	検討

※検討し、必要があれば対応策を実施

基本方針4 市民・事業者・行政等、多様な主体が関わり、地域公共交通をつくる

4-1 多様な主体が関わるための仕組みづくり

① スクールバス運行のための調整

実施主体:運行事業者、七尾市

路線バス、コミュニティバスとして運行している車両をスクールバスとしても使用しており、学校行事、災害等による急なスクールバス運行時間の変更や増便に対応することが難しくなっています。路線バスとしての安定した運行とスクールバスとしての柔軟な運用の両立のため、スクールバスに関わる運行事業者とスクールバスの管理を行っている教育委員会、スクールバスの使用者である学校と、継続的に協議し、調整を行います。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
調整	調整	調整	調整	調整

② 地域住民主体のフィーダー路線の維持・拡張(再掲)

実施主体:地域住民、七尾市

現在、南大呑地区と鉾打地区で、地域住民が主体となってフィーダー路線としてデマンド交通を運行しています。また、能登島地域では交通事業者と地域住民が合同でデマンド交通の実証実験を始めています。今後、これらの地区をモデルとして、必要に応じて導入を検討します。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

4-2 地域公共交通利用のための意識醸成

① 地域公共交通に関する情報発信

実施主体:七尾市

市民に地域公共交通へ関心を持ってもらうため、地域公共交通に関する各種情報(公共交通利用者数、CO₂削減効果等)を、市のホームページ等情報ツールを活用して定期的に提示します。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

② 地域公共交通に親しむイベント等の開催

実施主体: 運行事業者、七尾市

公共交通を利用できる状況であっても自動車を利用する市民が大半である現状を踏まえ、継続的に地域公共交通に親しむイベントを開催し、過度な自動車利用の見直し、地域公共交通を守る意識の醸成を促していきます。

地域公共交通の利用経験がない人、あるいは不慣れな人等を対象とし、利用の動機づけを目的とした「電車・バス乗り方の出前講座」や「バスの体験乗車会」、季節ごとのイベント列車やバスの運行等を企画・開催します。

また、七尾市役所において、1月に1回程度の公共交通機関を利用した通勤を推進し、こうした取り組みを市内全体に波及させていきます。

図表 127 地域公共交通に親しむイベントイメージ



【のと鉄道 サンタ列車】



【バスの乗り方教室(他市)】

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

基本方針5 地域公共交通により、健康づくり、魅力づくり等、まちづくりを促進させる

5-1 施設やイベント等との連携

① イベントでの公共交通利用の呼びかけ	実施主体:七尾市
---------------------	----------

七尾市内で開催されるイベント等の広報において、利用できる地域公共交通と往復のダイヤを記載する等、自動車を持っていない市民も参加できるように促し、地域公共交通の利用促進を図ります。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

5-2 福祉の取組みとの連携

① 「通いの場」での相談会の実施	実施主体:七尾市
------------------	----------

フレイル予防の取組みとして市内各地で開催されている「通いの場」において、地域公共交通の利用促進に向けた出前講座や相談会を行います。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

② 生活支援コーディネーター等を通じた周知活動	実施主体:七尾市社会福祉協議会、七尾市
-------------------------	---------------------

地域公共交通を利用できる方に対して、高齢者の生活支援体制の推進を行う生活支援コーディネーター等を通じて地域公共交通の利用促進を行います。

まず、生活支援コーディネーター等に、地域公共交通の利用について学習してもらう機会を設け、理解を深めてもらいます。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

5-3 商工・観光の取組みとの連携

① 観光企画切符の販売	実施主体: 運行事業者
-------------	-------------

引き続き、観光客の移動に便利でお得な観光企画切符の販売を行います。

北鉄能登バスでは、七尾駅～和倉温泉間の路線バスが1日乗り放題となり、観光施設や飲食店等で割引や優待が受けられる「ななお わく楽フリーきっぷ」、のと鉄道では、近隣観光施設の優待割引がついた1日フリー切符「つこうてくたしフリーきっぷ」、能登島交通ではバス乗車券とのとしま水族館入館券に割引券がセットになった「のとしまくーぼん」の販売を行っており、観光客の地域公共交通の利用促進を図っています。また、新たな企画についても検討していきます。

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

② ラッピング車両の運行	実施主体: 運行事業者
--------------	-------------

現在、のと鉄道がアニメ「花咲くいろは」のラッピング電車を運行しています。さらに、七尾市が舞台の漫画「君は放課後インソムニア」のテレビアニメ化、実写映画化を機に、七尾市を広く周知し、誘客を促進するため、作品のラッピング列車を運行します。

今後も、七尾市ゆかりのコンテンツ発表に合わせ、バスや電車のラッピングを企画・実施します。

図表 128 ラッピング車両の運行イメージ



【のと鉄道「君は放課後インソムニア」ラッピング車両デザイン】

■スケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
実施	実施	実施	実施	実施

8章 計画の推進体制と進捗管理

本計画は、本市が目指す公共交通施策の基本方針を示したものであり、今後、この基本方針に即して各施策・事業の実施に向けた「方法・役割分担・予算化」等について具体的な検討を進めます。また、公共交通施策の実施は、他分野の施策と一体的に取り組むことで効果を発揮するものもあり、庁内関係課のみならず、国や県並びに周辺市町、公共交通運行业者などと緊密に連携しながら、将来のまちづくりを見据えた取組みを展開します。住民・地域と行政が協働して施策を推進するという観点に立ち、地域住民や町会等からの支援や協力を得て、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成を目指します。

事業内容については、計画に基づく事業の実施状況、目標指標の達成状況を定期的に確認・評価・検証を行い、改善や見直しを図るPDCAサイクルに基づき進捗を管理します。毎年、七尾市地域公共交通協議会によって進捗状況や効果を定量的・客観的に評価し、必要に応じて見直しを行っていくものとします。

図表 129 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
七尾市地域公共交通協議会			昨年度評価・確保維持改善計画						改編案検討・今年度評価				
実施事項	前年度の検証		今年度事業計画へ反映				次年度事業計画の策定			今年度事業計画 中間評価			

目標や事業等の達成状況を評価するため、収集データと実施主体案は以下のとおりです。

図表 130 収集する利用実績など

分類	収集データ	実施主体
JR 七尾線	利用者数	JR 西日本(株)
のと鉄道七尾線	利用者数	のと鉄道(株)
路線バス	利用者数	北鉄能登バス(株) 能登島交通(株)
コミュニティバス	利用者数	七尾市
	1便当たりの利用者数	七尾市
地域公共交通にかかる市負担	地域公共交通の運行・補助費用	七尾市
スクールバス	地域公共交通を利用する小中学生の人数	七尾市